

平成元年度発掘調査概報

茨木市教育委員会

はしがき

大都市周辺では、人口集中と土地高騰により住宅不足が、深刻なものになってきております。本市もその例外ではなく、市域全体で住宅と関連施設の開発整備が進んでおります。

しかし、住宅の開発整備は早急に実施されねばならないものであります、乱開発ではなく、私たちの子孫にも誇れる住みよい環境がともなう開発でなければならないと思います。

日本でも有数の弥生時代の大遺跡である東奈良遺跡および中条小学校遺跡地域は、とくに交通基盤整備がすすんでいるうえに土地にもゆとりがあるため、将来を見越しての中・高層マンションの建設ラッシュ状況下にあります。貴重な文化遺産が近年ない早さで消えつつあるこの時期だからこそ、開発と環境保護との調和とともに文化財の保存・保護にも十分考慮しなおさなければならないと思います。

今回発掘調査の概要を報告いたしますのは、昭和63年・平成元年度に実施した調査のうち、東奈良遺跡 6か所、中条小学校遺跡 1か所の計 7か所について合冊したものであります。

結びになりましたが、調査にご協力いただきました関係各位をはじめ、調査に参加された方々に深く感謝するとともに、今後の調査につきましてもご理解・ご協力たまわりますようお願い申しあげ、はしがきといたします。

平成2年3月

茨木市教育委員会

教育長 村山和一

例　　言

1 本概報は、東奈良遺跡・中条小学校遺跡における昭和63年6月から平成元年6月までの発掘調査結果の概要をとりまとめたものである。

なお、平成元年度発掘調査の中でも、長ヶ瀬古墳群・東奈良遺跡(89-4)H・N I - 5 - A地区の調査報告は来年度に報告する予定である。

2 発掘調査は、東奈良遺跡89-1を茨木市教育委員会社会教育課主査奥井哲秀、その他を茨木市教育委員会事務局文化財調査員(嘱託)井上直樹が担当して実施し、外業調査員中東正之氏の協力を得た。

整理作業は、平成元年4月から平成2年3月まで実施した。発掘調査と整理作業には、中東正之、大戸井浩一郎、神保忠宏、難波武史、藤田昌宏、林和博、桑原紀子、大戸井和江、田中良子、早川博子、峯松皓代、森木芳子、西坂泰子諸氏の協力を受けた。

3 発掘調査を実施するにあたっては、北浦綾夫、人羅昭夫、株若栄商事、株長谷工コ-ボレーション、田畠謙三、山田ハル、株関西電力の各位にご協力いただいたことに感謝いたします。

4 本概報の執筆は、本文を各担当者が、遺物実測を西坂・井上、遺物写真を井上が担当して行った。

5 東奈良遺跡の地区割りは、昭和47年設定のものを使用している。また、標高はT・P(東京湾標準高)を使用している。

本文目次

はしがき

例　　言

I 東奈良遺跡(88-5) H・N H-4-E・F地区	
1. 調査経過	1
2. 層位	1
3. 遺構	1
4. 遺物	3
5. 結語	5
II 東奈良遺跡(88-6) H・N H-4-M・N地区	
1. 調査経過	10
2. 層位	10
3. 遺構	10
4. 遺物	13
5. 結語	16
III 東奈良遺跡(88-8) H・N G-2-K・O地区	
1. 調査経過	26
2. 層位	26
3. 遺構	26
4. 遺物	29
5. 結語	29
IV 東奈良遺跡(88-9) H・N K-1-A・B・E地区	
1. 調査経過	31
2. 層位	31
3. 遺構	31
4. 遺物	32
5. 結語	32
V 東奈良遺跡(88-10) H・N H-4-A・B地区	
1. 調査経過	34
2. 層位	34
3. 遺構	34
4. 遺物	37

5. 結語	38
VI 中条小学校遺跡(89-1)	
1. 調査経過	45
2. 層位	45
3. 遺構	45
4. 遺物	47
5. 結語	48
VII 東奈良遺跡(89-1) H・N C-3-K・G地区	
1. 調査経過	51
2. 層位	51
3. 遺構	51
4. 遺物	53
5. 結語	53

図版目次

- 図版 1 (上) 東奈良遺跡(88-5) H・N H-4-E・F地区 全景(東より)
 (下) 東奈良遺跡(88-5) II・N H-4-E・F地区 全景(南より)
- 図版 2 (上) 東奈良遺跡(88-6) H・N H-4-M・N地区 東半(南より)
 (下) 東奈良遺跡(88-6) H・N H-4-M・N地区 溝-1(北より)
- 図版 3 (上) 東奈良遺跡(88-6) H・N H-4-M・N地区 溝-3
 (下) 東奈良遺跡(88-6) H・N H-4-M・N地区 土壌-9
- 図版 4 (上) 東奈良遺跡(88-8) H・N G-2-K・O地区 南半(南より)
 (下) 東奈良遺跡(88-8) II・N G-2-K・O地区 北半(北より)
- 図版 5 (上) 東奈良遺跡(88-9) H・N K-1-A・B・E地区 北半(西より)
 (下) 東奈良遺跡(88-9) H・N K-1-A・B・E地区 南半(北より)
- 図版 6 (上) 東奈良遺跡(88-10) H・N H-4-A・B地区 第I 遺構面(東より)
 (下) 東奈良遺跡(88-10) H・N H-4-A・B地区 第I 遺構面掘立柱建物跡
- 図版 7 (上) 東奈良遺跡(88-10) H・N H-4-A・B地区 第I 遺構面土壌 I-1
 (下) 東奈良遺跡(88-10) II・N H-4-A・B地区 第II 遺構面全景(北より)
- 図版 8 (上) 中条小学校遺跡(89-1) 東半(西より)
 (下) 中条小学校遺跡(89-1) 西半(北より)
- 図版 9 (上) 東奈良遺跡(89-1) H・N C-3-K・G地区 全景(南より)
 (下) 東奈良遺跡(89-1) H・N C-3-K・G地区 木棺-I

- 図版10 東奈良遺跡(88-5)H・N H-4-E・F地区出土の土器
- 図版11 東奈良遺跡(88-5)H・N H-4-E・F地区出土の土器
- 図版12 東奈良遺跡(88-5)H・N H-4-E・F地区出土の土器
- 図版13 東奈良遺跡(88-5)H・N H-4-E・F地区出土の土器・石器・土製品
- 図版14 東奈良遺跡(88-6)H・N H-4-M・N地区出土の土器
- 図版15 東奈良遺跡(88-6)H・N H-4-M・N地区出土の土器
- 図版16 東奈良遺跡(88-6)H・N H-4-M・N地区出土の土器
- 図版17 東奈良遺跡(88-6)H・N H-4-M・N地区出土の土器
- 図版18 東奈良遺跡(88-6)H・N H-4-M・N地区出土の土器
- 図版19 東奈良遺跡(88-6)H・N H-4-M・N地区出土の土器
- 図版20 東奈良遺跡(88-6)H・N H-4-M・N地区出土の土器
- 図版21 東奈良遺跡(88-6)H・N H-4-M・N地区出土の土器
- 図版22 東奈良遺跡(88-6)H・N H-4-M・N地区出土の土器・石器・鐵器
- 図版23 東奈良遺跡(88-10)H・N H-4-A・B地区出土の土器
- 図版24 東奈良遺跡(88-10)H・N H-4-A・B地区出土の土器
- 図版25 東奈良遺跡(88-10)H・N H-4-A・B地区出土の土器
- 図版26 東奈良遺跡(88-10)H・N H-4-A・B地区出土の土器
- 図版27 東奈良遺跡(88-10)H・N H-4-A・B地区出土の土器
- 図版28 中条小学校遺跡(89-1) 出土の土器
- 図版29 中条小学校遺跡(89-1) 出土の土器
- 図版30 中条小学校遺跡(89-1) 出土の土器
- 図版31 東奈良遺跡(89-1)H・N C-3-K-G地区出土の土器
- 図版32 東奈良遺跡(89-1)H・N C-3-K-G地区出土の土器
- 図版33 茨木市の遺跡
- 図版34 各調査地区位置図
- 図版35・36 東奈良遺跡(88-5) H・N H-4-E・F地区
- 図版37・38 東奈良遺跡(88-6) H・N H-4-M・N地区
- 図版39 東奈良遺跡(88-6) H・N H-4-M・N地区溝-3、土器溝り1
- 図版40 東奈良遺跡(88-6) H・N H-4-M・N地区上塙-7・9、甕棺墓
- 図版41 東奈良遺跡(88-8) H・N G-2-K・O地区
- 図版42 中条小学校遺跡(89-1)
- 図版43・44 東奈良遺跡(88-9)H・N K-1-A・B・E地区
- 図版45・46 東奈良遺跡(88-10)H・N H-4-A・B地区第I遺構面
- 図版47・48 東奈良遺跡(88-10)H・N H-4-A・B地区第II遺構面
- 図版49・50 東奈良遺跡(89-1)H・N C-3-K-G地区

図版51	東奈良遺跡(88-5)H・N	H-4-E・F地区出土の土器
図版52	東奈良遺跡(88-5)H・N	H-4-E・F地区出土の土器
図版53	東奈良遺跡(88-5)H・N	H-4-E・F地区出土の土器
図版54	東奈良遺跡(88-5)H・N	H-4-E・F地区出土の土器
図版55	東奈良遺跡(88-6)H・N	H-4-M・N地区出土の土器
図版56	東奈良遺跡(88-6)H・N	H-4-M・N地区出土の土器
図版57	東奈良遺跡(88-6)H・N	H-4-M・N地区出土の土器
図版58	東奈良遺跡(88-6)H・N	H-4-M・N地区出土の土器
図版59	東奈良遺跡(88-6)H・N	H-4-M・N地区出土の土器
図版60	東奈良遺跡(88-6)H・N	H-4-M・N地区出土の土器
図版61	東奈良遺跡(88-6)H・N	H-4-M・N地区出土の土器
図版62	東奈良遺跡(88-6)H・N	H-4-M・N地区出土の土器
図版63	東奈良遺跡(88-10)H・N	H-4-A・B地区出土の土器
図版64	東奈良遺跡(88-10)H・N	H-4-A・B地区出土の土器
図版65	東奈良遺跡(88-10)H・N	H-4-A・B地区出土の土器
図版66	東奈良遺跡(88-10)H・N	H-4-A・B地区出土の土器
図版67	中条小学校遺跡(89-1)出土の土器	
図版68	中条小学校遺跡(89-1)出土の土器	
図版69	各地区出土の石器・土製品・鉄器	
図版70	各地区出土の石器	

挿図・挿表目次

挿図-1	H・N G-2-K・O地区とG-2-C・P・G・H地区との遺構関連図	30
挿図-2	H・N K-1-A・B・E地区 東壁面方形周溝状遺構上層	33
挿図-3	H・N H-4-A・B地区 土壙I-1 土器出土状況図	39
挿図-4	H・N C-3-K・G地区 北壁面上層図	53
挿図-5	H・N C-3-K・G地区 磁(須恵器)出土状況図	54
挿表-1	H・N H-4-E・F地区(88-5)弥生式土器観察表	6
挿表-2	H・N H-4-E・F地区(88-5)土師器観察表	8
挿表-3	H・N H-4-E・F地区(88-5)土製品・石器観察表	9
挿表-4	H・N H-4-M・N地区(88-6)弥生式土器観察表	17
挿表-5	H・N H-4-M・N地区(88-6)土師器観察表	18
挿表-6	H・N H-4-A・B地区(88-10)弥生式土器観察表	40

挿表-7	H-N H-4-A・B地区(88-10)上器観察表	42
挿表-8	中条小学校遺跡(89-1)上器観察表	49

I 東奈良遺跡(88-5) H-4-E・F地区

1. 調査経過

所在地 茨木市沢良宣西1丁目

調査面積 360m²

調査期間 昭和63年6月1日～7月22日

届出理由 共同住宅建設

東奈良遺跡H-N H-4地区は、昭和63年から平成元年にかけての発掘調査をもってほぼ全城の調査を実施したことになる。その調査結果によると、弥生時代中期・古墳時代前期の2面の生活面がみられ、特に同時期の大形の溝が検出されるところである。そのため、全体に含水性の高い砂・砂質土が広がっている関係から、住居・土壙など集落と墓などには適さないためか、その検出例は当地区の北側に比較して皆無に近い。

昭和63年3月17日、マンション建設に伴う埋蔵文化財確認調査依頼によって試掘調査を実施した結果、現G-L-0.7mから遺物が検出された。さらに上記のように遺構・遺物が検出される可能性が高いため、発掘調査の必要があることを依頼者に報告する。その後、依頼者と茨木市教育委員会との協議の結果、昭和63年6月1日から発掘調査を実施することが決定した。

2. 層位(図版35・36)

当地区的基本層位は、上層より耕土・床土、弥生時代中期～古墳時代後期にかけての遺物を含む淡茶灰色砂質土層・黄白色粘質土層が調査地区全体に広がって堆積している。以下、大形溝状遺構の堆積の影響を受けて複雑な砂・砂質土・粘質土が互層状態を成している。弥生時代中期～古墳時代前期にかけての生活面は、青灰色粘土層(一部黄灰色粘土層)であり、平均標高約5.7mを測る。弥生時代前期の生活面は、灰色粘土層であり、同じく約5.3mを測る。また、調査地区南西部で砂質土層の互層状態の中に、弥生時代中期の土器片が土器溜め状態で検出された。

3. 遺構(図版35・36)

当調査地区からは、弥生時代前期から同後期の大形の溝1条、土壙1基、少数の柱穴跡が検出された。

溝-1

溝-1は、調査地区内の南東部を北東から南西に通る断面V字形の溝で、溝幅約4.0m、深さ約1.18mを測り、溝底は南西に低くなっている。溝は、弥生時代中期の生活面青灰色粘土層(一部黄灰色粘土層)の下層の、灰色粘土層より掘られており、溝-1の南西部は溝-3によって、北東部は溝上部が溝-2によってそれぞれ切られている。溝内には、

レンズ状に5層に分けられる粘土・粘質土・砂土が堆積しており、下層の黒色粘土より畿内第I様式の壺・甕の土器片が僅かながら出土している。これらの点から、溝-1は弥生時代前期の溝と思われる。また、その関係は調査地区外であるため明確でないが、溝-2の最下層の溝と出土遺物の時期並びに層位が同一であることから、交差・合流するものと思われる。

溝-2

溝-2は、調査地区内を北西から南東に連なるが、その大部分が調査地区外に延びるため溝の規模・性格などは明確でない。溝は、出土遺物・層位から弥生時代前期と同中期、古墳時代前期の3時期に渡って存在し、同前期は溝-1と同じく灰色粘土層を溝肩とし、同中期は青灰色粘土層(一部黄灰色粘土層)を肩として掘られている。また、上層の古墳時代前期の溝は調査地区北部では溝-3(E)の堆積層と交わっており、層位的には溝-3(E)埋没後に溝-2は掘られている。

弥生時代前期の溝-2は、灰色粘土層を溝肩として、なだらかな傾斜で掘られており、調査地区内では溝の西肩のみしか検出されなかつたため明確でないが、北から東へほぼ直角に蛇行しているものと思われる。しかし、その形態と周辺の調査から同時期のこれほどの規模の溝が検出されていないことから、溝でなく沼地のような落ち込みであったとも考えられる。その規模は、幅8m以上、深さ0.8m以上を測る。落ち込みの中・上層は、同中期の溝によって削平されており、最下層の黒色粘土層が底から肩にかけて薄く検出されたのみである。同粘土層より畿内第I様式の土器片が僅かに検出された。

弥生時代中期の溝-2は、調査地区的東半を溝-3(E)と並行して北西から南東に連なり、溝-1を削平している。溝肩を越えた堆積土は、溝-3のそれと交わって調査地区全体に広がっている。溝-2の規模は、その全体を検出してないため明確でないが、幅10m以上、深さ1.2m以上を測る。また、その堆積層の状態と出土遺物から、同時代中期(畿内第III様式)以降溝は造られ、同中期(畿内第IV様式)墳壙没した。その後、古墳時代前期墳幅1~2m・深さ0.4~0.6m前後の自然流路が何度もでき、また埋まるといったことを繰り返して、溝は短期間で完全に埋没する。

溝-3

溝-3は、調査地区中央を北西から南東に、並行して連なる溝-3(W)と同(E)の2条の溝である。2条の溝は、調査地区北部では合流するが、南部では、幅1.5m以上の堤をもって分流する。層位的には、溝-3(E)埋没後に同(W)が掘られている。

溝-3(E)は、西肩の上層は同(W)によって削平されているため規模は明確でないが、幅5m以上・深さ2.03~2.15mを測る断面U字形の大形の溝で、底部は北から南へ僅かに低くなってしまい、平均標高3.6mである。また、調査地区南東部で、溝-1を削平している。溝内にはレンズ状あるいはブロック状に砂・砂質・粘質土・植物遺体層が互層状態を成して、複雑に堆積している。上層は溝-3(W)の堆積層と重複しているため、溝-3

(E)の遺物として取り上げておらず、中・下層の各層から畿内第II様式～第IV様式の土器が検出された。

溝-3(W)は、東側を同(E)の上層を削平して連なる幅約8m、深さ2.08～2.17mを測る断面U字形の大形の溝で、底部は一部2段の肩を成す。また底部は北から南へ僅かに低くなっている、平均標高3.55mである。溝内には、砂・砂質土・植物遺体層がレンズ状あるいはブロック状に互層状態を成して、複雑に堆積している。上層の堆積層は他の溝と同じく、溝肩を越えて広く広がり、西側の生活面には、流れによって削り取られたと思われる落ちこみが見られる。また、激しい流れを思わせる痕跡として、溝の壁面が抉り取られて、その粘土が溝の堆積層内に土状になって転がっているのが観られた。遺物は、上・中・下層の3層に別けて検出を試みたが、溝の堆積状態からみても層位的検出は困難であり、事実各層での遺物の時期差はほとんど無く、比較的上層に古墳時代前期が多く、中・下層に畿内V様式が多くみられた程度である。その他各層から機内第III～第IV様式の土器片が、少ないながらも検出されている。

土壤1

土壤-1は、溝-2の堆積層上に位置する幅0.62m、深さ0.25mの円形すりばち状土壤で、土壤内には灰色砂質土が堆積しており、畿内第III様式の土器片が検出されたが、層位的には弥生時代後期～古墳時代前期頃のものと思われる。

柱穴跡

当調査地区は、調査面積の60%以上を溝状遺構が占めているためもあり、柱穴跡は少なく、11穴のみであった。そのいずれもが、径0.1～0.2m、深さ0.05～0.15mほどの小形のもので、時期も土壤-1と同じく溝-2の堆積層上に位置することから、弥生時代後期～古墳時代前期頃のものと思われる。

4. 遺 物(図版51～54・69・70)

当調査地区からは、コンテナパットに約45箱の遺物が出土した。その多くは、溝-2と溝-3(E)・(W)である。しかし、その多くは溝出土の土器であるため細片が多く、復元・図示できるものは少なかった。また、溝自体も遺物の層位的検出が困難であったため、明確な層位的差が認められない。他に石器・銅錫型土製品などが出土している。以下、各遺構別に記述していく。なお、古墳時代前期の土器に関しては、東奈良遺跡の土器編年(東奈良遺跡調査報告1 昭和54年)を使用している。また個々の土器の詳細は、土器観察表を参照されたい。

溝-2

溝-2からは、上・中・下・最下層より畿内第I様式～古墳時代前期の土器が出土したが、いずれも細片が多く、図示できるものは少なかった。

弥生式土器

壺1・2、甕3・4は、いずれも破片ながら畿内第I様式。その他図示できなかったが、畿内第I様式の壺・甕の口縁・底部片が最下層の黒色粘土層から出土している。無頸鉢5は畿内第III様式、壺7は畿内第III様式、甕13は畿内第IV様式、高杯22は、内傾ぎみに立ち上がる浅い鉢型の坏部の畿内第IV様式。そのほか脚部の12・24が出土しており、いずれも下層並びに中層出土である。

土師器

甕31・32は東奈良IIIに位置すると思われ、上層出土である。そのほか同時期の細片が出土しているが図示できるものは少なかった。

溝-3(E)

溝-3(E)は、上層を溝-3(W)によって削平されているため、中・下層の2層に別けて十器を検出している。下層は中層に比較して川字量が少なく、図示できるものもなかつたが、いずれも畿内第III～第IV様式である。

弥生式土器

壺6は太い頸部から外反し、口唇部で上下に肥厚するタイプで、畿内第III様式。同14は口唇部が下方に大きく肥厚するタイプ、15・17は口縁部がくの字形に外反し、口唇部で立ち上がるタイプ、18は無頸甕で、いずれも畿内第IV様式。甕9は肩部にモミを押し付けたような記号が3ヶ所見られる。同10・20は人形品で、10には口唇部端面に川線紋を施す。9は畿内第III様式、10・20は第III～第IV様式である。鉢23は口唇部外面に2条の川線紋を施す第IV様式である。その他壺蓋26が出土している。

溝-3

溝-3(W)は、上・中・下層の各層から畿内第V様式～古墳時代前期の土器が出土しており、特に上・中層から多くの土器が出土した。

弥生式土器

下層川土の壺27は、長頸壺と呼ばれるタイプで、口頸部にヘラによる記号のようなものが描かれている。中層出土の同28は、27に比較して口唇部でやや外反し、同じく肩部にヘラ記号が描かれている。甕29は下層出土、台付き片口の同30は上層出土、中層川土の甕40は口唇部外面に粘土紐をたし厚く肥厚させている。いずれも畿内第V様式である。

土師器

甕34・35は、口唇部端部に横ナデによる面を持ち、叩き目も底部まで行っていない突出平底であることから畿内第V様式の要素を残す東奈良Iである。同36・38は叩き目を底部まで行い、37は底部底にも叩き目を行っている。36・38は東奈良II、37は同IIIである。

土器溝

調査地区南西部で、淡灰白色砂質層の一部に淡茶灰色砂質層が互層状態で検出され、多くの畿内第III～第IV様式の土器片が出土したが、図示できるものは2点のみであった。

弥生式土器

壺16は、口縁部がくの字型に外反し、口唇部で立ち上がるタイプ。用途不明の39は、底部・側面に多数の穴を穿ち、口唇部にも一对の穴を穿った多孔土器。内面には淡灰白色の付着物が残っている。

包含層

調査地区全体に広く堆積していた淡茶灰色砂質層・黄白色粘質土層より畿内第III様式～古墳時代前期が出上している。

弥生式土器

壺8は口頭部を欠くが、胴部に雜な櫛描き直線紋と波状紋を施す。11は口縁部外面に櫛描き廉状紋・向波状紋を施す。いずれも畿内第III様式である。その他、畿内第IV様式の甕19・高杯21・同脚部25が出上している。

その他の遺物

銅鐸型土製品41は、盤の部分のみであるが、両面に鋸歯紋が施されていた溝-3(W)上層出土である。溝-3(E)出土の土製品42は、用途が不明確であるが、径4.6cm・長18.5cm・重さ505gを測り、長軸のはば中心に穴を貫通させていることから、大型の土鍤とも考えられる。

石器

石器としては、溝-3(E)中層から石槍43・蛤刃石斧44、他に土器溜りから扁平石斧46が、包含層から朴状石斧45・環状石斧47・石包丁48が出土している。

5. 結 語

当調査地区は、弥生時代前期から古墳時代前期にかけての溝状遺構が集中する箇所であった。弥生時代前期には北東から南西に連なる溝-1が存在し、溝-1埋没後弥生時代中期中葉ころ、北西から南東に連なる溝-2・3(E)が造られた。溝-2・3(E)が埋没あるいはその機能を失った頃の弥生時代後期には再び、溝-3(E)にはば並行する溝-3(W)が造られている。各溝が人口のものか自然のものか明確でないが、大形の溝が長期間必要であった環境がこの付近一帯にあったものと思われる。

HN H-4-E・F地区(88-5)弥生式土器観察表

()現存値

岡坂番号 字貫-支割番 十形番号	遺 墓	出 量 (kg)	形 態	技 術	考
13-51 1	溝-2 最下層	口徑 16.8 腹径 一 底径 一 器高 (5.7)	彌部から大きく外反する後縁部。 口輪部は、丸株をもった面をもつ。	口輪部内外面は鏡面で、他は風化によって不明。腹面にヘラ削き沈板紋2条を有す。	浅乳白色 2~5mmの砂粒を含む。 良好
13-51 2	溝-2 最下層	口徑 一 腹径 9.3 底径 4.4 器高 (6.6)	丸株をもった体部。底部は、体部に比較して人さく、器底も厚い。	体部外面はヘラ削き、底部外面は指ねぎ。 他は風化によって不明。	浅乳白色 2~5mmの砂粒・金属 粒を含む。 良好
13-52 3	溝-2 最下層	口徑 34.7 腹径 一 底径 一 器高 (8.0)	口縁部は強く外反し、口輪部は丸く終る。	口縁部外面に磨かされ、内外面は鏡面で、体部外面は鏡面へラ削き、他は風化によって不明。	浅乳白色 0.5~5mmの砂粒を多 く含む 良好
13-52 4	溝-2 最下層	口徑 18.7 腹径 一 底径 一 器高 (8.8)	大きく外反する口縁部。口唇部は、丸株 のある面をもつ。	口縁部外側とも横なたで、体部外面は 鏡面へラ削き。内面は風化によって剥離不 明。底部に幅広いヘラ削き沈板紋6条、 口輪部端面に対孔目状を有す。	乳白色 2mm程の砂粒を多く含 む。 良好
13-51 5	溝-2 下層	口徑 34.8 腹径 38.6 底径 一 器高 (10.4)	最大腹部底と内傾ぎみに立ち上がり、 張部行近で直立する。口輪部は水平に短 く崩れ、口輪部端面に面をもつ。	口縁部、腹部は、内外面とも横なたで、体部 外側ともなって調整。腹部から最大腹部 まで、直線放で折り、波状線で終る。腰 部を交互にす。	乳白色 1~3mmの砂粒、クサ レ繊維を含む。 良好
13-51 6	溝-3(E) 中層	口徑 20.8 腹径 一 底径 一 器高 (11.8)	外傾ぎみの腹部から、口縁部で大きく外 反する。口唇部は上・下に肥厚し、内傾ぎみの面を もつ。	口縁部から腹部上位まで内外面とも横 なたで、腹部(笠)内面は筋立向、体部張 力なので、外側は筋立向のハケ貝調整 が施る。腹部から肩部にかけて波状紋、回 転紋を施す。口輪部内面に対孔紋。口 輪部端面に凹凸紋を施す。	深褐色 0.5~1mmの砂粒、ク サレ繊維、金雲母を含む。 良好
10-51 7	溝-2 下層	口徑 21.6 腹径 一 底径 一 器高 (12.7)	太い腹部から大きく外反する口縁部。口 唇部は上・下に肥厚し、内傾ぎみの面を もつ。	口縁部から腹部上位まで内外面とも横 なたで、腹部(笠)内面は筋立向、体部張 力なので、外側は筋立向のハケ貝調整 が施る。腹部から肩部にかけて波状紋、回 転紋を施す。口輪部内面に凹凸紋、口 輪部端面に凹凸紋を施す。	乳白色 0.5mm程度の砂粒、ク サレ繊維を含む。 良好
10-51 8	包含層	口徑 一 腹径 16.2 底径 4.4 器高 (11.8)	最大腹部の張りが大きく、体部中位にあ る。	体部内外面の調整は、風化が著しく不明 おらずに体部(笠)下位に横なハケ貝と調整 が施る。腹部から肩部にかけて波状紋、回 転紋を施す。口輪部内面に凹凸紋、口 輪部端面に凹凸紋を施す。	浅乳白色 1mm程の砂粒、ク サレ繊維を多数含む。 良好
10-52 9	溝-3(E) 下層	口徑 13.9 腹径 16.2 底径 5.7 器高 21.4	彌形に比較して、大きい底部。最大腹部 は上位にある。口縁部は大きく外反し、 口唇部で上方にわざかにまみ上げ、面 をもつ。	口縁部、腹部は内外面とも横なたで。体 部は筋立向の後なので、内面腹部は筋立 向、体部は筋立向の後筋立向。内面張 力で前筋立向が3カ所。最大腹 部下位に横くすり付す。	深灰黄色 5mm程の砂粒を含む。 良好
-52 10	溝-3(E) 下層	口徑 28.4 腹径 一 底径 一 器高 (11.8)	大きく張った彌形。口縁部は「く」字形 に外反し、口唇部端面で上方に肥厚する。 面をもつ。	口縁部、腹部は内外面ともに横なたで。体 部は筋立向の後なので、内面腹部は筋立 向、体部は筋立向の後筋立向。内面張 力で前筋立向が3カ所。最大腹 部下位に横くすり付す。	乳灰黄色 豊砂粒を含む。 良好
53 11	包含層	口徑 36.0 腹径 一 底径 一 器高 11.8	体部下位より内傾ぎみに立ち上がり、口 唇部端面は断面V角形をなし、内面にわ ざかにまみ出している。	口縁部内外面とも、横筋紋波状紋模様など 体部内外面筋立向のヘラ削き、内面横筋立向 の後で、口唇部へラ削き。口縁部外 面に筋立向筋紋波状紋を施す。	浅乳白色 1~3mmの砂粒を含む。 良好

回収番号 学名-英語名 +標番号	種	体 高 (cm)	形 態	技 術	備 考	
- 53 12	薄-2 下層	口徑 腹径 底径 基高 (5.9)	口徑 腹径 底径 基高 (11.6)	開口きの下さい解剖。開端部は丸く終わる。	開端部内外面は黒ハケ目網状、端部は楕円形で、紋様は上より縦な筋状紋様。ヘア拂子紋様5-6条。ヘア底部細紋、ヘア頭部粗紋1条を有す。	乳白色 1mmの黑色砂粒を含む。 良好
10-51 13	薄-2 下層	口徑 腹径 底径 基高 (11.6)	口徑 腹径 底径 基高 (11.6)	太い腹部から、外反する口部部。口部部は下方へ肥厚し、頭部へ至る。	口部部は内外面とも楕円形で、腹部に内凹しておらず、外側に小さな黒斑紋がある。口部部外面に凹筋紋7条、點状凹筋紋3条、周内面に横筋状紋様、頭部に凹筋紋2条、脇部横筋状紋を施す。	乳白色 0.5-1mmの砂粒とクサ纏を含む。 良好
10-51 14	薄-3(E) 中層	口徑 腹径 底径 基高 (4.8)	口徑 腹径 底径 基高 (4.8)	腹部から外反する口部部。口部部は下方へ肥厚し、頭部もつ。基部に比較して、基部が厚い。	口部、頭部は内外面とも楕円形で、口部部外面に凹筋紋3条、點状凹筋紋7条、周内面に横筋状紋を施す。	淡乳白色 0.5mm前後の砂粒とクサ纏を含む。 良好
13- 15	薄-3(E) 中層	口徑 腹径 底径 基高 (16.6)	口徑 腹径 底径 基高 (16.6)	太い腹部から外反し、角張り、外側がのみ立ち上がる口部部。口部部は内面に肥厚する。	口部部外側上位から内面にかけて、楕円形で、口部部外側下位から腹部部は楕円形のハケ目。頭部に内凹方向へのハケ目、頭部に外凸方向へのハケ目調節を行っている。頭部に横筋と點状筋紋を施す。	淡灰黄色 1~2mmの砂粒、黄褐色を含む。 良好
10-51 16	気泡層 (+標番号)	口徑 腹径 底径 基高 (16.7)	口徑 腹径 底径 基高 (16.7)	内凹する腹部から外反し、角張り、外側がのみ立ち上がる口部部。口部部は内面へわざかに肥厚する。	口部部外側は内外面とも楕円形で、他は楕円化がややしく不鮮明であるが、外側を除く内側に横筋方向へのハケ目調節を行っている。頭部に横筋と點状筋紋を施す。	乳白色 0.5-1mmの砂粒とクサ纏を含む。 やや軟質
- 51 17	薄-3(E) 中層	口徑 腹径 底径 基高 (6.8)	口徑 腹径 底径 基高 (6.8)	口部部に、大きく外反し、角張りして外側がのみ立ち上がる口部部。口部部は内面へわざかに肥厚する。	口部部折部は内外面とも楕円形で、他は楕円化がややく不鮮明であるが、外側を除く内側に横筋方向へのハケ目調節を行っている。頭部に横筋と點状筋紋を施す。	淡灰黄色 1mm前後の砂粒と金糸舟を含む。 良好
13-51 18	薄-3(E) 下層	口徑 腹径 底径 基高 (12.1)	口徑 腹径 底径 基高 (12.1)	最大腹部は口より上位にあって、よく張っている。口部部は内凹し、口部部で内面に起始する筋状紋。	口部部外側は内凹面とも楕円形で、他は楕円化がややく不鮮明であるが、外側を除く内側に横筋方向へのハケ目調節を行っている。頭部に横筋と點状筋紋を施す。	淡灰褐色 砂粒を含む。 良好
13-52 19	包含層	口徑 腹径 底径 基高 (15.0)	口徑 腹径 底径 基高 (15.0)	最大腹部が体部上位にある。口部部は、「U」の字形に変形し、はさみで上に肥厚し頭部をもつ。	口部・頭部は楕円形で、体部内面下位に腹、下位に横筋方向へのハケ目調節。外側は楕円化のため不鮮明。	淡乳白色 1~3mmの砂粒を含む。 良好
52 20	薄-3(E) 中層	口徑 腹径 底径 基高 (12.2)	口徑 腹径 底径 基高 (12.2)	内側がのみ立ち上がる腹部。幅広く外反する口部部。上下にわざかに肥厚する口部部。	口部部内外面とも楕円形で、腹部から体部上位は、黒ハケ目が後で、その後横筋方向へのハケ目。内側は斜、腹方へのハケ目調節。	暗褐色 砂粒を含む。 良好
11-53 21	包含層	口徑 腹径 底径 基高 (12.5)	口徑 腹径 底径 基高 (12.5)	外側下位に内側がのみ伸び、角張りして新上方に立ち上がる。口部部は内外に肥厚する。凹筋状紋。	口部部折部は内外面とも楕円形で、口部部下位は、内外面とも楕円化が著しく不鮮明であるが、ヘア巻きと思われる。	乳白色 1~3mmの砂粒を含む。 黒斑点外側に黒基盤。 良好
- 53 22	薄-2 下層	口徑 腹径 底径 基高 (9.4)	口徑 腹径 底径 基高 (9.4)	算葉の呼吸。口部部は内凹し、口部部で内外に肥厚する。	口部部内外面は楕円形で、新下方に腹方へのハケ目、外側に厚筋が著しく不鮮明。	淡灰黄色0.5~2mmの砂粒とクサ纏を含む。 良好
13-53 23	薄-3(E) 中層	口徑 腹径 底径 基高 (8.8)	口徑 腹径 底径 基高 (8.8)	体部は直立より内側がのみ立ち上がり、口部部で内面へ肥厚する。	口部部内外面は楕円形で、体部外側中央から下部は黒ハケ目、周内面は黒ハケ目。口部部外側に凹筋紋2条を施す。	淡灰褐色 0.5~2mmの砂粒とクサ纏を含む。 良好

試験番号 等級 実測高 上部番号	測 標	法 量 (cm)	形 素	技 素	備 考	
- 58 24	溝- 1 下層	口径 底径 底厚 基高 (11.4)	— — 12.2 (11.4)	脚台部のみ残存。太い中空柱状部から斜めに斜ぐ根部。	柱・根部外面は葉へう巻き、同内面なし。 根部内部は横なで。円板充填法。	地表黄色 1~2 mmの砂粒と金銀色を含む。 良好
53 25	包衣層	11径 底径 底厚 基高 (15.2)	— — 15.3 (15.2)	脚部のみ残存。両自ぎみの小型柱状部から下方へ大きく外反する根部。根端部は上下へ肥厚する。	柱・根部外面は葉へう巻き。根部内部はへう折り。根部内部は横なで。円板充填法。	地表褐色 2~3 mmの砂粒を含む。 良好
13- 51 26	溝- 3 (W) 中層	口径 底径 底厚 基高 (3.9)	— — 17.0 (3.9)	茎葉用鉢附土層。端部下方へわずかに肥厚し、小さな丘をもつ。	内面は横なで。端部は横なで。	地表褐色 微砂粒を含む。 良好
11- 53 27	溝- 3 (W) 下層	口径 底径 底厚 基高 (13.2) 18.1 3.3 31.1	13.2 18.1 3.3 31.1	完形化。両自ぎみの門型状の口部。突出平面の底部。底部の張りが大きく、底基高より大きい。	口部は持続えの後なで。口部、底部内面はなで、外側に葉へう巻き。体部は側面内のハケ筋の後で、粗く側方向への葉へう巻き。根部はへう折り。体部に粘土質の巻き跡が残る。体部下部に円形の黒斑。	地表色 0.5~1 cmの砂粒を含む。 良好
- 53 28	溝- 3 (W) 中層	11径 底径 底厚 基高 (15.2)	12.8 — — (15.2)	円筒状の根部から、外反する口部。	11径・口部部は内外面とも横なで。根部外面は斜め方向のハケ筋、同内面は持続えと無調整に近いなで。底部にへう折り。	地表黃褐色 0.5~1 cmの砂粒とクサレ穂を含む。 良好
12- 52 29	溝- 3 (W) 下層	口径 底径 底厚 基高 (13.3) 12.5 5.7 12.6	13.3 12.5 5.7 12.6	倒錐形の体部をなし、口部端は外反し、張りより大きい。11基部に小さな丘をもつ。端部は茎葉に比較して大きい。	口部・端部は内外面とも横なで。体部内外面はなで。底部は根折れ。体部上部に薄く筋が付着する。	地表色 1 cm前後の砂粒を含む。 良好
11- 52 30	溝- 3 (W) 上層	口径 底径 底厚 基高 (13.1) 12.7 8.6 15.1	13.1 12.7 8.6 15.1	脚台部が付く底。最大直径は体部上位にある。張りが弱り、口部端が外反し、11基部で上方へわずかにつまみ上げており、片口のみになっている。	口部・端部は内外面とも横なで。体部外面は葉へう巻き。体部内面と脚台部内外面ともなで。体部中位に横筋。	地表灰褐色 1 cm前後の砂粒を含む。 良好
11- 54 39	包衣層 (上部張り)	口径 底径 底厚 基高 (6.4) 7.2 4.6 8.0	6.4 7.2 4.6 8.0	口部端はやや内側し、体部上位がやや張る。底部が弱り、口部端が外反し、11基部の多くが穿孔があり、11基部にも1カ所の穿孔がある。	口部端は内外面とも横なで。体部外面はハケ筋。内面は白褐色の付着物のため不明。	地表褐色 1~2 mmの砂粒を含む。 良好
12- 53 40	溝- 3 (W) 小層	口径 底径 底厚 基高 (23.2) — 3.1 11.8	23.2 — 3.1 11.8	根茎土層。小さな突出ぎみの底部から外上方へのがら根部。口部端に粘土質の巻き跡が見えて肥厚させている。	口部端は横なで横なで。体部内外面とも放射状のハケ筋が現れる。底部根折れ。 1 m (厚さ0.9cm)	地表褐色 0.5cmと5 cmの砂粒を含む。 良好

HN H-4-E・F地区(88-5)土師器観察表

()現存値

試験番号 等級 実測高 上部番号	測 標	法 量 (cm)	形 素	技 素	備 考	
- 54 31	溝- 2 上層	口径 (17.4) 底径 底厚 基高 (7.1)	— — — (7.1)	外反ぎみの根部から、外反する11根部。口部端は被をもってさらに外反すると思われるが剥離している。	口部端は内外面とも横なで。底部、豆芽外面は葉へう巻き、同内面なし。11根部中位に根折れ状態を残す。	地表黄色 2 cm前後の砂粒とクサン穂を含む。 良好

国版番号 号系+実測値 +器番号	遺 墓	法 量 (cm)	形 種	特 性	備 考
- 54 32	第-2 上層	II径 19.1 腹径 — 底径 — 器高 (7.9)	二重口縁。瓶状腹部から本体近くに細狭し縦をもって外反する口縁部。II唇部は丸く終わる。	II壁面は内外面とも擴なで、内面は横方向のへら筋と、外面上に無い横・縦方向のへら筋。底は内外面ともなで。	乳白色 1~3mmの砂粒とクサン繊維を含む。 良好
54 33	第-3 (W) 上層	II径 — 腹径 18.3 底径 — 器高 (13.3)	底部のみ残存。丸底の様の体部。	内外面とも風化が著しく調査不良。	白褐色 0.5~1mの砂粒とクサン繊維を含む。 良好
- 54 34	第-3 (W) 上層	II径 16.2 腹径 17.5 底径 4.0 器高 21.6	体部は最大径部が上位にあって、瓶長である。口縁部は外反し、口縁部で折れ上り方へつまみ上げ面をもつ。底部は丸底である。	II唇部は内外面とも擴なで、体部外側は右上方の印き目3段。一部なで、底部に木製模様がある。	乳白色 1~3mmの砂粒とクサン繊維を含む。 良好
- 54 35	第-3 (W) 上層	口径 14.8 腹径 — 底径 — 器高 (6.4)	体部は肩部が弧形。口縁部は外反し、口縁部でつまみ上げ面をもつ。	口縁部は内外面とも擴なで。体部外側は右上方の印き目3段。内面は折れ目、ハケ目を行っている。	淡灰褐色 1~3mmの砂粒を含む。 良好
12-54 36	第-3 (W) 上層	口径 16.2 腹径 19.4 底径 5.9 器高 26.7	最大腹径が中央にある瓶長の体部。口縁部は外反し、口縁部は小さな面をもつ。底は丸底。	II唇部は内外面とも擴なで。体部外側は右上方の印き目2段。内面は横方向のハケ目の後なで、体部中位より上部に厚く施釉行差。	淡灰褐色 2~7mmの大砂粒を多く含む。 良好
12-54 37	第-3 (W) 上層	口径 15.4 腹径 18.3 底径 4.5 器高 19.5	最大腹径が側面より大きくなる。体部中位やや上位に位置する。外反ぎのある腹部よりさらに外反するII唇部。口縁部は小さな面をもつ。底は丸底。	II唇部は内外面とも擴なで。体部外側は右上方の印き目2段。内面は擴なで、底部は印き目。底部上位より上部に厚く施釉行差。	淡灰褐色 1~3mmの砂粒を多く含む。 良好
12-54 38	第-3 (W) 上層	口径 15.2 腹径 18.7 底径 2.2 器高 12.2	最大腹径が中央より上位にあり、器高より腹径が大きい。口縁部は外反し、口唇部に小さな面をもつ。腹部内面に縫がある。小さな平底。	II唇部は内外面とも擴なで。体部外側は右上方の印き目2段。内面はなで。外側に平行筋。	淡灰褐色 1~2mmの砂粒を含む。 良好

HN H-4-E・F地区(88-5)土製品・石器観察表 ()は現存値

国版番号 号系+実測値 器 号	遺 墓	法 量 (cm・g)	特 性
13-69 41	第-3 (W) 上層	高 (3.3) 厚 1.0 幅 (5.4) 重量 —	倒錐型+斜面の軸の部分。断面は楕円形をなす。両面に剥離したもので取れた断面が接着されている。
13-54 42	第-3 (E) 中層	18.5 穴径 0.9 径 4.6 重量 50.5	瓶状の胎座を棒状の芯に巻きつけ複数枚。胎座部に抜き取ったと思われる。その隙縫跡の危険がみられる。表面はなで調整。
13-69 43	第-3 (E) 中層	長 10.3 厚 1.15 幅 2.7 重量 30.5	打撲石器。断面は菱形、輪部は四面ともステップ状削離。刃辺と先端部は剥離剝離と縮れし、全体に粗雑な作り。サスカイト。
13-69 44	第-3 (E) 中層	長 (9.5) 厚 (5.2) 幅 (7.0) 重量 (64.5)	太型砂岩斧。基部中央で横折れ、基端の一帯が破損。基端は膨張して、手に巻き戻す砂粒?
13-69 45	包含層	長 (21.3) 厚 3.6 幅 3.3 重量 (607.5)	楕状片岩石斧。長さ約3.3m以上、重量607.5g以上の大型斧。前面刃部とA面が断面が剥離欠損。前面は正方形、底板状。
13-69 46	包含層 (上部裏裏)	長 (15.0) 厚 (1.0) 幅 (7.1) 重量 (313)	扁平片岩石斧。大型石斧。刃・基端部が欠損。刃部は長方形、断面は梯子字長方形で、基部より上方部の幅が広い。芯鉋。
13-69 47	包含層	外縁 (9.1) 厚 2.1 内縁 2.8 重量 (63.7)	薄片岩石斧。刃部は殆ど状をなすが刃縁の欠損が著しい。刃部の一部は再剥離が見られる。しかし、芯部は研削痕、研磨痕もなく、中心孔に光沢がある。精削斧。
13-69 48	包含層	尖 (11.4) 厚 0.8 幅 4.8 重量 (57.0)	石包丁。内面刃部・刃刃。右側へいくにつれて幅が狭く、厚みも得くなる傾向をなす。組織れ構造はほとんど認められない。

II 東奈良遺跡(88-6) II・N H-4-M・N地区

1. 調査経過

所在 地 茨木市沢良宜西1丁目28-1

調査面積 440m²

調査期間 昭和63年7月11日～同年8月26日

届出理由 共同住宅建設

当地区は、昭和48年以來の周辺の発掘調査によって、弥生時代中期から古墳時代前期にかけての大形の溝が集中するところであることが確認されており、事実当地区南東約30mの昭和63年4月に実施したH・N I-4地区の調査によって古墳時代前期の溝が確認され、その通りから当地区西部で検出されると思われていた。

そのH・N I-4地区的調査中の昭和63年5月6日、マンション建設に伴う埋蔵文化財確認調査依頼によって試掘調査を実施した結果、耕土面下約0.5mの茶灰色砂質層から上部器片が検出され、また上記の事実から遺構・遺物を検出することが十分予測されるため、発掘調査の必要があることを依頼者に報告する。その後、依頼者と茨木市教育委員会と協議の結果、昭和63年7月11日から調査を実施することになった。

2. 層位(図版37・38)

当調査地区的層位は、東・南・北壁面の一部、また南壁面に並行に掘ったトレッチを利用して実施した。その結果、耕土面下約0.4～0.6mまでは耕土・床土・包含層が比較的フラットに堆積しているのに対して、調査地区西部から南東部にかけてはそれより下層が大形の溝が影響して複雑な堆積状態を示していた。基本層位は、上層から耕土・灰色砂質層・淡灰色砂質層(床土)・暗灰色粘質砂層が全面に堆積し、以下北東部・東部では、古墳時代以降の一時期の生活面である灰黄色砂質層・弥生時代中期から古墳時代前期にかけての遺物を含む暗茶灰色砂質層・淡茶灰色砂質層・弥生時代中期から古墳時代前期にかけての生活面である淡灰色敷砂質層が堆積している。西から南東部にかけては、大形の溝を含む2条の溝の影響を受けて砂・砂質層がレンズ状に、包含層の暗茶灰色砂質層上に堆積しており、以下弥生時代中期から古墳時代前期にかけての生活面である灰色砂質層・黄白色砂質土層・灰色粘土層・黒色粘土層・暗灰色粘土層・黑灰色粘土層・灰色粘土層が堆積している。なお、弥生時代中期から古墳時代前期にかけての生活面の平均標高は、5.8～6.0mを測る。

3. 遺構(図版37・38)

当調査地区から検出された遺構は、溝5条、十塙10基、甕棺墓1基、柱穴跡約20穴、土器倒りなどである。

溝-1

溝-1は、調査地区の西端部をほぼ南北に縱走する幅約10m、底幅約1.0~2.0m、深さ約1.8~2.3mを測る断面U字形の大形の溝である。なお、溝底は北から南へ僅かに低くなってしまっており、標高約4.0~3.6mを測る。溝-1の東肩に層位的にはやや時期がさかのばる溝-5があり、西肩はその一部を検出したのみである。この大溝は、生活面の灰色砂質土以下、沖積層の灰色粘土層、黒色粘土層、暗灰色粘土層、黒灰色粘土層、灰色粘土層、淡灰色粘土層まで掘られている。なお、一部がさらに下層の砂層にまで達しているため溝底が砂地に成っている。溝内には、20層以上に分けられる砂・砂質土・粘質土・植物遺体層が、レゾンあるいはブロック状に互層を成して堆積している。上層の堆積は生活面を越え、層位的にはさらに上層の古墳時代以降まで溝の流れが存在していたことを示している。中・下層の砂・粗砂・植物遺体層からは、多量の古墳時代前期の土器が検出された。溝-1は、当地区北北西約90mのII-3-A地区で昭和47年度調査(東奈良遺跡調査概報I 昭和54年)の時に検出された溝II-3(大溝)、さらに昭和48年度調査の北北西約220mのG-3-A地区で検出された溝-V(大溝)、また南東約30mのI-4-B・C地区で昭和63年度調査(昭和63年度発掘調査概報 茨木市教育委員会)の時に検出された溝-1と各々規模・形態は多少異なるものの溝の方向、出土遺物から同一の溝と思われる。今回検出された溝-1とI-4-B・C地区的溝-1は、他の溝に比較して溝肩・底に起伏が多く自然水路に近い形態をしていることから、東奈良遺跡の西部を北北西から南東へ縱走する古墳時代前期の大溝は自然水路の一部を改修して利用したものと思われる。

溝-2

溝-2は、調査地区南東部で僅かに検出されたため明確でないが、溝幅0.37~0.43m、深さ0.1mの小形の溝で、北東から南西に連なり、溝内には淡茶灰色粘質砂層が堆積していたが、遺物などは全く検出されなかった。層位的には、北側の畿内第III様式と思われる土壤-2よりも新しい。

溝-3

溝-3は、調査地区北西部を北東から南西に連なる幅0.6~0.7m、深さ0.1~0.15mを測る深さに比較して、底幅の広い溝である。溝内には、茶灰色砂質土が堆積し、畿内第III様式~第IV様式の土器が検出された。土器の多くは、溝底に接して検出され、また細片であったが、一部溝の南西部で検出された土器はほぼ完形品で、溝上にはみ出した形で検出された。(図版40)

溝-4

溝-4は、調査地区内でわずかに検出されたのみであるため明確でないが、北北西から南南東へ延び、上塙-6よって切られ、とぎれている。溝幅0.68m、深さ0.3mを測り、断面U字形をなし、溝内には茶灰色砂質土が堆積するが、遺物などは検出されなかった。また、調査地区外であるため明確でないが、溝-4は溝-3と交差、あるいは規模なども

同じことから同一のものとも考えられる。

溝-5

溝-5は、溝-1の東肩に接して連なり、調査地区南部で東へ大きく蛇行する。溝幅は、溝-1によって西肩が削平されているため明確でないが、0.5m以上あったものと思われ、深さは約0.5mを測る。溝内には、砂・砂質・粘質土がレンズ状に互層を成して堆積し、遺物は全く出土しなかった。層位的には、溝-1よりはさかのぼるが、時期差はあまりないものと思われる。

土壤-1

土壤-1は、調査地区中央東よりで検出された径1.2m、深さ0.25mを測る円形の土壤。土壤は、包含層検出時に既にその一部を検出していることから、実際はその深さはもっと深かったものと思われる。土壤内には、炭化物を含む黒色砂質層を中心に、淡灰色土層がレンズ状に堆積し、古墳時代前期の土器が検出された。

土壤-2

土壤-2は、長軸1.53m、短軸1.0m、深さ0.28mを測り、長軸を北西-南東にとる隅丸長方形摺りばち状土壤。土壤内には、淡茶灰色・淡灰色砂質層が堆積しており、畿内第III様式の土器片が検出された。また、土壤-2には南東に延びる溝状遺構を伴う。

土壤-3

土壤-3は、長軸1.75m、短軸1.0m、深さ0.24mを測り、長軸を西北西-東南東にとるやや歪んだ隅丸長方形摺りばち状土壤。土壤内には、茶灰色砂質層が堆積し、畿内第III～第IV様式の土器と石器が検出された。

土壤-4

土壤-4は、溝-4の南西に位置し、長軸1.7m、短軸0.55m、深さ0.33mを測り、長軸を北東-南西にとるやや歪んだ細長い橢円形摺りばち状土壤。土壤内には、茶灰色砂質層が堆積し、古墳時代前期の土器片が検出された。

土壤-5

土壤-5は、土壤-4の南西にはば並行して位置する小形の橢円形土壤。長軸0.92m、短軸0.3m、深さ0.23mを測る。土壤内には、他の土壤と同じく茶灰色砂質層が堆積していたが、遺物などは全く検出されなかった。

土壤-6

土壤-6は、溝-4を切るように、溝の南西に位置する。長軸0.85m、短軸0.64m、深さ0.22mを測る円形に近い摺りばち状土壤。土壤内には他の土壤と同じく、茶灰色砂質層が堆積し、畿内第III～第IV様式の土器片が検出された。

土壤-7(図版39)

土壤-7は、調査地区北東部に位置し、径0.62m、深さ0.13mを測る円形の土壤。土壤底部は、浅いピット状の落ち込みのために起伏がある。土壤内には茶灰色砂質層が堆積し、

土壤底部より浮き上がった形で畿内第III様式の壺型土器片が検出された。

土壤-8

土壤-8は、調査地区東部でその一部を検出したのみであるため明確でないが、東側の土層壁面にその落ち込みが見られることから、さらに東側へ延び、土壤-2と重複するものと思われる。土壤内には茶灰色砂質層が堆積し、畿内第IV様式の鉢型土器片が検出された。

土壤-9(図版39)

土壤-9は、調査地区北東部で検出された不整形な大形の土壤。長軸を北西-南東にとり、長軸3.05m、短軸0.8~1.2m、深さ0.11mを測る。土壤上には、包含層検出時から土器溜り状に多数の土器が集中して検出された。これらの上器の大多数は、検出時の土壤肩より0.1~0.2m浮いており、唯一水差型上器54のみが土壤底に接して検出された。上器自体は、完形品は少なく、一部を欠くものや細片であり、畿内第III(新)~第IV様式である。

甕棺墓(図版39)

甕棺墓は、調査地区南西部の溝-2に接するように検出された。甕棺埋設の土壤自体は、やや丸んだ円形の2段に掘られた潛りばち状をなし、径0.65~0.70m、深さ0.38mを測る。甕棺は、畿内第III様式(新)の壺型土器の口縁部を上にして立った状態で検出され、また口縁上には壺型土器の底部で蓋をしたような状態で検出された。さらに、包含層検出時に既にその一部を検出していることから、包含層上・中面から掘られていたものと思われる。

土器溜り(図版40)

包含層検出時に土器が集中的に検出される箇所が、土壤-9以外にも2ヶ所検出された。この土器溜り1は、土壤-9の南南西約2.5mの距離を隔てて、北西-西南西に弓なり状に長さ約2.5m、幅約0.8mの間に渡って存在した。上器は、土壤-9上のそれと同じく、畿内第III(新)~第IV様式で、遺構検出面から0.1~0.25m浮き上がった状態で検出された。しかし、遺構面には土壤状の落ち込みは見られず、土器自体も大多数は細片化していた。また、そのほかにも小規模の土器溜り2が土壤-3の北東で検出されている。

このような土器溜りは、昭和47年度調査のH-3-H地区(東奈良遺跡調査概報I昭和54年)同63年度調査のI-4-C地区(昭和63年度調査概報)でも検出されている。

土壤-10

土壤-10は、調査地区北東部に位置する径1.32m、深さ0.47mを測る円形の土壤。土壤底部には、径0.5m、深さ0.1mを測る浅い落ち込みがある。土壤内には、6層に分けられる堆積層が見られ、11世紀頃の瓦器・上器器片が検出された。土壤-10は、検出時の深さが浅いものの井戸の可能性がある。

4. 遺物(図版55~62・70)

遺物は、各遺構・包含層から弥生時代中期から古墳時代前期の土器を中心コンテナー

バットに約50箱出土した。その中心は、溝-1・上器溝りからのものであるが、下器溝り出土の土器は残存状態が悪く復元冈ができるものは少なかった。なお、各土器の詳細は土器表に記述している。

弥生式土器

壺型土器 49・50は、最大腹径がやや下位にある球形に近い体部、太く短い頸部から外反して、口唇部で上下に肥厚し凹線紋を施す。51は、最大腹径が中位にある球形に近い体部、細く短い頸部から外反し、口唇部で下方に肥厚し凹線紋を施す。52は、外反ぎみの頸部から屈曲して立ち上がる口縁部、頸部に指揮えの突帯紋を施す。49は溝-3、50・51は土壇-9出土の畿内第III様式(新)。52は包含層出土の畿内第III様式。

水差型土器 53は、算盤玉状の体部と直口口縁部、脚部が付く。54は、やや胴長の体部に外反する口縁部の壺に把手を付けたタイプ。53は畿内第III様式(新)、54は第IV様式の上壇-9川土である。

甕型土器 55～57は、55・56は甕棺に転用していたもので、55は頸部が水平近く外反し、57はくの字形に外反する。57は土壇-7出土のいずれも畿内第III様式である。

用途不明の土器 63は、甕あるいは壺の体部を縱に1/3にして、その側面部を使用したような土器。上壇-9川土で、供伴土器から畿内第III～IV様式であると思われる。その他、土器溝り1出土の高杯脚部58、土壇-3出土の脚部59、土器溝り2出土の要用蓋型土器60、土器溝り2出土の台型土器61、包含層出土の同62がある。いずれも、畿内第III～IV様式である。

土師器

土師器は、溝-1を中心に出土し、上・中・下層に分けて検出を試みたが、溝の複雑な堆積状況からみて、層位の差を求めるのは困難であったため、一括出土土器として取り扱った。なお、上部器の編年は東奈良編年(東奈良遺跡調査概報Ⅰ 昭和54年)を使用している。

壺型土器 64・65は、いずれも突出平底の東奈良Iに位置する。64は口縁部が外反し、65はいわゆる二重口縁であるが、内面に稜はみられない。また65は、肩部から明確な稜をもたずく内傾する頸部であることから、岡山の酒津の影響を受けているものと思われる。

66～74は、外上方へ広がる直口口縁のタイプで、体部に比較して口縁部の小さい大形と口縁部の大きい中形、そして体部・口縁部がともに小さい小形品がある。いずれも体部・頸部外面にヘラ磨き調整を行っている。66・67は小さい平底をもつ東奈良II、68・69は尖底ぎみの東奈良III、72～74は丸底で口縁部の器壁も薄く内湾ぎみになることから東奈良IV、70・71は口縁部の形態・技法から東奈良II～IIIと思われる。75は短い頸部から短く外反し、外上方へ立ち上がり口唇部で短く外反し、その形態から岡山の酒津の影響を受けているものと思われる。

甕型土器 76・77は、いずれも突出平底であるが、77は押しつぶしたような形態の底であることから東奈良II、76は東奈良Iに位置する。78・79は小さい平底の東奈良II。82～

90は、いずれも底部に意識が薄れる尖底の東奈良Ⅳに位置する。89・90は胎土から河内産である。他は在地のもので、82・84・85は外面に刷毛目、内面にヘラ削りが見られることから他より新しいものと思われる。91～94は底部が丸底となり、外面も叩き目が消え刷毛目調整を行い、内面はヘラ削りを行っている。91・94は胎土から河内産、他は在地のもので東奈良Ⅳに位置し、94は口唇部端部が内面に肥厚することから他より新しいものと思われる。95は岡山の酒津式の口縁部の特徴をもつもので、東奈良Ⅳに位置するものと思われる。

高环型土器 今回検出された高环には、环部底部が水平あるいは内湾ぎみにのび、环部上部が直線あるいは内湾ぎみにのびるタイプと、环部上部が屈曲してのびるタイプと純型の环部をもつタイプがあった。このなかで最も古い要素をもつものは、屈曲部下位の浅い96が東奈良Ⅲと思われる。97～100は、环部あるいは屈曲部下位が深く、环部底部が小さいことから東奈良Ⅳと思われる。湾型高环の101・102は、胎土の清良さと作りの丁寧なことから東奈良Ⅳと思われる。その他、脚部のみでは編年が困難だが、脚部103～109がある。

器台型土器 110～112は皿部がやや深く、脚柱部が長く、裾の広がりも小さいため東奈良Ⅲ、113・114は皿部が浅く、脚部も接合面から広がり、丁寧な作りのため東奈良Ⅳと思われる。115は、いわゆる鼓型器台と呼ばれているものである。

鉢型土器 小型の鉢116～118は平底、119～121は小さな底をもつ東奈良Ⅱ。同121～130は、ヘラ削りあるいは叩き目を行って床部を尖底・丸底風に作っていることから東奈良Ⅲ。131は叩き目の後、ヘラ磨きを行ない丁寧な作りであることから東奈良Ⅳと思われる。中形の132・133は平底の東奈良Ⅱ、同134・135は尖底・丸底風であることから東奈良Ⅲと思われる。大形の136は頸部でくびれ、短く外反し縫をもって外上方へ直線的にのびる口縁部をもつ。このタイプの鉢は、在地にないことから、他地域からの影響を受けているものと思われる。脚台付きの137～139は、137が作りも粗雑であることから東奈良Ⅲ、138・139はヘラ磨きを丁寧に行っていることから東奈良Ⅳと思われる。その他、140は、口径に比較して器高の高い鉢、破損をしているものの脚台が付くものと思われる。

瓶型土器 141～144は底部を叩き目を行って尖底・丸底風に作っていることから東奈良Ⅲ、145は、底部の器壁を薄く仕上げていることから東奈良Ⅳと思われる。

その他 土壙-10より、僅かながら土師器小皿・瓦器碗が出土している。

土師器小皿 146は、形状がややいびつで、口縁部を外に折り返し、端部で僅につまみ上げている。口径9.85cm、器高1.6cmを測る。瓦器碗147は、1/5の破片からの反転復元である。内面は丁寧な螺旋状の暗紋、外面はやや荒いものの底部まで暗紋を施している。高台は、分厚いものの稜が明確でない。口径15.2cm、器高5.7cmを測る。いずれも11世紀と考えられる。

石器 土壙-3出土の扁平片刃石斧148は、法量長さ5.5cm・幅3.9cm・厚さ1.5cm・重量60.8gを測る砂岩製である。

鉄器 包含層出土の鉄斧149は、法量残存長6.4cm・幅3.3~3.8cm・重量48gを測る。柄部は、鉄板を折り曲げた橢円形の袋状になっており、柄挿入部の長さ4.3cm、内径2.7×1cmを測る。

5. 結 語

当調査地区からは、弥生時代中期・古墳時代前期・平安時代期の3時期の遺構が検出された。

弥生時代中期の遺構は、土壇・溝・要棺墓・土器涵りである。溝-3・4と土壇-9および土器涵りの位置関係と土器出土状態から、方形周溝墓の可能性もあるが、供獻土器のみが残存して周溝が残らないとは考えられないので、その可能性は薄いと思われる。しかし、溝-3は、土層断面からは封土を確認できなかったものの、溝内川土の土器出土状況と溝の方位がこの付近検出の方形周溝墓の周溝と一致することから、方形周溝墓の可能性は高く、北西側に広がっていると思われる。

古墳時代前期の溝-1は、前述のように東奈良遺跡を北北西から南東に縱走する大溝の一部と思われる。人溝は、H-3・G-3地区では溝肩が2段に掘られていたことから、人工の溝と思われていた。しかし、当地区とI-4地区では自然水路の状態であったことから、自然水路を一部改修した溝であることが判明した。各地区の大溝からは多量の土器が出土しており、大溝全体に埋没している土器量は膨大なものとなる。なぜ膨大な土器が短期間のうちに埋没したのかは、今後の調査・研究を待ちたい。

HN H-4-M-N地区(88-6)弥生式土器観察表

()は現存値

部品番号 引出-実測値 土器番号	通 番	寸 法 (cm)	形 種	技 術	備 考
14-55 49	西-3	口径 21.7 腹径 29.2 底径 6.6 唇高 35.1	最大幅径は大きく張り、体部中位にある 太く、やや長い縦溝から、口縁部は大き く外反し、口唇部で上口に記述する。	口縁部の内外面は横なで、体部中位内面 にハケ目開き痕が残るが、他の風化が甚 しく小刻。口唇部底面に凹縫紋3条。脇 部から最大底径まで、一般風化で削失し ているが、縦縫紋底紋11段。同縫状紋が 施されている。	乳白色 1~2mmの砂粒とクサ レ繊を含む。 良好
14-55 50	土壁-9	口径 23.6 腹径 一 底径 一 唇高 (11.4)	太い縦溝から、大きく外反する口縁部。 口縁部は上口に肥厚し、向をもつ。	口縁部の内外面は横なで、脇部内面にな で、外面は風化によって不規。口唇部底 面に凹縫紋5条。脇内面に横縫紋列点紋。 底部に横縫内縫紋を施す。	乳灰褐色 2mmの砂粒を含む。 良好
14-55 51	上壁-9	口径 14.1 腹径 23.8 底径 5.4 唇高 27.2	最大幅径は大きく張り、体部中位にある 細い縦溝の底溝から、口唇部は外反し、 口唇部下方へ延びて細長い形をもつ。	口縁部は内外面とも横なで。他は内向な で、外縁は張り、腹方向のハラ折れと思わ れるが純粋に表示し不規。口唇部外側に 凹縫紋3条。円形浮紋5カ所以上。脇 部に凹縫紋3条。以下横縫内縫紋と同款 状紋を交叉に施す。	乳灰白色 1mmの砂粒を含む。 良好
-55 52	右企幅	口径 23.3 腹径 一 底径 一 唇高 (12.2)	調平狀の縦溝から、圓曲して立ち上がりを 受け付いた口縁部。口唇部は内外に記述す る。	口縁部は内外面とも横なで。口縁部下段 から脇部外縁は、縦ハケ目。内面は風化 によって不規。口縁部に凹縫紋2条。脇 部に斜縫内縫紋を施す。	乳灰白色 0.5~2mmの砂粒とク サレ繊を含む。 良好
14-55 53	上壁-9	口径 8.2 腹径 17.5 底径 一 唇高 (15.2)	体部は算盤山形状よく張る。口縁部は内 面裏みに立ち上がり、口唇部はわずかに 内反し、口縁部を1口えぐっている。 脇部に立ち込みの横位の把手が付く。脚 台が付く。	全体風化が著しく、調整、放縫等は全く 不明。	乳灰白色 0.5~3mmの白色砂粒とク サレ繊を含む。 良好
14-55 54	下壁-9	口径 10.5 腹径 17.5 底径 4.8 唇高 (16.9)	最大幅径が中位にあるやや長脚の体部。 深い腹部から、小さく外反する口縁部。 口唇部で既に下口へ延びる。底部から 脚部に貼付の横位の把手が付く。	令体風化が著しく、調整、放縫等は全く 不明。	乳灰白色 1mmの砂粒とクサ レ繊を含む。 良好
14-56 55	腰折幕	口径 32.1 腹径 29.1 底径 9.1 唇高 48.5	最大幅径が基本上位にあるやや長脚の体 部。口縁部は、水平近くまで細く内反し 口縁部はわずかに上方に肥厚し、小さな 窓をもつ。	口縁部は内外面とも横なで。体部外側上 位は内面は、縦ハケ目。体部下段から 底部はハラ削りを行っている。	乳灰褐色 0.5~1mmの砂粒を含む。 良好 柄として転用。
-56 56	腰折幕	口径 一 腹径 一 底径 8.1 唇高 (27.6)	弧形より内面裏みに立ち上がり。腹性が 大きい体部。腰部上部充満と思われる。	底部から体部内面は横なで、外縁は風化が 著しく調整不規。	乳灰白色 1~3mmの砂粒とクサ レ繊を含む。 良好 柄として転用。
-56 57	上壁-7	口径 32.5 腹径 一 底径 一 唇高 (12.3)	「く」の字形に回曲する口縁部。口唇部 はわずかに上方に肥厚する。	口縁部は内外面とも横なで、脇部外縁は 縦、以下斜ハケ目。内面は風化のため調 整不明。	乳灰褐色 1mmの砂粒とクサ レ繊を含む。 良好
56 58	上腰折幕1	口径 一 腹径 15.2 底径 13.8 唇高 (13.8)	中位の横脚より上位に広がる脚部。 底面で上口へ延びし、窓をもつ。	脚部は内外面とも横なで。柱部内面はハ ラ削りの横なで、外縁は風化のため不規。 口縫充満。	乳灰褐色 1mmの砂粒を含む。 良好
-56 59	土滴-3	口径 一 腹径 16.7 底径 15.5 唇高 (15.5)	中位の太い柱部より上位に広がる脚部。	脚部は内外面とも横なで。他は風化のた め不明。柱部に凹縫紋3条。各ヨリ用の 円孔を交叉に配置して、3段に並ぶ。	黄褐色 1~5mmの砂粒を含む。 良好

出版番号 等第一文部省 上野書号	遺 墓	法 量 (cm)	形 細	枝 法	備 考	
- 56 69	包合層	口徑 底径 高さ 厚さ	14.2 — 4.7 4.6	裏面重土春任い笠形をなし。つまみ頭は上方に膨張し、中央に凹む。	口縫部は内外面とも横なで。特に真化のため不規。	淡黄褐色 1~3mmの砂粒を含む。 良好
15~56 61	包合層	口徑 底径 高さ (6.3)	17.7 — — —	小底上部。円錐の付加の小尖には幅13mm、長さ約10cmのすりばら状の凹みがある。台部よりわずかにくびれて脣部がのびる。	台部上面は摩耗・風化によって不規。脚部外側は薄いカケ音質感。内面は平て。	淡灰褐色 1~3mmの砂粒とクサヒを含む。 良好
15~56 62	土器擦り1	口徑 底径 高さ (6.0)	26.0 — — —	台型土器。円錐の付加の中央に径11cm、深さ約2mm程の凹みと脣部がわずかに凹む。台部より入りきくくびれて脣部がのびる。	台部下面は横なで。脇部は薄いカケ日。内面は平て。特に摩耗・風化によって不規。	乳白色 0.5~3mmの砂粒とクリヒを含む。 良好
15~55 63	土壌-9	底 高 厚	24.0 18.9 6.5	用途不明上器。表面あるいは底土器と直に分離して、その断面を確認したものと思われる。底部の方はえぐられていて。	表面面は横なで。底面に弱い横なで。特に風化によって不規。外側の常に薄く付着。	淡黃褐色 0.5~2mm程の砂粒を含む。 良好

HN H-4-M-N地区(88-6)土器器観察表

()は現存値

出版番号 等第一文部省 上野書号	遺 墓	法 量 (cm)	形 細	枝 法	備 考	
15~57 64	第-1 下層	口徑 底径 高さ 厚さ	12.7 33.8 5.2 24.7	扁大型瓶やや下位にある笠形の体部。細い腰から外反する口縫部。(口縫部は丸く終る。突出平底であるが底部が丸味があり安定しない)。	口縫部は内外面とも横なで。脇部は横押さえ。底部外側上位は叩きひの後、削めたり壓さ。外側に強へき壓さ。下位はハケ日。後なで、底部は振付え。底面内面中位は平て。下位はハケ日。底部下位は薄く付着。	淡灰褐色(外) 暗灰色(内) 1~3mmの砂粒を含む。 良好
15~57 65	第-1 下層	口徑 底径 高さ 厚さ	17.3 39.1 4.6 30.0	最大底径が中央位にあり、大きめの張り出す。脇部は底部との接がなく、内傾している。口縫部は外反し、小底で外下方へ配厚し、さらに外側する(口縫)。口縫部は基盤部を丸く終る。突出平底。	脇部から底部外側上位は薄いカケ日。下位はハケ日。内面に削痕・底部ともハケ日。(口縫部内面に横擦痕波状紋を有す)。	淡灰褐色 1~5mmの砂粒を多く含む。 良好 瓶底に輕厚底の影響を受けている。
16~57 66	第 1 下層	口徑 底径 高さ 厚さ	13.8 28.5 3.9 30.0	錐形の体部。脇部は直角し、内面では頗る強めがいる。(口縫部は瓶上方へ底くのび、底部に比較して小さい。口縫部には小さな筋がある。平底)。	口縫部は横なで。口縫部外側は底、内面は弱い方向のハケ壓さ。底部外側は強へき壓さ。内面は薄いカケ日。脇部から底部に位付はハケ日。下位にハケ日。	淡灰褐色 0.5~10mmの砂粒を多數含む。 良好
16~57 67	第-1 下層	口徑 底径 高さ 厚さ	11.2 22.8 4.0 27.5	最大底径が中央位にあり、底部へ急速に小さくなる。脇部は直角し、内面では頗る強めがいる。(口縫部は瓶上方へ底くのび、口縫部は丸く終る。底部はゆがんだ平底)。	口縫部・底部は外側とも横なで。底部内面ハケ日。体部外壁は弱めのハケ压さ。底部内面ハケ日の下にハケ日がある。	乳灰白色(外) 灰色(内) 1~3mmの砂粒を含む。 良好
16~58 68	第 1 下層	口徑 底径 高さ 厚さ	7.1 12.2 — 15.9	最大底径がやや上位にあり、下位へ急激に小さくなる。脇部は強くくびれ。口縫部が内面ぎみに立ち上がり、中央で基盤部が厚くなる。実底。	口縫部下位内外面とも横なで、外側はその後へハケ压さ。口縫部下位から体部中位ハケ日。体部外壁はハケ压さ。底部下位はハケ压さ。底部はハケ压さ。底部内面はハケ日。	乳灰褐色 0.5~1mmの砂粒を含む。 良好
58 69	第-1 中層	口徑 底径 高さ 厚さ	10.9 12.3 — 15.2	やや瓶底の体部。脇部のくびれは小さくは底部が割り上方へのびる。口縫部は丸く終る。尖底。	(口縫部は内外面とも横なで。(口縫部外側前方、外側腰方にハケ日)。体部は口縫部の下位の後、ハケ日、なで調整。底部内面はハケ日)。	乳灰褐色 0.5~1mmの砂粒を含む。 良好

頭版番号 学年 班別 上級番号	連 種	体 重 (kg)	形 異 常	被 付 合	備 考
16-57 70	病-1 上層	11往 24.8 基底 部高 (23.3)	最大腹径が中位にある球形の体形。口部は直角し、口縫部は前め二方へのび、口唇部はわずかに外反し、丸く終る。	口縫部に内外両とも腫なで。体部外縫は風化によって不規則。内面は側方向のハケ甘調査。最大腹径部に横付省。	淡赤白色 1-3mmの砂粒とクサン 構を含む。 良好
	病-1 下層	11往 — 基底 部高 (10.6)	二臍型は、前め上方へ直線的にのび、口唇部はわずかに外反し、丸く終る。	口縫部外縫は、側ハケ目後の後、上位に横 なで、下位は側へラ筋き。内面は側方向の 筋で、下位は帆ハケ日の筋、先心-歯へラ 筋き。唇縫部面はシテ目が残り、体部は 側へラ筋き。内面は唇縫部との筋なで。	赤青褐色 1-3mmの砂粒を多く 含む。 良好
-58 72	病-1 下層	ニ往 10.9 腹壁 15.5 底径 部高 (17.3)	やや側張りの球形の体形。体部に比較して、直線的な腹部から、口縫部は直線的に、右三 方へ直線的にのびる。口縫部は丸く終り、 唇縫部は薄くなる。丸底。	口縫部から内外両とも腫なで。内面はその 後、横・側方向へのラ筋き。唇縫部面は 横付省と、体部側面側め方向へ ラ筋き、内面なで。	淡灰白色 1-3mmの砂粒を多く 含む。 良好
	病-1 下層	口縫 — 腹壁 15.3 底径 部高 (12.5)	脛が大きくなり扁平な球形の体形。口縫部は前め上方へ直線的にのびる。丸底。	体部外縫に側ハケ目へラ筋き。内面は左で 薄く風化物付着。口縫部腫なで。	淡黄褐色 1-3mmの砂粒を多く 含む。 良好
-58 74	病-1 上層	口縫 — 腹壁 14.6 底径 部高 (13.9)	やや闊がなじ球形体形。脛部はくびれ、口 縫部は直線的にのびる。	口縫部から脛部まで、内外両とも腫なで。 脛部外縫に舌付省。体部外縫は風化した 筋不規則ながらラ筋きと思われる。内 面はなで。	乳黃褐色 1-3mmの砂粒を多数 含む。 良好
	病-1 中層	口縫 — 腹壁 10.0 底径 部高 (7.4)	脛部で大きくくびれて、口縫部が斜く外 反し、外方に偏位した後、直すく立ちこ がら、口縫部で直角し、脛部でわずかに くま上げている。	口縫部外縫は側ハケ目の筋、口縫部・二 脛部中位・下位を筋なで。内面はなでの 筋腫なで。脛部下位へラ筋き。	淡黃褐色 腹付省を含む。 良好 中国地方の影響を受け ていると思われる。
17-58 76	病-1 下層	口縫 15.1 腹壁 12.9 底径 3.5 部高 14.7	最大腹径が中位にある胸高の体形。口・ 脛部は「U」の字形に外反する。口縫部 は丸く終る。突出部底。	口縫部内外とも横なで。脛部中位 はやや丸じりの叩き目。下位底部はら せん状の叩き目。内面はなで、内面底部 はハケ目。	淡青褐色 0.5-2mmの砂粒を多 く含む。 良好
	病-1 下層	11往 15.1 腹壁 4.6 底径 部高 18.5	最大腹径が中位にあって、やや側張の体 形。脛部のくびれが小さく、口縫部が くくの字形に外反する。突出部底が強 度である。	口・脛部は内外両とも横なで。体部外縫 はくじりの叩き目。脛部内面・下位は側 方向のハケ目。下位はなで。体部外縫 に厚く付着省。内面下位に風化物付着。	淡黄色 1-3mmの砂粒を含む。 良好
17-58 78	病-1 下層	11往 12.9 腹壁 14.1 底径 2.8 部高 12.8	最大腹径が上位にあって、脣部を上回る 体形。脛部は直角し、口縫部は中位で把 握する。ゆがんだ平底。	口・脛部は内外両とも横なで。体部外縫 は水平の叩き目。体部内面はへうなで。	淡青褐色 0.5-2mmの砂粒を多 く含む。 良好
	病-1 下層	口縫 14.9 腹壁 2.5 底径 部高 (14.2)	最大腹径が中位よりやや上方に位置する胸 高の体形。脛部のくびれが小さい。 口縫部は外反し、口縫部から外反し 脛部に小さな凹がある。	体部外縫はよりと水字の叩き目。体部 内面はなで。脛部にも叩き目。	淡青褐色 1-3mmの砂粒を含む。 良好
18-58 80	病-1 下層	口縫 14.1 腹壁 18.6 底径 — 部高 (12.3)	やや側張の体形。脛部のくびれが大きい。 口縫部は外反し、口縫部から外反し 脛部に小さな凹がある。	口・脛部は内外両とも横なで。体部外縫 はくじりの叩き目。内面なで。体部から口 縫部外縫に腹付省。	乳黃褐色 1-4mmの砂粒を多く 含む。 良好
	病-1 中層	口縫 16.2 腹壁 17.4 底径 — 部高 (13.6)	脣部の体形。脛部のくびれが小さい。口 縫部は外反し、下位で直角し。口縫部は 薄く丸く終る。	口・脛部は内外両とも横なで。体部外縫 はくじりの叩き目。内面なで。内面に騎 筋の解が残る。	淡赤色 1-3mmの砂粒を含む。 良好

腹盤番号 学年-実年齢 上部番号	通 病	法 直 (cm)	形 狽	性 法	備 考
17-58 82	溝-1 下唇	口徑 12.4 腹徑 14.8 底径 一 垂直 14.6	最大腹径が中位にある球形に近い体態。 面部のくびれは小さい。口縫部は外反し て上方へつまみ上げる。尖底。	口・腹部は内外面とも横なで。体部外因 風化が著しく不明。内面はへたり張り。内 面下位に筋肉調整。内面底面に炭化物付着。	乳白色 2~5mmの砂粒とクサ レ味を含む。 良好
	溝-1 下脣	口徑 11.6 腹徑 16.4 底径 16.6 垂直 (19.7)	最大腹径が中位よりやや上にある球形に 近い体態。面部は丸くびれる。口縫部 は大きめに外反する。尖底。	口・腹部は内外面とも横なで。体部外因 風化が著しく不明。内面はへたり張り。下位筋肉付 着から口縫部外因に累積着。	暗褐色 頭頂部10mmの小粒が 散在する。 良好
-59 84	溝-1 下脣	口徑 14.6 腹徑 14.4 底径 一 垂直 14.9	胸の張りが小さく、口徑より小さい体態。 面部は小さくくびれる。口縫部は外反し て上方に丸く終る。	口・腹部は内外面とも横なで。体部外因 風化が著しく不明。内面はへたり張り。体部内面は 凹状で、底部内面は凸状。	淡黄色 1~3mmの砂粒とクサ レ味を含む。 良好
	溝-1 下脣	口徑 16.0 腹徑 20.5 底径 一 垂直 20.6	最大腹径と胸高がほぼ同じの、胸の張っ た球形に近い体態。面部は丸くくびれる。 口縫部は外反し、口縫部へ寄って腹部が 曲くなる。丸底風の小さな丘面。	口縫部内外面と腹部外因が横なで。体部 上位は細い心臓の弓型の後々部。体部下位は 底面に筋肉調整。腹部・体部下位内面 にはへたり張りの横なで。下位へたり。	淡褐色 1~3mmの砂粒を含む。 良好
-59 86	溝-1 下脣	口徑 12.7 腹徑 17.1 底径 一 垂直 (11.1)	最大腹径が大きく張る尖底。腹部は 丸くくびれる。口縫部は外反し、口縫部 は丸く終る。	口・腹部は内外面とも横なで。体部外因 風化は右よりの弓型。内面はなし。体部中 位外因に累積着。	淡黄色 1~2mmの砂粒とク サレ味を含む。 良好
	溝-1 下脣	口徑 13.0 腹徑 21.4 底径 一 垂直 (19.8)	最大腹径が大きく張る中位にある球形 の体態。面部は大きめにくびれる。口縫部 は外反し、中位で肥厚する。	口縫部内外面と腹部外因が横なで。体部 外因は左よりの高い弓型3段。内面は なし。最大腹径部に筋肉着。	赤黄色 1~4mmの砂粒とク サレ味を含む。 良好
-59 88	溝-1 下脣	口徑 14.7 腹徑 16.8 底径 一 垂直 (14.2)	最大腹径が張るやや扁平ぎみの尖底。面部 は小さくくびれて、口縫部が外反し、 口縫部は丸く終る。	口・腹部は内外面とも横なで。体部外因 風化しているものと右よりの弓型。内面 はなし。	赤灰色 0.5~1mmの砂粒を含 む。良。
	溝-1 下脣	口徑 19.0 腹徑 22.5 底径 一 垂直 21.1	最大腹径が中位にある球形に近い体態。 面部で大きくくびれる。口縫部は内面ぎみ でくびれて、口縫部へ上方へかづきにつ まみ上げる。尖底。	口・腹部は内外面とも横なで。体部外因 風化なし。以降位下まで水平、左より の細かい弓型。下位から底面へへたり。 内面底面では、口縫部までへたり筋 が横なで、以下でくびれるが炭化物が 有り不透明。体部外因に累積着。	赤褐色 1mm前後の砂粒と金 屬味を含む。 良好
18-59 90	溝-1 中脣	口徑 16.2 腹徑 20.3 底径 一 垂直 (21.3)	最大腹径が上位にあり、以下直進へ小さ くなり、面部が尖るが実感と思われる。 面部は鋸くびれ、口縫部が外反し、 口縫部で内面ぎみに立ち上がる。腹部内 面に深い窪がある。	口・腹部外因とも横なで。体部外因は 直進で細く、丁寧な弓型の現き。左 よりの弓型の後、ハケ目。内面底面は下 位へたり、ハケ目網膜。下位は下供給物 が付着し不透明。体部・口縫部外因に累積 着。	赤褐色 1mm前後の砂粒と金 屬味を含む。 良好
	溝-1 小脣	口徑 13.7 腹徑 17.5 底径 一 垂直 (18.9)	最大腹径がやや上位にあって、肩が張る 尖底。面部は丸くくびれ、口縫部は 外反し、中位で抱きしめや中門である。口 縫部で内面にわざかに不透明する。底部は 丸底とする尖底と思われる。	口・腹部と耳部に内外面とも横なで。体 部外因はハケ目と思われるが、供給物 などのため不透明。内面は中位下まで へたり筋。以下供給物付着して不透明。	淡灰褐色 1~3mmの砂粒と金 屬味を含む。 良好
18-60 92	溝-1 中脣	口徑 14.0 腹徑 18.3 底径 一 垂直 19.8	最大腹径が中位にあり、肩が張る球形 の体態。面部は丸くくびれ。口縫部は 外反し、中位で内面ぎみに立ち上がる。丸 底。	口縫部内面と口縫部外因は横なで 体部・底部外因は累積着のため小窪切 たがハケ目。内面へたり筋の横なで。内 面底面炭化物付着。	淡灰褐色 1~3mmの砂粒を含む。 良好
	溝-1 下脣	口徑 13.4 腹徑 15.1 底径 一 垂直 (16.3)	最大腹径が下位より上にあり、口縫部が 鋸くびれ、面部が尖る。面部は鋸く くびれる。口縫部は内面ぎみに立ち上 がるへたり終る。	口縫部内面と口縫部外因は横なで 体部・底部外因は累積着のため小窪切 たがハケ目。内面へたり筋の横なで。内 面底面炭化物付着。	淡灰褐色 1mm前後の砂粒を含 む。良。

試験番号 卓真 実験用 十番番号	造 割	法 量 (mm)	形 異 著	特 性	備 考
- 60 94	裏 1 下層	口徑 16.1 腹壁 21.2 底径 — 基高 23.1	最大頭部がやや上位にあって、頭が張ら ずへ倒れ。脛部ににくくびれる。口部部 内に内突きと稍め上方へ立ち上がる。口 底部はわずかに内側へ倒れる。尖端。	ロ・脚部外側と口部部内面は縦目で、頂 部内面など。体部外側は横ハケ目と横ハ ケ目。背面へラ筋り。口部部と体部小位 は下外側に縦目。	乳灰褐色 1mm前後の砂粒と各 葉片をわずかに含む。 良好
	裏 -1 中層	口徑 13.7 腹壁 — 底径 — 基高 (4.2)	頭部は大きくくびれる。口部部は外反し、 小くねじ近く立てる。口部部内面に 肥厚する。	ロ・脚部内面とも横目で。口部外側横 ハケ目、内側へラ筋り。口部部外側にへ ラ筋りと比較能く施されている。	淡灰褐色 0.5mm程度の砂粒を含 む。 良好
19-60 96	裏 -1 下層	口徑 17.1 腹壁 — 底径 — 基高 (11.1)	环部下部は脛くびり、頭をもって上半が 大きくなつて脛へ倒れる。内面も頭があり、下部はすばらしく間に開んでいる。軽 度は変異。	ロ・脚部内面と股外側は横目で、脚部下 部内面と股外側下部・脚部外側は横目・脚 部内面のへラ筋り。环部下部内面はな。	淡灰褐色 2~5mmの砂粒を含 む。 良好
	裏 -1 下層	口徑 23.8 腹壁 — 底径 — 基高 (7.5)	环部下部は軽く脛り、頭をもって斜上方 へ脛くびりがたり、わずかに倒れて外 上方へ反する。内面に同じくわずかに 脛曲して半円形が脛くなっている。ロ・脚 部に張り、脛に張りがなされている。	ロ・脚部内面と股外側は横目で、脚部下 部内面と下部内面は丸いへラ筋り。 脚部外側は横目。	乳灰褐色 1~2mmの砂粒を含む。 良好
- 60 98	裏 -1 下層	口徑 23.1 腹壁 — 底径 — 基高 (15.9)	环部下部は軽く脛り、頭をもって上半が 大きくなつて脛へ倒れる。内面も頭があり、上半がなだらかに 下部へ傾く。内面に同じくわずかに脛 曲して半円形が脛くなっている。ロ・脚 部に張り、脛に張りがなされている。	ロ・脚部内面と股外側は横目で、脚部外側に脛、 内面は前方のへラ筋りであるが変化が 進み、ハリ目が露出している。环部下半 部内面と股外側は横目で不鮮明である が、へラ筋りと見われる。さし込み法。	乳灰褐色 0.5~1mmの砂粒を多 く含む。 良好
	裏 -1 下層	口徑 14.6 腹壁 (16.4)	环部下部は軽く脛り、頭をもって上半が 大きくなつて脛へ倒れる。内面も頭があり、上半がなだらかに 下部へ傾く。内面に同じくわずかに脛 曲して半円形が脛くなっている。ロ・脚 部に張り、脛に張りがなされている。	ロ・脚・脚部外側はハケ目その後、脛上方 へのへラ筋り。环部内面は横方筋のへ ラ筋り、下部はなだらか。脚部内面 と股外側は横目でハケ目。環部下 部内面は横目でハケ目。環部 上部・下部に孔を空けて4ヵ所。	淡灰褐色 次灰褐色(不規則)像 砂粒を含む。 良好
19-60 99	裏 -1 下層	口徑 17.8 腹壁 — 底径 — 基高 (6.6)	环部下部に軽く脛り、頭をもって上半が 立ち上がり、脛曲し再び頭をもって斜 上方へのびる。内面も2段に脛曲して脛 なり。下部は小さく。	ロ・脚部内面と2段の股外側は横目で、 不規則内面は脛内面、内面下部と上半外側 は横方筋のへラ筋り。他になど、环部上 部に横筋状筋と貼付円形浮出筋、へ ラ筋り。下部外側にへラ筋りと横筋。	淡灰褐色 1mm前後の砂粒とクサ 類を含む。 良好
	裏 -1 下層	口徑 11.4 腹壁 — 底径 — 基高 (5.7)	輪頭部。环部に下部が広く、専らして 立ち上がり。ロ・脚部に円形し、丸く終る。	ロ・脚部は外側とも横目で。环部外側は 横方筋、内面は放射状のへラ筋り。 脚部の脛目はへラ筋り。	乳灰褐色 筋目。 良好
- 61 102	裏 -1 下層	口徑 10.8 腹壁 — 底径 — 基高 (5.4)	輪頭部。环部に下部から内側して立ち 上がり、ロ・脚部に内側し、丸く終る。	ロ・脚部内面と外側とも横目で。环部外側は 横方筋、内面は放射状のへラ筋り。 脚部の脛目はへラ筋り。	乳灰褐色 1mm前後の砂粒とわ ずかに金属粉を含む。 良好
	裏 -1 下層	口徑 — 腹壁 14.8 底径 — 基高 (10.4)	軽く充実した柱部より、ラッパ狀に聞く 部。底部は丸く終る。	輪頭部から以降まで外側とも横目で。 柱部から脚部外側はへラ筋りと見われる が、風化のため不鮮明。脚部内面は上半は なで、円形4ヵ所。	乳灰褐色 1mm前後の砂粒とわ ずかに金属粉を含む。 良好
- 60 104	裏 -1 下層	口徑 — 腹壁 — 底径 15.1 基高 (9.7)	輪頭部の充実した柱部。柱部は内側を 多く広がり、头部はわずかに下方へ膨 張する。	輪頭部の外側部は横目で。脚部外側はな での横方筋のへラ筋り、内面はなでと へラ筋り。柱部外側は横目へラ筋り。円形 4ヵ所。	乳灰褐色 1mm前後の砂粒を多く 含む。 良好
	裏 -1 下層	口徑 — 腹壁 — 底径 12.9 基高 (8.6)	輪頭部の充実した柱部。柱部は内側を 多く広がり、頭部はわずかに下方へ膨 張する。輪頭部は凹凸がなされている。	輪頭部の内外側に横目で。脚・脚部外側 は横方筋のへラ筋り。輪頭部内面はハド 横筋。円形4ヵ所。	淡灰褐色 1~3mmの砂粒を含む。 良好

同種番号 写真-実測法 十脚番号	遺構	法 式 (cm)	形 態	技 法	備 考	
60 106	溝-1 下層	口括 腹径 直径 器高	— — 13.8 (14.6)	やや幅広がりの丸尖した丸部。側部は大きくながら、端部はわずかに内凹し、丸く終る。	側端部の内外面は横なで。柱・側部外面は前方に向ひ。側部内面は側方向のハケ目。円孔4ヶ所。	淡灰褐色 0.5~2.0cmの砂粒を含む。 良好
-60 107	溝-1 中層	口括 腹径 直径 器高	— — 15.7 (9.3)	やや幅広がりの丸尖した丸部。側部は内凹ぎみに大きくながら、端部は丸く終る。	側端部の内外面は横なで。柱・側部外面は前方に向ひ。側部内面は側方向のハケ目。円孔4ヶ所。	淡灰褐色 砂粒を多く含む。 良好
19-60 108	溝-1 下層	口括 腹径 直径 器高	— — 14.3 (10.0)	エンタシスの完璧した丸部。側部はにくくながら、段をもってさらに内凹ぎみに広がる。側端部は丸く終る。	側端部の内外面と後の部分は横なで。柱・側部外面は前方に向ひ。側部内面は横ハケ目。円孔4ヶ所。	淡灰白色 1~5mm、10mmの大砂粒を含む。 良好
-61 109	溝-1 下層	口括 腹径 直径 器高	— — 16.1 (4.5)	輪型高环の脚部。短い中空柱部。側部は内凹ぎみに大きくながら、端部はわずかに下方へ厚厚する。	側端部の内外面は横なで。他の調整は風防のため不規則ながら、側部内面は前方に向ひ。外表面はハケ目で覆われる。円孔4ヶ所。	淡灰褐色 砂粒を多く含む。 良好
61 110	溝-1 上層	口括 腹径 直径 器高	6.1 — 7.3 6.0	受部下位に内凹ぎみに張り、端部はわずかに水滴形のびり。上方へつまみ上げる。充実した腹底が丸い柱部。器底は内凹ぎみに小さく広がる。	受部側部と側端部の内外面は横なで。他の調節は風防のため不規則ながら、側部内面は前方に向ひ。外表面はハケ目で覆われる。円孔4ヶ所。	淡灰褐色 1~3mmの砂粒を含む。 良好
19-61 111	溝-1 下層	口括 腹径 直径 器高	— — 11.0 9.5	受部は外凹ぎみに広がり、端部では内凹りがなされている。受部と側部が対立する。半型・幅広がりの柱部。側部は内凹ぎみに小さく広がる。	受部側部と側端部の内外面は横なで。受部内面は横・外蓋と柱・側部外面は側方向のハケ目。側部内面はなで。円孔3ヶ所。	淡灰褐色 0.5~1.0cmの砂粒を含む。 良好
-61 112	溝-1 中層	口括 腹径 直径 器高	— — 11.5 8.3	受部は外凹ぎみに広がり、端部で上方へわずかにさみ上げ、内凹りがなされていて。短い尖突の柱部。側部は受部より大きく広がり、端部はわずかに内凹へ厚厚する。	受部側部と側端部の内外面は横なで。受部内面は横・外蓋と柱・側部外面は側方向のハケ目。側部内面は横ハケ目。柱部・柱と側部内面上部にはなで。円孔4ヶ所。	淡灰青色 1~2mmの砂粒を含む。 良好
-61 113	溝-1 中層	口括 腹径 直径 器高	— — 10.7 8.5	受部は斜上方へのび、端部で大きくなつて伸び、取扱りがなされている。短い柱部から内凹ぎみに広がる。側端部はわずかに外方へ厚厚する。	受部端部と側端部の内外面は横なで。受部内面は放射状・外表面は前方に向ひ。側部外面は横ハケ目。柱部・柱と側部内面上部にはなで。円孔4ヶ所。	淡灰青色 1~3mmの砂粒を含む。 良好
-61 114	溝-1 下層	口括 腹径 直径 器高	— — 9.4 (6.8)	受部は斜上方へのび、端部で大きくなつて伸び、取扱りがなされている。短い柱部から内凹ぎみに広がる。柱部は斜方に傾く、大きく側部が広がる。	受部端部は内外面とも横なで。受部内面は放射状・外表面は前方に向ひ。側部外面は横ハケ目。柱部は斜方向に向ひ。柱部外面と側部内面はなで。円孔4ヶ所。	淡灰黄色 1~3mmの砂粒を含む。 良好
22-61 115	溝-1 中層	口括 腹径 直径 器高	— — 12.6 (8.5)	誤形巻合。受部と側部の接合部が大きくくびたら。受部は腰をもって内凹ぎみ。側部をもって外凹ぎみに広がり、翼部外間にも腰がみられる。	側端部の内外面は横・受部の柱外表面は横なで。受部内面はハケ目。側部内面下部はハケ割り。他はなで。	淡灰褐色 1~2mmの砂粒を含む。 良好
20-61 116	溝-1 下層	口括 腹径 直径 器高	8.8 — 9.4 8.1	最大腹径がやや上位にある深い体形。器底はわずかにくびれる。口括部は斜上方へ厚厚する。尖突が門牙型。	口括部は内外面とも横なで。体部は内外面ともなで。	淡灰褐色 1~3mmの砂粒を含む。 良好
-61 117	溝-1 中層	口括 腹径 直径 器高	8.2 — 3.2 6.0	体部は尻部より内凹ぎみに立ち上がり。側部は斜上方へのびる。一底。	口括部は内外面とも横なで。体部は内外面ともなで。底部は柱押す。	淡灰褐色 砂粒を含む。 良好

試験番号 等級-支給地 上部番号	遺傳 機器	高 度 (cm)	形 態 類	性 能	備 考	
- 61 118	薄 - 1 下層	口径 底径 底長 基高	9.0 — 2.8 6.8	体部は底部から内凹込みに立ち上がり。頭部はわずかにくびれ、口部は内凹込みに立ち上がり。口部部は丸く開く。半球形。	全体に作りが粗雑で、手堅い風。口部尾と底部外縁にわずかに解かいハゲ部がある。	暗褐色 0.5~1 mmの砂粒を含む。 良好
21- 61 119	薄 - 1 下層	口径 底径 底長 基高	12.8 — 2.4 12.2	外縁は底部から内凹込みに立ち上がり。頭部は要に近く。頭部はわずかにくびれ。頭部は上方へ屈く。口部部は丸く開く。口部部は底打っている。小さく平底。	口部部内外縁に滑り感、内面にその後なで。体部外縁はなで。体部内面二半はなで。下にはヘア線。	灰黄色 無砂粒を含む。 良好
- 61 120	薄 - 1 下層	口径 底径 底長 基高	11.0 — 1.6 5.7	体部は外上方に内凹込みにひび。口部部はわずかに外反する。小さな平底。	口部部内外縁とも穢なで。体部内面は後へ押す。私は風生のため不鮮明であるが、なでて思われる。	灰皮褐色 0.5~2 mmの砂粒を多く含む。 良好
61 121	薄 - 1 中層	口径 底径 底長 基高	9.7 — 1.8 5.8	小さな底部から内凹込みに斜上方へたどりかる。口部部は底部が高く、先く尖る。	口部部の内外縁は穢なで。体はなで。	淡灰白色 無砂粒を含む。 良好
20- 61 122	薄 - 1 下層	口径 底径 底長 基高	11.1-11.2 — 2.8-3.1 7.8	頭部全体が横円形にゆがんでいる。体部は底部より内凹込みにせちらがる。頭部はわずかにくびれ。口部部は斜上方へ屈く。平底。	口部部の内外縁は穢なで。体部外縁は放射状の叩き目。その後一筋なで。内面は、放射状に盛りなで上げ。	茶褐色 1~2 mmの砂粒を含む。 良好
20- 61 123	薄 - 1 中層	口径 底径 底長 基高	9.7 — 1.8 5.8	丸底風の小さな平底。体部は内凹込みに立ち上がり。口部部はわずかに外反する。	口部部に内外縁とも穢なで。体はなで。	灰皮褐色 無砂粒を含む。 良好
- 61 124	薄 - 1 下層	口径 底径 底長 基高	12.3 — — 10.0	丸底風の底羽。体部は外上方へのび、中央より上方へのびる。頭部はわずかにくびれ、口部部は斜く外反する。口部部は外縁にわずかに屈する。	口部部は内外縁とも穢なで。体部は叩き目。底部はなで、へら削り。体部内面はなで。内面底部は滑り感。	淡灰白色 1~2 mmの砂粒を含む。 良好
21- 61 125	薄 - 1 下層	口径 底径 底長 基高	11.8 — — 9.5	丸底風の底羽から、内凹しながら立ち上がる体部。頭部はわずかにくびれ。に喉部に内凹して斜上方へのびる。	口部部の内外縁は穢なで。体部外縁は叩き目。内面はなで。底部は穢なで。	淡灰白色 0.5~3 mmの砂粒を含む。 良好
- 61 126	薄 - 1 中層	口径 底径 底長 基高	9.3 — — 7.6	丸底風の底羽より、内凹込みに立ち上がる体部。頭部はわずかにくびれ。口部部は内凹込みに立ち上がる。	口部部内外縁。体部外縁なで。体部内面はへらなで。軸下部が吸り、底部なでつくり。	茶褐色 1~2 mmの砂粒を含む。 良好
61 127	薄 - 1 下層	口径 底径 底長 基高	9.6 — — 6.2	丸底の底羽より、外上方へのび、さらに内凹込みに立ち上がる体部。底部はわずかにくびれ。に喉部はわずかに外反する。底部内面に吸がある。	口部部内外縁とも穢なで。体部、底部は内外縁ともなで。	淡灰褐色 無砂粒を多く含む。 良好
- 61 128	薄 - 1 下層	口径 底径 底長 基高	8.6 — — 5.8	丸底の底羽。体部は内凹込みに立ち上がる。底部はわずかにくびれ、に喉部は細く外反する。	口部部内外縁とも穢なで。体部内外縁はなで。	乳黃褐色 1~2 mmの砂粒を含む。 良好
20- 61 129	薄 - 1 下層	口径 底径 底長 基高	10.1 — 1.4 7.0	丸底込みの小さな平底。体部は斜上方へのび、内凹込みに立ち上がる。頭部はわずかにくびれる。口部部は斜上方へ屈する。口部部は断面二角形で終る。	口部部内外縁にハケ部。体はなで。口部部内面はハケ部。	乳黃褐色 0.5~3 mmの砂粒を含む。 良好

試験番号 学名・学年(内) 上部番号	道 横	筋 量 (mm)	形 異 味	技 法	備 考
21-61 130	胸 -1 下層	口筋 10.8 腹筋 1.4 底筋 8.6	尖端がみの小さな平底。体部は内凹ぎみに立ち上がり、腹筋はわずかにくびれる。口筋部は細く外反する。	口筋部は内外両指押え、その後内面はハケ目。横は全用な。	淡黄褐色 1~2mmの砂粒を多く含む。 良好
-61 131	胸 -1 中層	口筋 11.0 腹筋 一 底筋 一 筋高 9.0	丸尻風の状態から、斜上方へ立ち上がる体部。腹筋はわずかにくびれ、口筋部は細く外反する。口筋部は断面三角形である。	口筋部外面は叩き日の後、弱い横などで。内面はその後へラ巻き。体部外筋は叩き日の後、なでと丸いつら巻き。体部内筋はへラ巻き。	淡黄褐色(外面) 淡黄褐色(内面) 1~2mmの砂粒を多く含む。 良好
20-62 132	胸 -1 下層	口筋 15.2 腹筋 4.1 底筋 7.5	厚手の突出平底。体部は外上方へのび、口筋部は内向する。口筋部は丸く折る。	口筋部はなで。体部外筋はハケ目とされるが風化によって少部分。内面はへラ巻き。底筋底面に木炭風のへラ巻。	乳白色 1~3mmの砂粒を含む。 良好
21-62 133	胸 -1 中層	口筋 11.5 腹筋 一 底筋 3.4 筋高 6.4	平底の突出平底から、内凹ぎみに立ち上がる体部。	口筋部は折れえた後、弱い横などで。体部外筋は叩き目。体部内筋と底筋底面はなで底筋内筋はへラ巻。	淡黄褐色 1~2mmの砂粒を含む。 良好
22-62 134	口筋 17.4 腹筋 一 底筋 3.1 筋高 8.3	一氏。体部は外上方へのび。口筋部は外反する。	口筋部は内外両とも横などで、内筋はその後弱いへラ巻き。体部外筋は風化のため不鮮明なへラ巻き。内筋もへラ巻き。底筋外筋もなで。	淡黄褐色 1~3mmの砂粒を含む。 良好	
20-62 135	胸 -1 上層	口筋 14.6 腹筋 1.0 底筋 8.1	尖端がみの平底より、外上方へ立ち上がる体部。口筋部は丸く折る。	口筋部は無調査。体部外筋は心とりの叩き目。内筋はハケ目。底部外筋はへラ巻。	乳白色 1~3mmの砂粒を含む。 良好
22-62 136	胸 -1 下層	口筋 31.8 腹筋 31.8 底筋 一 筋高 (15.7)	腹筋が大きく入り、底部近くある。腹筋はくびれる。口筋部は細く外反し、外筋へ逆厚し、腹をもって斜上方へのびる。口筋部は外筋へ肥厚する。	口筋部内外両と腹筋外筋は横で。体部外筋はハケ目。内筋はへラ巻。中筋はハケ目。	淡黄褐色 1~2mmの砂粒を含む。 良好
62 137	口筋 9.8 腹筋 一 底筋 5.0 筋高 5.5	体部は内凹ぎみに立ち上がり、口筋部で断面三角形である。厚手の長い舌部、舌部中央がわざかに凹んでいる。	口筋部は控押え。体部は内外両ともなで。底筋は筋紹え。全体に筋土筋の跡が残り、筋筋をつくり。	乳白色 無砂粒を含む。 良好	
20-62 138	口筋 8.6 腹筋 一 底筋 4.7 筋高 5.8	体部は内凹ぎみに立ち上がり、口筋部は断面三角形である。厚手の長い舌部、舌部中央がわざかに凹んでいる。	口筋部内外両とも横などで。体部は内外両とも薄なへラ巻き。舌部筋紹えの後、なで。	乳白色 1~2mmの砂粒を含む。 良好	
-62 139	口筋 10.8 腹筋 一 底筋 5.5 筋高 7.5	体部は斜上方へ立ち上がり。口筋部で横する。口筋部は断面三角形で折る。厚手の長い舌部、舌部中央が凹んでいる。	口筋部は内外両とも横で。各筋は内外両とも薄なへラ巻き。舌部外筋・下筋は指押え。	乳白色 無砂粒を含む。 良好	
22-62 140	胸 -1 下層	口筋 12.0 腹筋 一 底筋 一 筋高 (14.5)	体型は上方へ立ち上がりが早い筋別。口筋部はなく、わずかに外反する。薄あるいは筋筋つくものと思われる。筋筋下筋にはない。	口筋部内外両は指さえた。口筋外筋は叩き目。内筋はなで。	淡黄褐色 1~5mmの砂粒を含む。 良好
21-62 141	胸 -1 二層	口筋 14.7 腹筋 一 底筋 一 筋高 12.6	尖端。体部は斜上方へ立ち上がり。瘦い。筋筋は筋筋がなくなり。断面三角形で折る。	口筋部は叩き日の後、内筋指押え。外筋なで。腹筋、底筋外筋叩き日の後、体部上半はなで。筋筋内筋は強いて上げ。1孔(厚さ1.4mm)	淡黄褐色 1~3mmの砂粒を含む。 良好

開瓶番号 ヌマー実測値 +標高	底 横	口 頭 (cm)	形 總	技 法	備 考
- 62 142	溝-1 下層	口径 13.4 腹径 - 底径 2.3 標高 9.6	尖底頭の平底。体部は茎部から斜上方へ立ち上がり、牛乳でやや張り出す。口唇部でわずかに肥厚し、断面△角形である。	口唇部は内外面とも弱い模なで。体部外面は叩き目、内面はなで。内面底部は押さえ。1孔(厚さ2.3mm)	淡黃褐色 1mm後の部分と6mm 大の小石を含む。 良好
21-62 143	溝-1 上層	口径 14.5 腹径 - 底径 9.3	尖底。体部は側上方へ立ち上がる。口唇部は丸く異なる。	1層・伴・体・武部外表面は叩き目、体部内面 上半はハケ当、下半はなで。1孔(厚さ1. 6cm)	乳白色 2-3mmの砂粒と小石 を含む。 良好
21-62 144	溝-1 上層	口径 15.9 腹径 - 底径 1.1 標高 8.9	丸底頭の小さな平底。体部は外上方への び、中位より上へ立ち上がる。1縫部 で強く外度する。1層部は断面△角形で 異なる。	口唇部は内外面とも強模なで。体部外表面 は叩き目、内面はなで。武部外表面は叩き目 の後なで。中心より離れた位置に1孔 (厚さ0.7mm)	淡黃褐色 2-4mmの砂粒を含む。 良好
22-62 145	溝-1 中層	口径 14.1 腹径 - 底径 1.1 標高 8.1	尖底。体部は側上方へ立ち上がり、口唇部 に比較して深い形状。口唇部は断面△角形で 異なる。	口唇部は内外面とも弱い模なで。体部外 面上半は強模、下半から武部は叩き目。 体部内面はハケ目。武部は押さえ。1孔 (厚さ1.0mm)	
- 62 146	土 壤 10	口径 9.9 腹径 - 底径 - 標高 1.6	十種小注。1)縫部は外反し、口唇部で上 方へ肥厚する。	口唇部は内外面とも強模なで。性はなでと 思われるが、擦耗・風化が著しく不鮮明。	乳白色 精良(クサレ縫を含む) 良好
- 62 147	土 壹 10	口径 15.2 腹径 - 底径 5.4 標高 5.7	丸形容的。体部・1縫部は内湾ぎみに立ち 上がる。高台は断面円形で低い。	口唇部内外面は模なで。体部内面は「窄・ 密」を指収。外表面は擦かいが、蓋は無模。 見込み部には平行縫状筋紋。高台は軋り付 け。口縫部内面にわずかな凹みがある。	銀黑色 鈍土 灰白色 精良 良好

III 東奈良遺跡(88-8) II・N G-2-K・O地区

1. 調査経過

所在地 茨木市天王2丁目

調査面積 180m²

調査期間 昭和63年10月19日～同年11月22日

届出理由 共同住宅建設

当調査地区周辺は、阪急京都線南茨木駅に隣接するため、高層マンションが立ち並ぶ地域である。それとともに、埋蔵文化財の発掘調査も進んでおり、遺跡の環境もおおよそ把握されている。そのなかで当地区は、古墳時代前期の集落と北北西から南東に連なる大溝の西側に位置し、当地区以西では旧境川の影響もあり同時代の遺跡が検出されないことから、集落の西端に位置すると思われているところである。また、当地区北約20m、南東約50mでは、古墳時代前期の土壙が市松状に3列に連なって検出されており、その様子から土壙墓群ではないかと考えられている。

昭和63年8月23日、マンション建設に伴う埋蔵文化財確認調査依頼を受けて、試掘調査を実施した結果、現GL-1.8mに遺物包含層を検出したため、発掘調査の必要があることを依頼者に報告する。その後、依頼者と茨木市教育委員会と協議の結果、昭和63年10月19日から発掘調査を実施することが決定した。しかし、検出遺土の関係から調査地区を南北に二分して調査を実施することになった。

2. 層位(図版41)

当調査地区の基本層位は、約1.4mの造成土下に耕土、淡灰色砂質層・淡青灰色粘質土層(床土)、淡青灰色砂質層・茶黄色砂質層、弥生時代後期から縄文時代にかけての上器片を僅かに含む淡茶灰色粘質砂層・茶灰色粘質土層(一部暗灰色粘土層)、弥生時代後期から古墳時代前期にかけての生活面である灰褐色粘質砂層(一部同粘土層)に分けられる。なお、弥生時代後期から古墳時代前期の生活面の標高は、6.64～6.30mを測り、北から南へ僅かづつ低くなっている。

3. 遺構(図版41)

当調査地区から検出された遺構は、弥生時代後期から古墳時代前期の溝5条、土壙7共である。

溝

今回検出された7条の溝は、調査地区内を縦横に交差しながら連なっており、各溝とも出土遺物が少なく時期差がつかめないが、重複関係から溝3・6は他の溝より古いものと思われる。

溝-1

溝-1は、調査地区内を北から南南西に連なる幅2.4m、深さ0.5mを測る断面U字形の溝。溝底部は、北から南へ僅かづつ低くなっている。溝内には、上層には無遺物の淡青緑色粘土層、溝肩から中層にかけては暗灰色・黒色粘土層、下層には灰色粘土層がレンズ状に堆積し黒色・灰色粘土層から古墳時代前期の土器が検出された。また、層位的には溝-3・6、土壌-5埋没後に造られており、とくに溝-3の底部の一部が溝内に残存していた。

溝-2

溝-2は、調査地区中央を東西に通なり、土壌-4の手前でとぎれる溝。溝は、南肩が2段に掘り込まれており、幅1.7~2.5m、深さ0.26mを測る。溝内には、上層に淡青緑色粘土層、淡灰色砂層、淡灰色粘土層が堆積し、淡灰色砂層から僅かながら古墳時代前期の土器片が検出された。

溝-3

溝-3は、調査地区北部を東西に通なる幅2.8m、深さ0.62mを測る断面U字形の溝。溝底部は、西から南へ僅かづつ低くなっている。溝内には、上層に淡青緑色粘土層、下層に黒色粘土層が堆積していたが、遺物は全く検出されなかった。また溝-3は、溝-1・土壌-3埋没後に掘られたものであることが層位的に確認されたが、溝-1以降では平面・断面では確認されないことから、とぎれるか由へ蛇行していたものと思われる。

溝-4

溝-4は、調査地区南部を東西に通なる幅1.0~1.75m、深さ0.1~0.13mを測る浅い溝。溝は、西から東へ溝幅が狭まり、溝底部も起伏がある。溝内には、灰色砂層が堆積しているが、遺物は全く検出されなかった。

溝-5

溝-5は、調査地区南部を東西に通なり、中央部でほぼ直角に屈曲して、溝-6と重複し、南へ伸びる幅0.4~0.75m、深さ0.12~0.15mを測る断面U字形の溝。溝内には、灰褐色粘質砂層が堆積するが、遺物は全く検出されなかった。

溝-6

溝-6は、調査地区内を各溝と交差・重複しながら南北に通なる幅1.1~2.0m、深さ0.66~0.78mを測り、溝底部は北から南へ僅かづつ低くなっている。溝内には、11層に分ける砂・砂質層が堆積していたが、遺物などは全く検出されなかった。溝-6は、北半調査時には溝自体の上層を灰色粘土層が堆積し、生活面と同色であったため確認できなかったが、溝-1の西肩・溝底部の一部が砂層であったことから溝-6が連なっていたものと思われる。

土壌

当調査地区から検出された土壌7基は、前記したようにH・N G-2-C・P・G・H地

区(昭和48年度調査)検出の21基、同H-2-D・H-3-A地区(昭和48年度調査)検出の8基の墓と思われる土壙群と形態・規模が似ていることから、土壙墓の可能性がある。

土壤-1

土壤-1は、調査地区中央部で検出された長軸2.05m、短軸1.4m、深さ0.2mを測る椭円形掘りばち状土壙。上壙内には、黒色粘土と淡青灰色粘土の互層・淡灰色砂質粘土層・灰色砂層が堆積し、黒色粘土から古墳時代前期の土器片が検出されている。

土壤-2

土壤-2は、調査地区の北西部でその一部を検出したのみであるが、西壁面上層から推定される規模・形態は、長軸約3.4m、短軸1.1m以上、深さ約0.42mを測り、長軸をほぼ南北に取る円形掘りばち状土壙である。上壙底部は、南側が一段低くなっている。土壤内には、上層より青灰色粘土層・灰色粘土層・黒色粘土層・暗灰色粘土層が堆積し、とくに黒色粘土層は炭化物を含み、土壙の掘り方に沿って薄く三日月状に堆積しておらず、古墳時代前期の土器片が検出された。

土壤-3

土壤-3は、同じく調査地区の北西部でその一部を検出したのみであるため明確でないが、西壁面上層から推定される規模・形態は、長軸2.9m以上、短軸0.8m以上、深さ0.25m以上を測り、長軸をほぼ南北に取る椭円形掘りばち状土壙と思われる。土壤内には、同じく青灰色粘土層・黒色粘土層・暗灰色粘土層が堆積し、黒色粘土層は炭化物を含み、掘り方に沿って薄く三日月状に堆積している。しかし、遺物は全く検出されなかった。

土壤-4

土壤-4は、調査地区中央部で検出された長軸2.6m、短軸1.5m以上、深さ0.57mを測り、長軸をほぼ南北に取る椭円形掘りばち状土壙。上壙内には、上層から淡茶灰色砂質層・灰濁色粘土層・暗灰色粘土層(炭化物を含む)、青灰色粘土層・灰色粘土層が堆積しているが遺物などは全く検出されなかった。

土壤-5

土壤-5は、溝-1によって土壙の約1/2が削平されている。土壤は、径1.6m、深さ0.41mを測る円形掘りばち状土壙と考えられ。土壤内には、灰濁色粘土層・灰色粘土層・黒灰色粘土層(炭化物を含む)・暗灰色粘土層が堆積していたが、遺物などは全く検出されなかった。

土壤-6

土壤-6は、同一4の南約1mにその一部が検出された。土壤の形態は、変形椭円形掘りばち状土壙と思われ、規模も長軸2m以上、短軸1.2m以上、深さ0.5m以上と思われるがいずれも明確でない。土壤内には、灰色粘土層(炭化物を含む)・青緑色粘土層が堆積していたが、遺物などは全く検出されなかった。

土壤-7

土壤-7は、調査地区の南東でその一部が検出され、北側は溝-5によって削平されている。そのため形態・規模は明確でないが、東壁面土層を参考に推定すると、長軸3m以上、短軸1.4m以上、深さ0.4m以上の隅丸長方形の土壤と思われる。土壤内には、青緑色粘土層(炭化物を含む)・淡青緑色砂質粘土層・同粘土層・淡灰色粘土層が堆積していたが、遺物などは全く検出されなかった。

4. 遺 物

今回検出された遺物は、包含層・溝-1を中心に弥生時代後期から中世にかけての上器が、細片で総数340点と少なかった。そのなかで、僅かに溝-1から古墳時代前期(東奈良遺跡土師器編年図に位置する)壺・壺型土器が3点出土したが、摩耗が著しく図示はできなかった。

5. 結 語

当調査地区は、調査範囲が南北に狭長で狭いうえ、出土遺物も少ないとため、7基の土壤と6条の溝の性格を把握することは困難であった。しかし、約10mの隔たりをもって隣接する昭和48年度調査のG-2-C・P・G・H地区とは、密接な関係があるものと思われ、当調査地区の検出の遺構を考えるのに重要な参考資料である。

昭和48年度調査のG-2地区からは、弥生時代中期の方形周溝墓2基、同方形周溝状遺構2基、古墳時代前期の土墳墓群と思われる土壤21基、同中期の円形周溝1基、その他溝状遺構などが検出されており、あたかも弥生時代から古墳時代にかけての墓域を思わせる所であった。そのなかで、今回の調査地区とつながりがあると思われる遺構は、土壤と溝である。つながりのある溝としては、当地区的溝-1と昭和48年度調査の溝-IIとは、溝の方向・規模・出土遺物が同じであることから同一の溝であると思われる。溝-IIは、土壤墓群の墓域と他の地区とを区画すると思われていた溝であったが、溝の西側にも土壤が存在することから、それが当時はまらないことが判明した。また、土壤に関しては、昭和48年度調査の土壤が長軸2.1~4.25m、短軸1.25~2.1mの隅丸長方形の土壤が3列に市松状に整然と連なり、そのうち14基から多量の上器が検出されたのに対して、今回検出された土壤はその全容を検出していないため明確でないが、整然とした連なりはみられないものの土壤-1~4・7がその規模・形態や僅かに出土している遺物から同じ性格をもつ土壤墓群の一部であると思われ、土壤墓群がさらに西側へ広がっていることが判明した。しかし、今回の調査地区の西側の試掘調査では、遺構・遺物ともに検出されていないことから、さらに西へは広がらないと思われる。

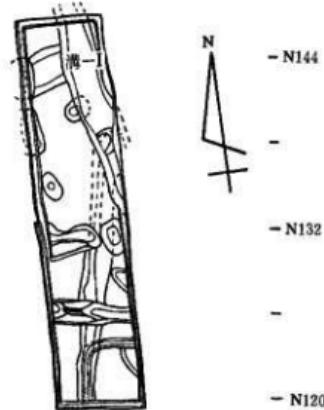
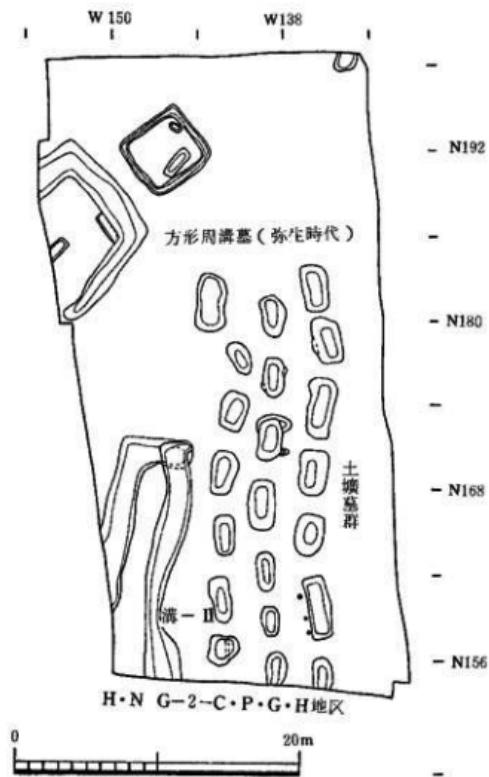


図-1 H・N G-2-K・O地区とG-2-C・P・G・H地区との遺構関連図

IV 東奈良遺跡(88-9)II・N K-1-A・B・E地区

1. 調査経過

所在地 津木市大王

調査面積 280m²

調査期間 平成元年1月9日～同年1月31日

届出理由 共同住宅建設

当地区の現状は、西側に大正川、東側に阪急京都線が走り、その両堤に囲まれた低地に位置する。現在のところ当地区付近では、数多くの試掘調査を実施しているものの遺構・遺物の検出例は少なく、北側約100mの天王小学校のグラウンドから古墳時代前期の壺棺1基と中世頃の掘立柱建物群が検出されたのが唯一の例である。それらの点と東約200mの沢良宜西集落では中世墳の遺物が多く検出される点から、現大正川に沿っては近世を含み遺物は少なく、東奈良遺跡の西端と考えられているところもある。

昭和63年10月12日、マンション建設に伴う埋蔵文化財確認調査依頼を受けて試掘調査を実施したところ、耕上而下約0.6mで遺物は含まないものの包含層らしき茶灰色粘土層が検出されたことから、発掘調査の必要があることを依頼者に報告する。その後、依頼者と津木市教育委員会と協議の結果、平成元年1月9日から発掘調査を実施することが決定した。

2. 層位(図版43・44)

当地区の層位は、上層から耕土、茶灰色・淡茶灰色砂質層(床土)、淡灰色・淡茶灰色粘土層(古墳時代後期から中世頃の土器片を僅かに含む)、生活面の黄色粘土層(一部砂質粘土層)に分けられる。なお、生活面の標高は5.95～6.03mを測り、東から西へ僅かに低くなっている。

3. 遺構(図版43・44)

当地区から検出された遺構は、方形周溝状遺構1基、溝2条、十廻3基、柱穴跡9穴と他の地区に比較して、予想されたように少なかった。また、遺構自体も規模に比較して検出時の深さが浅く、包含層検出の遺物も時代幅があり細片化・摩耗していることから、後世に削平されたものと思われる。

方形周溝状遺構

方形周溝状遺構は、幅2.5～3.5m、深さ0.04～0.27mを測る溝がN-46°～W(N-56°～E)にとって方形に回っている。溝に囲まれた台状部は、北東～南西軸長約15.5m、北西～南東軸長11m以上を測る。溝の一部はさらに北東に延びていることから、北東に溝を共有して1基存在するものと思われる。周溝は、北東と北西の溝の底部に僅かに落差があ

るものの、他はほぼ平坦である。溝内には、暗茶灰色粘土層(一部茶灰色)、茶灰色粘土と黄色粘土の互層が堆積しており、占墳時代後期から中世にかけての土器片が僅かに検出された。

土壤-1

土壤-1は、方形周溝状遺構の台状部内のはば中央部に位置し、長軸2.0m・短軸1.2~1.6m・深さ0.47mを測る隅丸長方形掘りばち状土壤。土壤内には、生活面の土質とよく似た黄褐色粘質土層が堆積していたが、遺物は全く検出されなかった。土壤の長軸が、方形周溝状遺構の周溝と一致することから何らかの関係があるものと思われる。

土壤-2

土壤-2は、方形周溝状構の北西溝上に位置し、長軸1.1m、短軸0.36m、深さ0.09mを測る小形の揃円形土壤。土壤には、淡灰色砂質層が堆積していたが、遺物は全く検出されず、肩位的には溝埋没後に掘られている。

土壤-3

土壤-3は、方形周溝状遺構の南西溝の外側に位置し、長軸0.52m、短軸0.4m、深さ0.16mを測る小形の揃円形土壤。土壤には、灰色砂質層が堆積していたが、遺物は全く検出されなかった。

溝-1

溝-1は、方形周溝状遺構の南西溝埋没後に掘られた溝で、幅0.56m、深さ0.08mを測り、検出長4.7mでとぎれる。溝内には、茶灰色砂質層が堆積しており、少量の炭化物が検出された。

溝-2

溝-2は、調査地区西部に僅かに検出された幅0.4m、深さ0.06mの溝。溝内には、暗茶灰色粘土層が検出されたが、遺物は全く検出されなかった。

柱穴跡

柱穴跡は、方形周溝状遺構の台状部や周溝内に散在して検出された。柱穴は、径0.2~0.3m、深さ0.1~0.3mを測るが、検出数が少ないので建物などは復元できなかった。

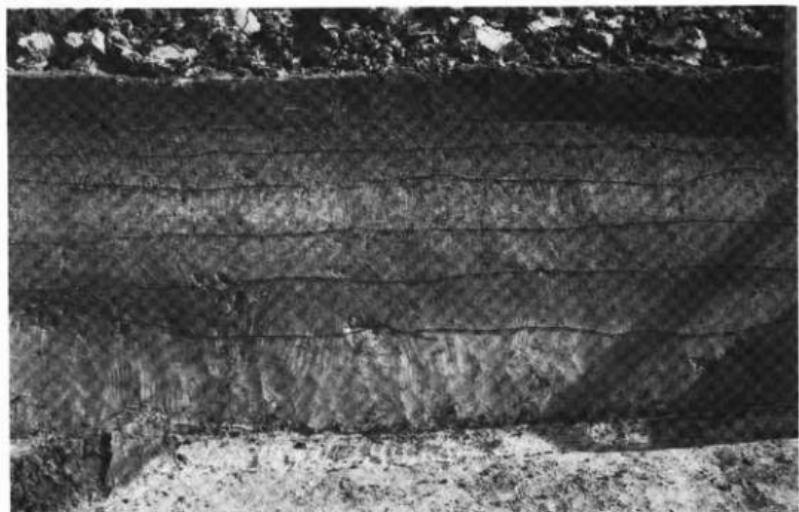
4. 遺 物

当調査地区から検出された遺物は、非常に少なく、古墳時代後期から中世(12世紀)にかけての土器片が総点数約80点であった。そのなかで、図示できるものはなかった。

5. 結 語

当調査地区から検出された方形周溝状遺構は、周溝内から古墳時代後期(6世紀末)から中世にかけての遺物が検出されており、包含層と同じく時期幅が広く遺構の時期を限定できなかった。また、台状部から検出された遺構は、土壤1基と僅かな柱穴跡のみであった。

さらに周辺地区的調査は天王小学校のグランドのみであり、それも中世の掘立柱建物跡と古墳時代前期の壹棺以外検出されていないことから、関連遺構・遺物も少なく方形周溝状遺構の性格は判明しなかった。



挿図-2 H・N K-I-A・B・E地区 東壁面方形周溝状遺構土層断面

V 東奈良遺跡(88-10) H・N II-4-A・B地区

1. 調査経過

所 在 地 茨木市沢良宣西1丁目

調査面積 312m²

調査期間 平成元年3月9日～同年4月19日

届出理由 共同住宅建設

当調査地区周辺は、十数年前に開発が進み一時期中断していたが、昭和62年頃から再びマンション建設ブームが起り、今回の調査地区の発掘調査によってH-4地区(108m四方)の調査をほぼ終了したことになる。その内、昭和61・63年度発掘調査概報(茨木市教育委員会)でH-4-B、同-C地区、I-4-B・C・F・G地区を報告し、その他は今回の概報で報告することになる。それらの調査によって、H-4、I-4地区一帯は、弥生時代中期から古墳時代前期にかけての大形の構が集中するところであることが判明した。

昭和63年12月14日、マンション建設に伴う埋蔵文化財確認調査依頼を受けて、試掘調査を実施した結果、現GL-0.5mから上部器片を包含する淡茶灰色粘質土層が検出され、周辺部の調査からも遺構・遺物が検出されていることから、発掘調査の必要があることを依頼者に報告する。その後、依頼者と茨木市教育委員会で協議の結果、平成元年3月9日より発掘調査を実施することが決定した。

2. 層位(図版47・48)

当調査地区の層位調査は、東・南・西壁面を利用して行った。上層から耕土、灰黄色砂質土層(床土)、茶灰色砂質層・淡茶灰色砂質層(包含層)、以下調査地区的北東から南西部にかけては白潤色微砂質層・灰色粘質土層の古墳時代前期頃の生活面が広がる。他の地区は、東から南東に連なる同時期の溝状遺構の砂・砂質層が複雑に堆積している。さらに下層は、西から南東、北西から南東へ連なる大形の溝状遺構のため、調査地区のはば全域が溝に含まれ、80層以上に分けられる砂・砂質層、植物遺体層が互層状態を成し複雑に堆積している。以下地山の緑灰色粘質土層、黒色粘土層、淡灰色粘土層、黑色粘土層、淡灰色粘土層、淡青灰色砂質層が続き、溝状遺構の底部は淡青灰色砂質層である。

なお、古墳時代前期頃の生活面の標高は6.34～6.43mを測り、北から南へ僅かに低くなっている。下層の弥生時代中期から古墳時代前期の溝状遺構の溝肩の標高は、全域が溝であるため明確でないが、最も高い溝肩で6.09m、低い所では5m前後である。

3. 遺構(図版45～48)

当調査地区からは、2面の生活面が検出され、溝4条以上、土壙5基、掘立柱建物跡1棟を含む柱穴跡40穴などが検出された。そのなかで溝は、調査地区内を弥生時代中期から

古墳時代前期にかけての大形の構が、互いに重複しながら縱横に走るため、規模・形態・數が明確でないところがある。

第Ⅰ造構面

掘立柱建物跡

掘立柱建物跡は、第Ⅰ生活面北西部に位置する。建物は、桁行4間(桁行長4.55m)・梁行2間(梁行長4.0m)を測り、建物の主軸(梁行)はN-23°-Wにとる。両梁妻側の柱穴跡は、他のものより小形であり、同規模のものが棟に沿って検出された。両梁行の掘り方は、径(長軸)0.5~0.7m、深さ0.45~0.63m、柱自体の穴径は0.2m前後を測る。それに対して、棟に沿った柱穴跡は径0.16~0.22m、深さ0.10~0.22mの小形である。掘立柱建物跡は、建物・柱穴の規模から倉庫のようなものと思われ、柱穴跡出土の遺物と樹位関係より古墳時代前期頃のものと考えられる。

他の柱穴跡からは、建物などは復元できなかったが、出土遺物より同時期のものと思われる。今回検出された柱穴跡は、いずれも後述する大形の溝埋没後の軟弱な地盤上に掘られており、重量のある建物を支えることができないことから、柱穴跡の規模に比べて小形のものであったと考えられる。

土壙

土壙I-1(挿図-3)

土壙I-1は、調査地区西部で掘立柱建物跡の南側で検出され、土壙I-2と重複している。土壙は、長軸をほぼ南北にとり、長軸0.90m、短軸0.83m、深さ0.31mを測る円形に近い梢円形割りばち状を成す。土壙内には、茶灰色粘質土層、炭化物を含む灰色粘質土層、灰色粘質土と白灰色砂質層の互層が堆積し古墳時代前期の壺・變形十器が検出された。

土壙I-2

土壙I-2は、同I-1と重複・削平されている。土壙の推定規模・形態は、長軸を北西-南東にとり、長軸2.2m、短軸1.6m、深さ0.25m程の梢円形割りばち状土壙と思われる。土壙内には、灰色砂質層が堆積し古墳時代前期の土器細片が検出された。

土壙I-3

土壙I-3は、長軸を北西-南東にとり、長軸3.5m、短軸2.6m、深さ0.21mを測る浅い変形梢円形の大形土壙。土壙内には、5層に分けられる土層がレンズ状に堆積し、上層は茶褐色粘質土に黄色粘質土が混入していることから埋め固められた可能性がある。下層の暗灰色粘質土層より古墳時代前期の土器細片が検出された。

土壙I-4

土壙I-4は、調査地区北部に位置する長軸1.36m、短軸1.26m、深さ0.21mを測る隅丸方形の土壙。土壙内には、茶灰色砂質粘土層・厚さ0.02m前後の炭化物層・淡灰色粘質砂層が堆積していたが、遺物は全く検出されなかった。

溝

溝I-1

溝I-1は、調査地区南東部全体が1/4円状に砂層が広がっており、溝状遺構の形態を成していた。溝は、溝の上に溝が流れる自然流路の形態を成すため、プランで溝の連なりを検出するのは困難であった。東・南の土層断面からみると、東断面に2回に分けられる溝状遺構の堆積がみられたが、南側では下層の溝との関係からさらに複雑な堆積のため明確でない。土層断面から推測される規模は、幅約6m・深さ1.4mである。

溝I-2

溝I-2は、調査地区内南西部でその一部を検出したのみであるため、土壤の可能性もある。検出時の深さ0.3m、幅2m以上を測り、内部には暗灰色砂質粘土・同粘土がレンズ状に堆積しており、古墳時代前期の土器が多量に検出された。

第II遺構面

第II遺構面は、調査地区内全体が溝状遺構の重複であるため、溝の連なりが平面でも断面でも明確に確認できない状態であった。そのなかで、周辺調査地区で検出された溝との関係から、3条以上の溝が重複しているものと思われる。

溝II-1

溝II-1は、調査地区北部中央から南東にかけて連なるが、調査地区北側で幅1~2mの堀で溝II-3と分けられている。調査地区中央で合流し溝も深くなり、南東へ連なる。北側では、幅6~7m、深さ1.5~2.0m、中央から南側では上・中層を溝I-1・II-2と重複・削平されているため明確でないが、幅9m以上、深さ2.6m以上あったものと推定される溝。溝よりの遺物は、前述したように上・中層を時期の異なる溝との重複のため畿内第III様式~古墳時代前期までの幅広い時期のものが検出された。しかし、溝本来の堆積土が残る溝の北部と中・南部の再下層よりは、畿内第III~V様式が検出され、僅かながら第I様式も含まれていた。

溝II-2

溝II-2は、調査地区西部から大きく蛇行して南に連なる。溝は、南東部で上層を溝I-1と重複しているため削平されている。また堆積土層から、溝自体が蛇行している関係から北から南へ流れが移動している様子が見られた。これらの点から溝の規模は、明確でないが、当初は幅8~10m、深さ1.2~1.6mと推定される。その後南西へ移動した時は、幅は調査地区外に広がるため判明しないが、深さ1m前後浅いことから広範囲に広がっていたものと思われる。溝II-2も他の溝との重複関係から、川土遺物は畿内第III様式~古墳時代前期までの上器が検出されたが、溝本来の堆積土が残る溝西部下層からは畿内第III~V様式、流れが南西に移動した後の堆積土からも同時期の土器が検出された。

溝II-3

溝II-3は、調査地区北東部でその一部を検出したのみである。溝は、その川土遺物時

期から溝II-1と同時期に存在しており、並行あるいは合流して連なっていたものと思われる。溝の規模は、幅が調査地区外に広がるため不明確であるが11m以上、深さ0.7mと推定される。出土遺物は、畿内第III～IV様式が僅かに検出された。

4. 遺 物

当調査地区からは、溝状遺溝を中心に弥生時代前期～古墳時代前期の土器がコンテナーパットに約40箱検出された。しかし、上器量に比較して復元あるいは図示できるものは少なかった。各土器の詳細は、土器表に記述している。

弥生式土器

壺型土器 150は水差型土器、151は口唇部が下方に長く肥厚する壺、152は台付無頸壺、いずれも畿内第III～IV様式の溝II-1出土である。153は短い筒状頸部から口縁部は短く下方へ屈曲する畿内第IV様式の溝II-2出土である。154は長頸壺で溝II-1、155は短頸壺で溝II-2、156は包含層出土のいずれも畿内第V様式である。

甕型土器 157・158は大形の甕、158には肩部に断面三角形の貼付け突帯紋、口唇部と突帯紋にヘラ刻み目紋が施されている。いずれも溝II-1出土の畿内第III～IV様式である。159は小形の甕で溝II-3、160は口径に比較して胴部が大きく張る甕で溝II-1出土、161は肩部が張る甕で溝II-2出土のいずれも畿内第IV様式である。162は体部にヘラ磨きを行う。163口径に比較して器高の高い小形の甕で、いずれも溝II-2出土の畿内第V様式である。

その他 台付無頸甕の台部164、台付鉢の台部165はいずれも溝II-1出土の畿内第IV様式。高环脚部の166は溝II-1出土の畿内第V様式。167は、坏部が3段に屈曲する畿内第IV様式の溝II-1出土である。168は小形の鉢で包含層出土の畿内第V様式である。

土師器 今回出土した古式土師器は、東奈良遺跡編年(東奈良発掘調査概報Ⅰ昭和54年)を使用している。

壺型土器 169～173は、腹部が大きく張る球形に近い体部に短い筒状頸部大きく外反する口縁の壺。169は土壺I-1出土、170は溝I-1出土、171は溝II-1出土のいずれも突出平底の東奈良I。172は尖底ぎみの小さな平底の小形の壺で、溝II-1出土の東奈良II～III。173は口唇部が下方に僅かに肥厚して面を持つことから、東奈良Iの溝II-1出土である。174～176は、球形の体部に斜上方へ伸びる直口縁の中形の壺、177～179は同小形の壺。174・177は、平底の東奈良IIの溝I-3出土。178は、丸底風の小さな平底の東奈良IIIの溝I-1出土。175は溝I-1、176・179は溝II-1出土のいずれも丸底の東奈良IV～Vである。

甕型土器 溝I-1出土の180、溝I-3出土の181は、口径と腹径の差が少ない胴長の体部に、突出ぎみの平底の東奈良I。溝I-1出土の182・183・185、土壺I-1出土の184は、平底の東奈良II。186・187は、いずれも溝I-1出土の叩き目による尖底ぎみの底

部の東奈良III。188は、山陰地方の影響をうけた受口状の口縁の東奈良III～IVである。

高環型土器 189は环部が中位で両曲し外反し、190は环部が直線状に延びるもので、いずれも溝II-1出土の東奈良IV～Vである。

器台型土器 191は、山陰地方の影響を受けた該形器台と呼ばれているもので、包含層出土である。

鉢型土器 192は器高に比較して、口径の大きい器形の浅鉢で、突出平底の東奈良Iの溝II-1出土。193・194は、小形の鉢で底部を指押えをして突出平底ぎみにしていることから、東奈良Iの溝I-1出土。195～197は、平底の小形の鉢で、溝I-1出土の東奈良IIであるが、197は内外面ヘラ磨きを施し、碗型高环の环部と同じ形態をしていることから、東奈良IIIの可能性がある。

その他 東奈良IIの瓶型土器198、小形器台の脚部199が溝I-1から出土している。

石器

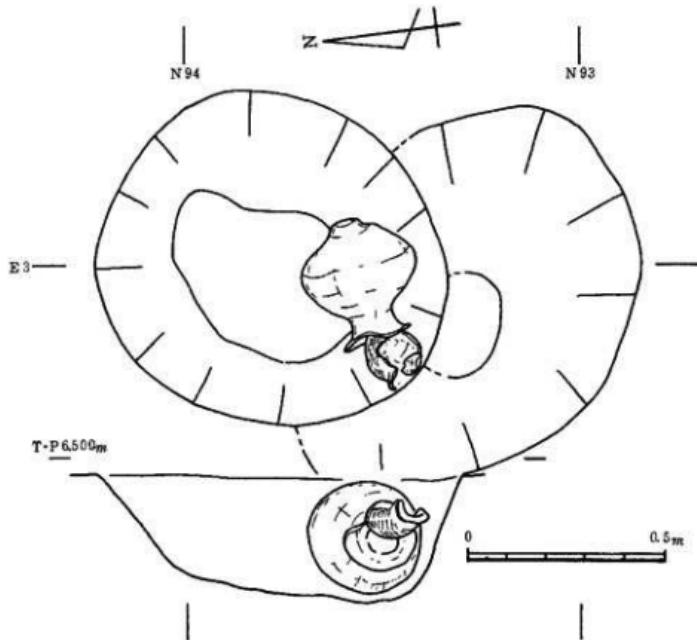
大型始刃石斧200は、基部と刃部を斜めに鋭利なもので切られたように破損している。現存長13.4cm、幅6.2cm、厚さ4.0cm、重量355.5gを測る。溝II-2出土である。

5. 結 語

当地区は溝II-1・2・3、溝I-1・2と堆積層からみて、弥生時代中期から古墳時代前期にかけて大形の溝が集中するところであった。各々溝は、基本的には地形の傾斜に沿って北西から南東に連なっているが、当地区では大きく蛇行するものが見られ、さらに溝自体も溝のうえに溝が形成されているため、不安定な地盤による複雑な流れと堆積を成している。この結果、遺物では各溝の形成・廃絶順序を考えるのは困難であるが、周辺の調査で検出された溝と各溝の最下層から出土した土器から、推測してみる。

弥生時代中期中葉頃、東奈良遺跡の北北西から南南東または南東に連なる幅5～8m、深さ2～3mの大形の溝が形成された。この溝が当地区では溝II-1、南東約17mのH-4-E・F地区(本概報第I章参照)では溝-3(E)、北西約30mのG-3-L・P地区(未報告)では溝IV-1b、さらに北西から北北西約110～230mのG-3-B・C地区、F-3-J地区、F-3-B地区(未報告)でも同一規模・同時期の溝が検出されている。この大溝も同中期末頃埋没し、同後期にはその西側に重複あるいは平行して同一の規模の溝が形成された。この溝が当地区では、西から南東へ大きく蛇行する溝II-2、南東のH-4-E・F地区では溝-3(W)が先の溝-3(E)とはほぼ平行して連なり、北西のG-3-L・P地区では溝IV-1aが溝IV-1bと一部重複・平行して連なる。さらに北西あるいは北北西では同時期の溝は検出されていないが、同中期の溝と重複して存在していたと思われる。再びこの溝も同後期末頃には埋没し、古墳時代前期頃西約50mに、ほぼ平行して連なる同一規模の大溝が再び形成された。(本概報第II章、東奈良遺跡調査概報I 昭和54年、昭和63年度発掘調査概報第III章 茨木市教育委員会 平成元年参照)この頃、当地区は溝埋

没後の不安定な地盤上を東から南東に大きく蛇行する溝I-1が形成された。この溝が東約5mのII-4-B地区検出の溝-1・2(昭和61年度発掘調査概報1第2章 次木市教育委員会 昭和62年参照)、南東のH-4-E・F地区の溝-2(本概報第1章参照)と連なっているものと思われる。また、当地区の溝I-1が東から南東へ大きく蛇行する所に、溝に直交する形で杭列と多数の流木が検出されたことと溝が東へ低くなっていることから、井堰を利用して水を西から東へ流していたと思われる。これらの溝も、先の古墳時代前期の大溝が埋没する頃と同じく埋まり、この後当地区では溝は形成されなかった。溝I-1が形成された頃、溝II-2埋没後の軟弱な地盤上に掘立柱建物・土塼などが作られている。この時期、先の大溝の東側や一部西側で集落が形成されていることから、当地区の一部も好条件とは言えないものの集落として利用したものと思われる。今回検出された多くの溝は、いずれもその形態から人工の溝でなく、自然水路であったものと思われる。これらの溝は、砂・砂質土を中心とする土砂で埋まり、出土遺物の時期幅が少ないとからも、短期間の間に埋没していることが考えられ、溝にはほとんど手を加えることがなかったものと思われる。その自然水路を改修し、僅かながらも治水できるようになるのは、弥生時代後期から古墳時代前期頃であったと思われる。



挿図-3 H・N H-4-A・B地区 土器出土状況図

H N H - 4 - A・B 地区(88-10)弥生式土器観察表 ()は現存値

国際番号 平素-実測番号 土器番号	通　数	法　量 (cm)	形　態	技　術	備　考
23-63 150	溝口-1 下層	口径 9.2 底径 一 高径 4.6 基部 (16.1)	口縁部に、強度より直線的にひびの痕口に蓄積でわざかに内凹する。口再びの方孔がくらべてある。	口縁部と口縁内部は横なで。口部外側に縦ハケ口。他に風化によってへきる。口縫部外側に凹縫紋がある。底部から肩部に腰縫内縫紋。底縫紋を交互に施す。	乳白色 0.5~1 cmの砂粒を含む。 良好
63 151	溝口 1 下層	口径 15.1 底径 一 高径 4.6 基部 (7.4)	強い肩曲みの頸部。に縫部は如く外反し、口縫部で下方へ肥厚し、縦広い面をもつ。全体に直線に比較して、直線が等しい。	口縫部と口縁内部とも横なで。体部内縫部はハケ口。他は風化によって不明。口縫部外側に内縫紋4条と肩縫内縫紋3条。同内側に腰縫内縫紋。肩縫部は外側に腰縫内縫紋を施す。	乳白色 0.5~1 cmの砂粒を含む。 良好
23-63 152	溝口-1 中層	口径 12.1 底径 16.3 高径 9.2 基部 (14.0)	体部は底部から上方へのび、中位やや下方で屈曲して立たせる。に縫部で外側にわざかに肥厚する。底縫部は底部に近くのび、大きく張り、端縫部は丸くなる。	口縫部内外側は横なで。体部内外側とも横筋。縫方向の細かいハケ目。縫部が外側になで。縫部内外側に横なで。口縫部に2~3孔の円孔2~3所。脚部に円孔を9~10所に施す。	乳白色 1~3 cmの砂粒を含む。 良好
23-63 153	溝口-2 下層	口径 16.2 底径 一 高径 4.6 基部 (13.2)	大きく張る体部。強く屈いた状況部。口縫部はわざかに外側に張り、口縫部で斜下方へ肥厚し、張り出し、広い面をもつ。	口縫部内外側とも横なで。体部外側に縫方向の「」字形ハケ目。他に摩耗によって不明。	乳白色 0.5~4 cmの砂粒を含む。 良好
23-63 154	溝口-1 上層	口径 一 底径 12.6 高径 4.2 基部 (19.0)	体部は腰縫の張りの小さい直角。腰縫部は縫部に比較して、よく直線的にひびの長腰縫。底縫部は中央が凹む平底。	体縫・腰縫部外側はハケ目と思われるが、風化のため不明。底縫部はヘラ削り。体部内縫部はなで。	乳白色 0.5~3 cmの砂粒を含む。 良好
23-63 155	溝口-2 下層	口径 11.6 底径 16.6 高径 5.5 基部 (21.2)	体部に最大腹筋が中位にあって、底縫部に比較して肩縫部の張りがやや大きい。底縫部は直角にひび、山腰縫で外反する。口縫部は丸くなる。底縫部は中央が凹む平底。	に縫部内外側は横なで。肩縫部から体部外側部はハケ目。腰縫部内縫部はハケ目。体部内縫部はなで。底縫部はなで。	乳白色 1~3 cmの砂粒を多く含む。 良好
23-63 156	包含層	口径 一 底径 16.8 高径 5.1 基部 (16.7)	体部は直角腹筋が上位にあって、底縫部に比較して肩縫部の張りが大きい。底縫部は直角平底。	体部外縫部はハケ目。縫方向のヘラ削り。底縫部内縫部は直角えの後なで。下位は無ハケ目。底部は把持え、たた。	乳白色、青白灰色 0.5~cmの砂粒を多く含む。 良好 溝口-2の底縫部上層より出土。
27-64 157	溝口-1 下層	口径 36.5 底径 40.1 高径 一 基部 (19.5)	体部に最大腹筋が上位にある。口縫部は「」の半形に屈曲し、に縫部で上下に肥厚する。	口縫部内外側とも横なで。体部内外側とも縫方向のハケ目。	乳白色 1~2 cmの砂粒を含む。 良好
27-64 158	溝口-1 下層	口径 41.4 底径 一 高径 一 基部 (9.6)	口縫部は、腰縫のくびれがくさく。口縫部で腰くびれ外反する。に縫部はわざかに上下に肥厚し曲をもつ。	口縫部内外側とも横なで。腰縫・体部外縫部ハケ目、内縫部ハケ目。口縫部外縫部の上・下の縫にヘラ削り筋紋。腰縫下位に腰縫内縫部貼り付内縫部にヘラ削り筋紋を施す。	乳白色 1~2 cmの砂粒を含む。 良好
24-65 159	溝口 3 下層	口径 10.1 底径 11.7 高径 4.6 基部 (12.8)	体部は最大腹筋が中央よりやや上位にある。底縫部でわざかにくびれ、口縫部が如く外反し、口縫部に曲をもつ。底縫部は縫部に比較して大きい。全体に直線が等しい。	に縫部内外側とも横なで。体部外縫部ハケ目、内縫部ハケ目。	乳白色 1~2 cmの砂粒を多く含む。 良好
27-65 160	溝口-1 下層	口径 19.1 底径 一 高径 一 基部 (7.1)	腰縫部は腰向しながら大きくなっている。口縫部は底縫部に近づく。に縫部に曲をもつ。	口縫部上下に内外側とも横なで。腰縫部内外側と体部外縫部ハケ目。作部内側に腰縫内縫部を施す。	乳白色 1~2 cmの砂粒を含む。 良好

標本番号 学名 色調 上部番号	遺傳 遺傳	性 性 (cm)	形 態	技 法	備 考
- 65 161	両II-2 中層	口径 16.6 腹径 29.4 底径 - 高さ 11.0	体部は背部が大きく張る。II・腹部は大きくなり、I-I'の字形に外反する。 I'部はわずかに上方へ肥厚する。	II腰部内外側とも横なで。背部外観膨張。 最大腹径部前方のヘラ剥き。体部内側は下位で、小後根ハケ目。	淡乳褐色 1mm級の砂粒を含む。 良好
21-65 162	両II-1 上層	口径 15.6 腹径 18.0 底径 3.9 高さ 12.6	魚人腹征がある体部。II・腹部はわずかにくびれ、細く外反し、口径は腹径より大きい。口部は丸く肥厚する。尖端平ら。	口・頭部内外側とも横なで。体部内外側方向のヘラ剥き、内側は下位で。下位は頭部へ寄り、底部は後半。	乳白色、内側下位は 黒褐色 1-2mmの砂粒を多く 含む。 良好
24-65 163	両II-1 下層	口径 8.9 腹径 - 底径 3.0 高さ 9.6	体部は底部より頭上方に直線的にのびる。 II・頭部は細く平らに折れる。底部は中央が凹む平ら。	II腰部内外側とも横なで。体部表面へテリ感。 内側は下位で底部が厚い。全体に粗鰐な作り。	淡乳褐色 1mm級の砂粒を含む。 良好
24-66 164	両II-1 中層	口径 - 腹径 - 底径 10.4 高さ (10.5)	右側葉錐の算出。胸部に内側する。体部下位は大きく両面しながり立ち上がる。	体部下位は内外側とも横方向のヘラ剥き。 体部底面は腹側へ寄り、外側は下位で。頭部外側にヘラ剥きがある。特に尾部は上位で下位で小さく、頭部に「頭輪」をと「孔」とも呼ばれる。	暗褐色 腹の縦と4-10mmの砂 粒を少し含む。 良好
24-66 165	両II-1 中層	口径 - 腹径 - 底径 15.5 高さ (12.7)	右側葉錐の算出。頭部は内側がみに胸部へ寄る。頭部内側へわずかに肥厚する。	体部底部内外側へ寄り。頭部外側は腹側へ寄り、内側は下位で。頭部は内外側とも横なで。頭部下位に「頭輪」をと「孔」とも呼ばれる。	淡乳褐色 0.5mm級の砂粒を少し 含む。 良好
24-66 166	両II-1 中層	口径 - 腹径 - 底径 12.1 高さ (14.8)	高率の算出。長い中空性部より、細く外反する底径の小さい算出。頭部は下方へ肥厚し、頭をもつ。	頭部底面内外側とも横なで。桔・頭部外側は腹側方向のヘラ剥き、内側は下位で。円孔を4ヶ所に及ぶ。体部底面は腹側へ寄り、内側は下位で。	乳白色 腹の縦と5mm級の砂 粒を少し含む。 良好
27-66 167	両II-1 下層	口径 28.4 腹径 - 底径 - 高さ (7.3)	高率の算出。体部下位で腹をもって頂角にて立ち上がり、外反して両び締めをもって張出し、内側がみに立ち上がる。口部は内外に肥厚する。	II腰部と外側面の部分横なで。体部外側は腹側方向のヘラ剥き、内側は下位で。円孔を4ヶ所に及ぶ。体部底面は腹側へ寄り、内側は下位で。	淡乳褐色 暗褐色(内側) 1mm級の砂粒を含む。 良好
- 168	鰓腔部	口径 9.7 腹径 - 底径 3.2 高さ 7.3	体部は底部より頭上方へ立ち上がり、II・IIIに比較して、高さが高い。底部は中央が凹む平ら。	II腰・体部外側に寄り、内側は下位で。底部底面は平ら。	淡乳褐色 1-2mmの砂粒を含む。 良好

HN H-4-A 地区(88-10)土師器観察表

()は現存値

四施番号 又一実測区 十箇番号	通 番	法 量 (cm)	形 と 厚	技 法	備 考
25-63 169	土層-1	口徑 一 腹径 28.0 底径 4.5 高さ (24.2)	体部に中生が大きくなる肩半球形。腹部は大きくくびれ、外反ぎみに立ち上がる。底部は大きく外反する。底部は突出せず。	体部底部外壁に縦方向のヘラ巻き。底は風化・擦耗によって不明。	乳白色 1~5mmの砂粒を多く含む。 良好
25-63 170	下層	口徑 13.7 腹径 19.3 底径 5.3 高さ (20.1)	体部に最大復原が中位にある球形。腹部は大きくくびれ、外反して足く立ち上がる。口部部は大きく外反する。(1)唇部は無い面をもつ。人きり突出平底。	1)唇部内外両とも横なで。腹部内外両ともなで。体部外側上位は斜方向。中位は楕円形。下位は楕円方向のヘラ巻き。底部は風化で、体部内面両面で、体部下位に風化後の穿孔1ヶ所。	黄褐色 1~5mmの砂粒を含む。 良好
25-64 171	土層-1 上層	口徑 18.1 腹径 26.0 底径 3.9 高さ (23.5)	体部に最大復原が中位にあり、人きり張り出す肩半球形。腹部は大きくくびれ、外反して足く立ち上がる。口部部は大きく外反する。(1)唇部は上位に把手し外側する面をもつ。突出平底。	1)唇部内外両とも横なで。腹部内外両方向、外反弧前方のヘラ巻き。体部外側上位ハケ目、中位楕円方向、下位楕円方向のヘラ巻き。体部内面上下握持部となし、下ハケ目。底部は丸く、体部上半面に導く縫合を有する。	黄褐色、内面墨黒色 2~3mmの砂粒を含む。 良好
-64 172	表山-1 上層	口徑 8.8 腹径 9.6 底径 一 高さ (11.3)	体部は最大復原が中位にある球形に近い形態。腹部は丸い形状。口部部は水平近く外反し、(1)唇部は丸く済る。底部は丸く済る。	口部内外両とも横なで。腹部内外両面で、体部外側にハラ巻き。底部なで。体部下位に風化後の穿孔1ヶ所。	乳白色褐色 0.5~1mmの砂粒を含む。 良好
-64 173	表山-1 上層	口徑 14.5 腹径 一 底径 9.7 高さ	腹部は圓柱形に立ち上がる。口部部は大きく外反する。(1)唇部は下方へわずかに把手し、中央が突出する面をもつ。	口部内外両とも横なで。1)唇部内面その後ハラ巻き。腹部外側斜辺上に握持部があり無縫合。内面両面で、体部外側へハラ巻き。内面把手部の後など。	黄褐色 0.5~1mmの砂粒を含む。 良好
25-64 174	表山-1 下層	口徑 10.9 腹径 14.8 底径 2.4 高さ (12.5)	体部には肩部が落ち、最大復原が中位にあらね半球形。腹部は細く、口部部は斜上方へ張り出る形態のもの。口部部は腹部が落ちくなり、丸く済る。平底。	口部内外両とも横なで。外側前方、内側前方のヘラ巻き。腹部・体部外表面・底方のヘラ巻き。いずれも風化によって不明。	乳白色、体部内面墨黒色 2~4mmの砂粒を含む。 良好
25-64 175	表山-1 下層	口徑 一 腹径 14.5 底径 一 高さ (14.8)	体部は最大復原が中位にある球形の形態。腹部はくびれ、口部部は斜上方へのひき丸底。	腹部内外両ともハケ且の後、底方のヘラ巻き部外側にハラ押えの跡がある。体部外側は風化のために剥離しながら、底方へハラ巻きが残る。体部内面把手部など。	乳白色 0.5~1mmの砂粒を少し含む。 良好
25-64 176	表山-1 上層	口徑 一 腹径 17.6 底径 丸高 (14.9)	体部に最大復原が中位にある球形の形態。丸底。	体部外側ハケの後、ヘラ巻き。内面は不明。	乳白色 丸の状を含む。 良好
64 178	表山-1 下層	口徑 7.2 腹径 7.6 底径 一 高さ (7.9)	小形車。体部に最大復原が上位にあり、底部より両脇が張る形態。腹部は小さくくびれ。口部部は直角的に斜上方へのひき丸底。	口部内外両とも横なで。体部内面両面で、外壁は風化によって不明。	乳白色 1~5mmの砂粒を含む。 良好
-64 179	表山-1 下層	口徑 一 腹径 11.6 底径 一 高さ (11.0)	小形車。体部は最大復原が小位にある球形の形態。腹部のくびれは小さい。丸底。	体部外側は丸い楕円方向のヘラ巻き、内面はなし。体部外側下位に把手部。	乳白色 0.5~1mmの砂粒を含む。 良好
26-65 180	表山-1 下層	口徑 14.0 腹径 15.0 底径 3.5 高さ (15.5)	体部は最大復原が上位にあり、底部が張る倒伏の形態。コ・彌部は「 <u>ク</u> 」の字形外反し、(1)唇部中位で把手し、(1)唇部で落ちくなり丸く済る。突兀ぎみの平底。	口部内外両とも横なで。体部外側は水平と右側の叩き2段。底は風化によって調査不詳。	淡灰褐色 2~5mmの砂粒を含む。 良好

開拓番号	造形	法 規 (mm)	形 態	性 質	美 力
26-65 181	両I-2 下唇	口径 13.7 腹径 12.4 底径 3.9 唇高 12.1	体部は最大腹径が上位にあり、底部へ急 度に小さくなる。口・腹部は小さくくび れて、外反する。唇部は脂肪層が薄く、 丸く膨らむ。突起がみの十箇。	口部内外側とも唇部えの後、弱い筋な ど。体部外側は水平と右上への形き口2 段、円筒はなで、底部外側唇部えの後、 一部切り口、底面はな。	乳白色 0.5~1.2mmの砂粒と小 石を含む。 良好
	両I-1 下唇	口径 — 腹径 11.6 底径 3.1 唇高 (12.3)	体部は男大腹様が中央よりやや上に位置 する形態。口・腹部は「く」の字形にて外 反し、腹部を上回る。唇部は腹側に曲面 をもつ。底底。	体部外側上面は水平。下部は右上への切 り口。他は氯化銀によつて不透明。	淡灰褐色 1~5mmの砂粒を含む。 良好
26-65 183	両I-1 下唇	口径 12.1 腹径 11.4 底径 1.6 唇高 12.1	体部は最大腹径が中位よりやや上に位置 する形態。口・腹部は「く」の字形にて外 反し、腹部を上回る。唇部は腹側に曲面 をもつ。底底。	口部唇内外面とも横なで。体部外側は豊 富な切り口。柱にな。	淡灰褐色 2~3mmの砂粒を含む。 良好
	口径 — 腹径 12.3 底径 2.9 唇高 (10.5)	体部は最大腹径が上位にあって、弱い筋 がある。口・腹部は小さくくびれて外反する。 中央が凹む字底。	口・底部内外側とも横なで。体・底部外 側には凹き口。底部直角、体部内側はな で、いずれも唇部が著しく不鮮明。	暗褐色 0.5~2mmの砂粒を多 く含む。 良好	
26-65 185	両I-1 下唇	口径 — 腹径 13.4 底径 2.8 唇高 (16.7)	体部は、最大腹径がやや上位にある筋長 の形態。口・腹部は小さくくびれ、腹側 しながら外反する。底部は突出がみのア ンダ。	口・腹部は内外側とも横なで。体・底部外 側には凹き口。底部直角、体部内側はな で、いずれも唇部が著しく不鮮明。	乳白色 2mmの砂粒を多く含 む。 良好
	両I-1 下唇	口径 — 腹径 18.3 底径 1.2 唇高 (23.3)	体部は、最大腹径がやや上位にある筋長 の形態。口・腹部は大きくくびれて、 腹側しながら外反する。底底。	口・腹部は内外側とも横なで。体・底部外 側には右上への切り口2段、円筒はハ ケ目。	淡灰褐色 0.5~3mmの砂粒を含 む。 良好
26-65 187	両I-1 下唇	口径 — 腹径 14.8 底径 2.4 唇高 (16.8)	体部は江戸最大腹径がやや上位にあって、底 部へ急激に小さくなる形態。口・腹部は 小さくくびれ、腹側しながら外反する。 底底、マ氏がゆんで、底部直角になって いる。	口・腹部は内外側とも横なで。体・底部外 側には水平と右上への切り口2段、円筒はハ ケ目。	淡灰褐色 0.5~1mmの砂粒とク ラレ織を含む。 良好
	両I-1 上唇	口径 14.3 腹径 — 底径 — 唇高 (5.6)	口・腹部は、「く」の字形に外反し、腹 をもって斜上方へ外反するに立ち上がる。 口部側は腹側に曲面をもつ。	口・腹部は内外側とも横なで。体部内側 はヘタ削り。底部に網状紅紋を有す。	乳白色 0.5~1mmの砂粒とク ラレ織を含む。 良好
27-66 188	両II-1 上唇	口径 — 腹径 — 底径 — 唇高 (13.6)	耳部は、底底部から側をもって立ち上がり、 外反する。側部は完全の制筋部。側部は 底底部は底底部へ立脚し、弱い筋をもつて 立脚する。	耳・側部外側筋は横なで。耳部外側上半、 耳部外側は底底部のハラ野口。耳部直角、 底底部は底底部のハラ野口。他は 不明。	淡灰白色 0.5~1mmの砂粒とク ラレ織を含む。 良好
	両II-1 上唇	口径 21.3 腹径 — 底径 — 唇高 (14.4)	耳部は、耳部外側は上方へのび。弱い筋 をもって折曲し、斜上方へ直角的なた だり。耳部は腹側に弱い筋をもつ。唇部は中 空のスニッタ式。	耳は耳部内外側は横なで。耳部外側後は 弱い筋なで。他に縦・横方向へのハラ野口。	淡灰褐色 1~3mmの砂粒を含む。 良好
27-66 191	口径 13.6 腹径 — 底径 — 唇高 (6.0)	軟骨器舌。受部は人にくびれる複合舌よ り複数の舌をもつて折曲し、斜上方へ直角的なた だり。耳部は腹側に弱い筋をもつ。唇部は中 空のスニッタ式。	風化・摩擦が著しく副筋等は不明。	古黄褐色 1~2mmの砂粒と金属 をわずかに含む。 良好	
	両II-1 上唇	口径 17.4 腹径 4.3 底径 7.3	鼻部は、口径に比較して浅い形態。口・ 腹部は、腹部がずかくくびれ、外反する。 口部側は腹側が薄くなり、弱い筋をもつ。 耳部は耳部をもつて外反する。	・鼻部内外側とも横なで。体部内側は横 方向のハケ目。他は氯化銀によつて不透明。	淡灰褐色 0.5~2mmの砂粒を含 む。 良好

城坂番号 学名 支那名 十脚番号	通 常	法 量 (ca)	形 瞳	技 法	備 考	
- 66 193	第 I - 1 下唇	口径 腹径 底径 唇高 (5.6)	口径 — 2.6 — —	体部は唇上方へ内凹しきに立ち上がり。口・腹部はわずかにくびれ外反する。中央が膨らむ突出部。	口・腹部内外側前方のハケ目。体部内側ハケ目なしで、体部外側は風化のため不明。底部軟骨え。	淡乳白色 0.5~1.0cmの砂粒とタラ網を含む。 良好
27- 66 194	第 I - 1 下唇	口径 腹径 底径 唇高 (9.2)	14.8 — 5.2 9.2	体部は唇上方へ内凹しきに立ち上がり。口・腹部はわずかに外反する。口輪部は丸く終る。	口・腹部内外側とも横なで、体部片面側前方のへり巻き。体部外側は風化のため不明。底部軟骨え。	乳白色 1~2mmの砂粒を多く含む。 良好
- 66 193	第 I - 1 下唇	口径 腹径 底径 唇高 (6.4)	10.6 — 3.6 6.4	体部は唇上方へ内凹しきに立ち上がり。口輪部はごく近く外反する。口唇部は断続凹凸形で終る。平底。	全頭なで。	淡灰褐色 0.5~1.0cmの砂粒を含む。 良好
66 196	第 I 下唇	口径 腹径 底径 唇高 (8.7)	14.0 — 3.4 8.7	体部は唇上方へ内凹しきに立ち上がり。口・腹部は近く外反する。口唇部は丸く終る。平底。	口・腹部内外側とも横なで。体部外側は複数ハケ目。他に風化した沁出物不鮮。	淡黄褐色 1~2mmの砂粒とタラ網を含む。 良好
- 66 197	第 I - 1 下唇	口径 腹径 底径 唇高 (4.9)	10.1 — 2.5 4.9	体・口輪部は、底部より内凹しきに立ち上がり。口輪部は丸く膨らむ。中央が凹むが底。	口唇部内外側とも横なで。体部内外側ともへラ筋有。底部軟く軟骨え。	淡乳白色 1~2mmの砂粒を含む。 良好
27- 66 198	第 I - 1 下唇	口径 腹径 底径 唇高 (8.8)	12.3 — 2.9 8.8	体部は底部より内凹しきに立ち上がり。口唇部で直立する。口唇部は丸く終る。平底。	口唇部は軟骨え。体部外側は叩き目、内側はハケ目。(高さ1.0cm)	淡灰褐色 1~2mmの砂粒を含む。 良好
- 66 199	第 I - 1 下唇	口径 腹径 底径 唇高 (5.5)	— — 11.2 (5.5)	唇内側の脚部。唇下方へ広がり、端部は脚部が厚くなり、丸く終る。	脣部外側は前方へのへり巻き。内側はハケ目。底部は横なで。	淡灰褐色 微砂粒を多く含む。 良好

IV 中条小学校遺跡(89-1)

1. 調査経過

所在地 茨木市新中条町

調査面積 220m²

調査期間 平成元年4月25日～同年6月1日

届出理由 共同住宅建設

中条小学校遺跡は、茨木市新中条町の中条小学校を中心に径200m付近に広がる弥生時代中期から中世までの複合遺跡であり、東奈良遺跡の北側に隣接し、密接な関係にある遺跡でもある。

今回の調査地区は、中条小学校遺跡の中でも東端に位置し、古墳時代と中世頃の遺構・遺物が検出されたところである。なお、当地区は昭和54年9月、コンビニエンス・ストア建設の時に、約20m²の確認調査を実施しており、中世頃の柱穴跡が検出されていたため、試掘確認調査を実施することなく発掘調査を実施する必要があることを依頼者に報告する。依頼者と茨木市教育委員会との協議の結果、平成元年4月25日から発掘調査を実施することになった。

2. 層位(図版42)

当調査地区の基本層位は、約0.6mの造成土下に、旧耕土・床上・遺物を含まない淡茶灰色粘質土が堆積し、調査地区西側では床下上層より掘られた溝状遺構の堆積がみられた。以下、10～14世紀頃の土器・黒色土器・瓦器を含む茶灰色砂質土(一部粘質土)、6世紀前半頃の須恵器と11～13世紀の須恵器・土師器・黒色土器・瓦器などを含む淡茶灰色粘質土の2層に包含層は分けられる。下層の包含層出土の遺物は明確に分れ、また包含層検出の時に遺構の一部も掘り下げたことから、下層包含層の時期は6世紀前半と思われる。さらに生活面の黄白色粘土(一部砂質土)、青灰色砂質土の堆積層に分けられた。なお、生活面は黄白色粘土とさらに土層断面から、今回検出された遺構の一部が上層包含層の淡茶灰色粘質土から掘られていることから2層あったものと思われる。しかし、コンビニエンス・ストア建設・解体の時の擾乱が一部生活面下層まで受けており、調査中は明確でなかった。生活面の黄白色粘土上面は、平均標高7.2～7.0mを測り、西・北より南へ僅かに低くなっている。淡茶灰色粘質土面は同7.5～7.1mを測り、同じく西・北より南へ低くなっている。

3. 遺構(図版42)

当調査地区からは、古墳時代中期から中世(平安時代中期～室町時代)、近代にかけての井戸状遺構3基以上、土壙7基、柱穴跡約40基、溝などが検出された。

井戸

井戸-1は、長軸1.4m・短軸1.2m・深さ1.98m・底部標高5.15mを測るほぼ円形素掘りの井戸である。井戸内には、上層に近代の瓦片を含む灰色粘土、中層に全く遺物を含まない暗灰色粘土と同砂質土の互層、井戸底部に沿って下層の暗灰色粘土が堆積していた。川十遺物から近代の井戸と思われる。

井戸-2は、層位的には土壤-1埋没後に掘られており、掘り方上口は径2.2mの円形なすが、深さ0.4mのところより一辺1.7mの隅丸方形の掘り方になる。井戸の深さは、1.88mを測り、井戸中央底部に径0.5m・高さ0.38mの底板を抜いた桶が埋めてあった。なお、桶底部の標高は4.91mを測る。井戸内には、上層には12世紀中頃から14世紀前半頃の土師皿・羽釜・瓦器片を含む暗灰色粘土、下層には遺物を含まない灰色粘土と同砂質土の互層が地積し、井戸中央の上口から底部には節を抜いた竹が打ち込んでいた。なお、井戸-2は、層位的には土壤-1埋没後に掘られている。

井戸-3は、掘り方上口は長軸4.0m・短軸3.2mの橢円形をなし、深さ約1.2mのところより径約1.2mの円形の掘り方になる。井戸の深さは約2.95m、底部標高4.21mを測る。井戸中段より、桶の一部と思われる板材が僅かに検出されたことから、同-2と同じく桶を数段積み重ねて井戸枠として利用していたものと思われる。井戸内には、上層に11世紀中頃から14世紀前半頃の土師皿・羽釜・瓦器片・磁器片と獸骨を含む黒色粘土、下層に灰色粘土と同砂質土の互層が堆積していた。井戸-3は、他の井戸が青灰色粗砂質土であるのに対して、さらに下層の赤黄色砂礫土まで掘られていた。

土壤

土壤-1は、長軸4.7m・短軸3.6m・深さ0.36mを測る変形橢円形の大形土壤。土壌中央は工事時の攪乱を受けていたが、土壤内には暗灰色・黒色粘質土が堆積し、11世紀～12世紀頃の土師質甕・黒色土器碗・土師皿などが多数出土した。土壤の西側には、掘り方と0.3～0.4mの間隔をもって連なる杭列が検出されたが、土壤との関係は明確でない。

土壤-2は、調査地区南東隅にその一部を検出したのみであるため、規模は定かでないが、摺鉢状の土壤で深さは0.75m以上を測る。土壤内には、黒色粘土が堆積し、11世紀から12世紀の須恵器・土師器・黒色土器・瓦器片が検出された。

土壤-3は、同じく南東部でその一部を検出したのみであるため、形態・規模は定かでないが、摺鉢状の土壤で深さ0.3mを測る。土壤内には暗灰色粘土が堆積していたが、遺物などは検出されなかった。

土壤-4は、調査地区北東部に位置し、径0.7m・深さ0.25mの円形摺鉢状土壤。土壤内には、下層包含層と同じ淡茶灰色粘質土が堆積していたが、遺物などは全く検出されなかった。

土壤-5は、同-4の南西に位置し、長軸1.3m・短軸0.7m・深さ0.16mの橢円形摺鉢状土壤。土壤内には、同じく淡茶灰色粘質土が堆積していたが、遺物などは全く検出され

なかつた。

土壤-6は、同一-5の南に位置し、径0.54m・深さ0.22mの円形土壤。土壤内には、同じく淡茶灰色粘質土が堆積していたが、遺物などは全く検出されなかつた。

土壤-7は、調査地区西部に位置し、溝-1によって南側の一部を削平されている。土壤は、長軸2.6m・短軸0.7m・深さ0.09mの浅い長椭円形をなす。土壤内には茶褐色粘質土が堆積し、6世紀頃の土師質壺片が検出された。

溝-1は、井戸-3から西へ延びる溝。溝は、幅0.46m・深さ0.07~0.21mと西から東の井戸に向かって深くなつており、西側では途切れるがさらに西側へ延びていたものと思われる。溝内には、暗灰色粘質土が堆積し、12世紀中頃から13世紀前半頃の土師皿・瓦器片などが検出された。

柱穴跡は、調査地区的西側と北東側を中心に約40基検出された。西側の周辺より僅かに高い盛所で検出された柱穴跡は、径0.15~0.30m・検出時の深さ0.10~0.20mを測る小形のもので、中世頃の土師器・黒色土器・瓦器片が一部の柱穴から僅かに検出した。それに対して、北東側の柱穴跡は、径0.20~0.40m・深さ0.20~0.55mと規模も大きく、検出遺物も時期は判別できないものの須恵器片であった。この点から、いずれも建物などは復元できなかつたものの、西側の柱穴跡は他の井戸・土壤と同時期のものと思われ、東北側のそれは黄白色粘土を生活面とする古墳時代中期頃のものと思われる。なお、P-14からは、径0.12mの柱根が検出された。

4. 遺 物(図版67・68)

当調査地区からは、包含層・土壤・井戸を中心として、古墳時代中期の須恵器と平安時代中期から室町時代頃までの土師器・黒色土器・瓦器などが検出された。詳細は土器観察表に記述する。

須恵器

环蓋201~204は、天井部が丸く、口径が器高に比較して小さくなり、縁も明確さを失く。

环身205・206も同じく底部が丸味を増し、ヘラ削りの範囲も狭くなる。

有蓋高环207~211は、杯部は环身と同じく底部が丸味を増す。脚部は短く、三角形・長方形の透かしを三方に施す。

短頸壺212は、短い口縁部が内舟ぎみに立ち上り、肩部が大きく張る。

いずれも、調査地区北東部の下層包含層出土の、陶器編年I形式4段階頃と思われる。

土師器

十箇皿は、口径11cm以下を小皿、口径11cm以上を大皿として記述する。

土師小皿213~223は、口縁部が2段に屈曲し、端部で上方に肥厚する「て」字状口縁をもつ。213は屈曲度も大きく、器壁も薄いことから平安時代中期の11世紀初頭頃のものと思われる。他は、いずれも平安時代後期11世紀頃のものと思われる。同224~227は口縁部

が外反し、平安時代後期12世紀前半頃のものと思われる。同228は内湾する。同229は器高が高く碗状を成し、室町時代14世紀頃のものと思われる。213は井戸-3、217・219・222・224・226～229は包含層、他は土壌-1出土である。

土師大皿230～235は、いずれも口縁部が僅かに外反する。器高が3cm以下は231のみで、他は3cm以上を測る。いずれも平安時代中期から後期の11世紀から12世紀頃のものと思われ、230は土壌-1、231・232は井戸-3、他は包含層出土である。

黒色土器

黒色土器碗A類236～242は、いずれも断面逆台形の高台が付き、口縁部内側に沈線が見られるものと無いものがある。ヘラ磨きは摩耗・風化のため不鮮明ながら、内面のみのものと内外面に施すものがあり、全体に器壁は薄い。口径14.6～16.1cm・器高5.1～5.9cmを測る。242は上層包含層出土、他は土壌-1出土であり、いずれも平安時代中期の11世紀中頃～後半のものと思われる。

黒色土器碗B類243は、断面逆台形の安定感のある高台が付き、体底部に凸部が付く。244は断面三角形のやや低い高台が付き、いずれも口縁部内面に沈線が見られ、内外面に細かく密なヘラ磨きを施す。243は土壌-1、244は井戸-3出土の平安時代中期の11世紀中頃～後半頃のものと思われる。

瓦器

瓦器碗245・246は、断面方形の高台が付き、口縁部内面に沈線が見られる桶型型で、外面に細かいヘラ磨きを施す。器高指数は33.5～37.5を測り、いずれも上層包含層出土の、平安時代後期の11世紀後半頃のものと思われる。

5. 結語

当調査地Xから検出された遺構は、北東部において古墳時代中期頃に掘立柱建物を中心とする住居が造られ、生活圏として利用された。その後空白期において、平安時代中期から後期頃の井戸が掘られていることから、内び生活圏として利用されたものと思われる。

しかし、今回検出された遺構・遺物に関しては、調査範囲が狭いため、遺構の一部を検出したのみであるうえ、周辺の調査においても古墳時代と中世頃の遺構・遺物が検出されているものの、いずれも調査範囲が狭く残存状態も悪いものが多かったため、明確な考察はできなかった。

中条小学校遺跡(89-1)土器觀察表

()は現存品

器種	器形	標本番号 89-XIII 番号	口径 (cm)	着高 (cm)	底径 (cm)	形態	技法	備考
酒	环	28-67 201	12.1	4.0	—	体型は、ほぼ垂直あるいは外傾が みにのび、口縁部は内傾し段を 有す。天井部はやや高く、丸い。 底は、試く張りに欠ける。	天井部の3/4~3/5を凹軸へく取り。 に輪・体・底部は横なで。 底はなで。	色調 淡灰褐色 胎土 200120.5~2mmの砂 粒を含む。執はや密。 焼成 良好
		28-67 202	11.4	4.6	—			
	瓶	28-67 203	11.2	4.7	—			
		28-67 204	11.4	4.3	—			
杯	身	28-67 205	10.1	4.9	—	たちあがりは、内傾し、口縁部で 立する。端部は内傾し段を有す。 受部は外へ方へのび、底はやや弧 さに欠ける。脚部は丸く、広がり 端部で厚く垂直に下がる。英方 形のスカシヨモ。	底部の1/2~2/3を凹軸へく取り。 口縁・体・受・脚部は横なで。 底はなで。 20012、底部に自然釉付着。	色調 淡灰褐色 胎土 200120.5~2mmの砂 粒を含む。やや密。 焼成 良好
		28-67 206	9.7	4.5	—			
	有蓋	28-67 207	9.6	8.2	7.6	たちあがりは、内傾し、口縁部で 立する。端部は内傾し段を有す。 受部は外へ方へのび、底はやや弧 さに欠ける。脚部は丸く、広がり 端部で厚く垂直に下がる。英方 形のスカシヨモ。	杯部に1/5~1/2を凹軸へく取り。 口縁・体・受・脚部は横なで。 底はなで。 脚は貼り付け。	色調 淡灰褐色。211は灰白 色。 胎土 やや密。鐵鉛粒を含 む。 焼成 良好
		— 67 208	10.0	8.0	7.4			
器	高環	28-67 209	9.6	8.1	7.6			
		— 67 210	9.2	(4.7)	—			
	短腹壺	— 67 211	—	(4.6)	8.6			
		28-67 212	—	—	—	に瓶部は、内面まことに試く立ち上 り、端部は丸く終わる。体部は引が 張り、底部は丸い。	に瓶部に筋なで。底部凹軸へく取り。 底はなで。底部内面に飛沫え の凹凸あり。	
土器	小	— 67 213	9.25	3.1	—	○口縁部がS字状に裏折する。 ○口縁部が丸く終わるものと外 に凹みが一掛する214・220がある。 ○底部は平底であるが、他例に よる凹凸がある。 ○口径11cm以下の小型。 ○器型は厚手であるが、213は2.8 cm以下の薄手。	○口縁部内外面は横なで。 ○内面はなで、内底面は垂直なで。 ○底部外周は指押た。あるいはそ の後削いなで。	色調 乳黄褐色。215、222 は淡赤黄色。 213、215、216、220は指押。 他に0.5~1cm程の砂粒を 含み、218は人型のクサン 模を多量に含む。216、217、 218は金属性を含む。 213は井戸ー5。217、219、 220は包合物。無は土壤ー 1出土。
		29-67 214	9.2	1.3	—			
		29-67 215	9.4	1.6	—			
		29-67 216	9.6	1.5	—			
		29-67 217	8.9	1.4	—			
		29-67 218	10.6	1.6	—			
		— 67 219	9.8	1.8	—			
		29-67 220	10.3	1.6	—			
		— 67 221	8.6	1.1	—			
		29-67 222	9.5	1.7	—			
		29-67 223	9.2	1.7	—			

品種	品形	園版番号 平井-大庭屋 番号	II 位 (cm)	III 位 (cm)	IV 位 (cm)	形 番	接 番	備 考
上 部	小 皿	- 67 224	9.6	1.6	-	○口縁部が外反する。224は底面 でわずかに上方へつまみ上げる。 ○底面は平差。	○I 1段内外面は横なで。225-22 6は強い横なで。 ○内面はなで、内底面は直線状な で。 ○底部外面は底押と跡が残り、無 調節に致い。	色調 乳淡黄色 220-224は底色 224-226は精緻。 225-226は砂粒を含む。 224-226に金属色を含む。 226は上端 1、他は包含 層出。.
		29- 67 225	10.6	1.8	-			
		29- 67 226	10.3	1.5	-			
		29- 67 227	10.6	1.6	-			
		29- 67 228	8.2	1.6		○口縁部が内弯する。		
	大 皿	- 67 229	9.8	2.1		○器蓋が高く碗状を成す。		
		29- 68 230	16.8	3.1		○体部は裏上方へ直線的にび、 口縁部でわずかに外反する。 ○底面は平差。224は平差から がら失味があり、器蓋がやや高い。	○口縁部内外面と底盤中位まで1 ~3段の横なで。 ○外部内面はなで、見込みは直線 状なで。 ○底盤外周は指押えの後、弱く裏 なで。	色調 乳淡黄色 220-228は底盤から底面に かけて薄單色。 220は2mm前後の砂粒を含 む。初は精緻。クレラ織、 220-228に金属色を含む。 220は上端 1、221-222 は井戸 3、他は包含層出 す。
		- 68 231	14.7	2.6				
		- 68 232	14.4	3.0	-			
		29- 68 233	16.6	3.1	-			
中 間	Ⅲ	29- 68 234	15.0	3.6	-			
		68 235	14.6	3.8	-			
		30- 68 236	15.0	5.9	7.6	○体部から縁部へ内弯さみに立 ち上がり、縁部内面に沈線がある ものと、丸く異なるもの(238・242) がある。 ○断面逆内形の高台が付く。	○II腰・両台部は内外面とも横な で。 ○238-242は、体部は強い横なで にこって屈伏がある。 ○242は、体部内面に口縁部まで、 ヘリ巻きを施す。238は、体部内 面に横方向、見込みは縱方向にヘ リ巻きを施す。初は内外面に横な ヘリ巻きを施す。 ○237は底盤外周に×印のヘリ記 号。	色調 乳白色 内面は黒灰色 精緻
		30- 68 237	16.0	5.7	6.9			242は包含層、他は上端 1出上。
		30- 68 238	14.6	5.6	6.5			
		30- 68 239	14.8	5.3	6.2			
	(A)	30- 68 240	--	--	--			
		30- 68 241	16.1	5.1	5.7			
		30- 68 242	15.2	5.7	6.2			
		30- 68 243	16.1	6.2	6.0	○口縁部内面に沈線。243は体 部底に凸高がめぐる。244は高台、 245は折筋が低い。	○II腰・両台・凸高は横なで。 ○体部内外面とも細かい横方向、 纵方向のヘリ巻きを施す。	色調 淡紫色 精緻
		30- 68 244	16.0	6.2	6.9			243は+底 - 1、244は升戸 - 3出上。
瓦 器	(B)	30- 68 245	15.2	5.7	5.6	○体部から口縁部へ内弯さみに立 ち上がり、縁部内面に沈線がある ○断面逆方形の高台が付く。	○II腰・高台は横なで。 ○体部内外面とも細かい横方向、 纵方向のヘリ巻きを施す。	色調 淡黑色 精緻
		30- 68 246	15.5	5.2	6.7			いずれも包含層出。

VII 東奈良遺跡(89-1) H・N C-3-K・G地区

1. 調査経過

所在地 茨木市若草町-1

調査面積 448m²

調査期間 平成元年7月24~同年9月16日

届出理由 関西電力南茨木変電所新設

当調査地区は、昭和52年に当時の国鉄貨物引込線建設の際に発掘調査を行った地域のうち、最も北側の1-A2区のすぐ北にあたり、今回の調査地区はその続きの遺構や遺物が検出される可能性のたかい地域である。

当時の調査結果から、遺構面が2面存在し、第1遺構面は平安時代頃の掘立柱建物跡など、第2遺構面は弥生時代中頃の溝などがみられることから、今回の調査区も遺構面が2面存在し、時代も同時期のものが検出されるだろうことが、はじめから予想された。

平成元年5月10日、建設予定地内において2箇所の試掘を行い、その後、関西電力株式会社と茨木市教育委員会との協議の結果、建設に先だって、平成元年7月24日から、発掘調査を実施することになった。

2. 層位(図版-4)

当調査地区的層位は、北側壁面に並行に掘ったトレントを用いて実施した。その結果、旧耕土面下約0.5mまでは、旧耕土(第1層)・床土(第2層)および灰白色砂質土層(第3層)が、比較的フラットに堆積しているのに対して、それ以下地山面までは複雑な地層を呈している。

次の茶灰褐色粘土層(第4層)は、弥生時代中期の遺物片を若干含むが、量的には6C後半頃の須恵器片が多く、この層を第1包含層とした。しかしこの層は、あまり一定せず次の第5層である明黄褐色砂層と同レベルであることから、部分的に存在するものである。この第4・5層を取り除くと南北に縦い溝状遺構(溝-1)が一部検出されたため、平滑を行ったが、他の遺構は検出されなかった。この面を第1遺構面とした。

第1遺構面を取り除くと、ほとんどの層が部分的に一定しないが、茶褐色砂ジャリ層(第6層)、茶褐色砂質土層(第12層)などの遺物を含む層があり、これらの層を、第2包含層とした。

第2包含層を取り除くと、明黄褐色土層(第16層)の最終生活面が検出され、この層を切り込んで、ピット・溝状遺構などがみられた。この生活面を、第2遺構面とした。

3. 遺構(図版59・60)

当調査区では、南端部でピット状遺構が検出されたが、それから北側部分にかけては、

溝状遺構が6条検出された。溝状遺構の中でも、溝-IIは、北・西・南と分けているが、連続側があり、別に方形周溝墓-Iとした。この溝-IIに取り囲まれた内部に、木棺が2基検出された。

溝-V・VIについては、不整形で且つ細くて浅いことから割りあいする。

溝-I

第I遺構面に唯一存在する溝で、幅約50cm、深さ約20cmの規模で、北端部では消滅している。時期は不詳であるが奈良時代以降のものである。

溝-III

調査区の東壁面に沿った溝であり、調査範囲の関係から中央部でとぎれるが、同一のものである。幅の確認はできなかったが、深さは約60cmである。溝の肩の部分から羽釜が1点出土している。

溝-IV

調査区の北東のコーナーに溝の一部が検出されたものであるが、しっかりととした溝である。幅約2m、深さ約30cmで上層と下層には遺物を含まず、中間層の茶渋色砂ジャリ層から6c後半の須恵器片が出土している。

方形周溝墓-I

溝-IIの北・西・南と分けたものであるが、のちに方形周溝墓として取り扱ったものである。規模は北溝が幅約1.5m、深さ約15cm、西溝が幅約2m、深さ約10cm、南溝が幅約1m、深さ約20cmである。西溝は北から南にかけて幅が狭くなっている。

長さの分かる西溝は約10mであることから、方形周溝墓の全体の規模は、一辺10m前後のものである。西溝からは弥生時代中期(叢内第III~IV様式)の遺物が出土している。

木棺-I

方形周溝墓-Iの主体部であり、底板と側板の一部が残っていたが、大部分が腐食していった。主軸はやや西向きながらほぼ南北におく、掘り方は、長約2.5m、幅約1.3mで、その中に内長1.75m、内幅0.55mの木棺を入れている。構造は、底板の外側に側板がくるが、きっちりとしたものではなく、やや外側であるというものである。小口は底板に、その痕跡は認められないものの、埋土の痕跡から両方とも底板の上にのっていたものと考えられる。深さは現存では14cmである。

木棺-II

方形周溝墓-Iの主体部であり、木棺そのものは腐食してしまっていた、主軸は木棺-Iとほぼ直交している。掘り方は、長約2.4m、幅約1.2mで、その中に内長1.7m、内幅0.5mの木棺を入れている。構造は木棺-Iと同様のものと考えられる。

深さは現存では約10cmである。

4. 遺 物

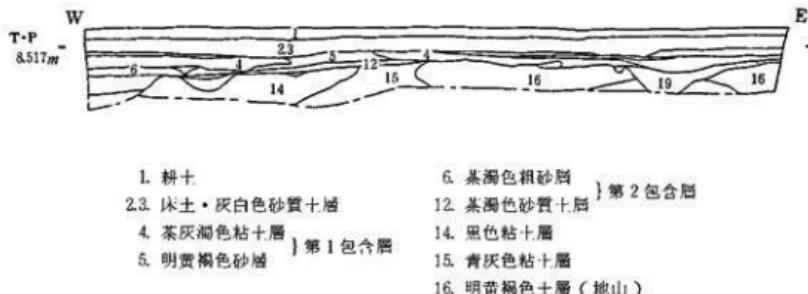
全体の遺物の量は少ないが、溝-Iから羽釜が1点と須恵器の完形の長頸壺が1点、溝-IIから6c後半の須恵器が1個体分出土している。

第1包含層・第2包含層からの出土遺物は、3の遺構の項で若干述べているように、弥生から奈良時代以降のものまで含むが破片のみである。第2包含層からは、環状土斧が1点(半偶体、直徑約7.5cm、中央穴部約2.2cm)出土しており、東奈良遺跡としては2例目である。このほか、方形周溝墓の溝-IIから弥生式土器片(畿内第III~第IV様式)が出土している。

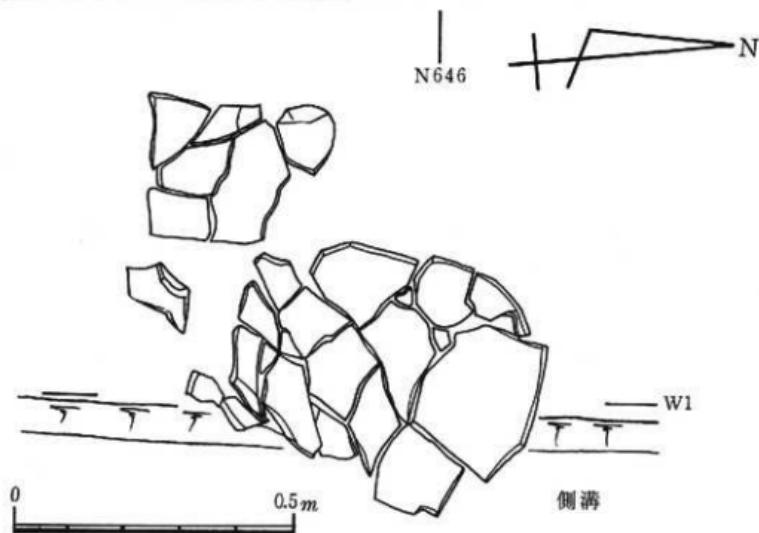
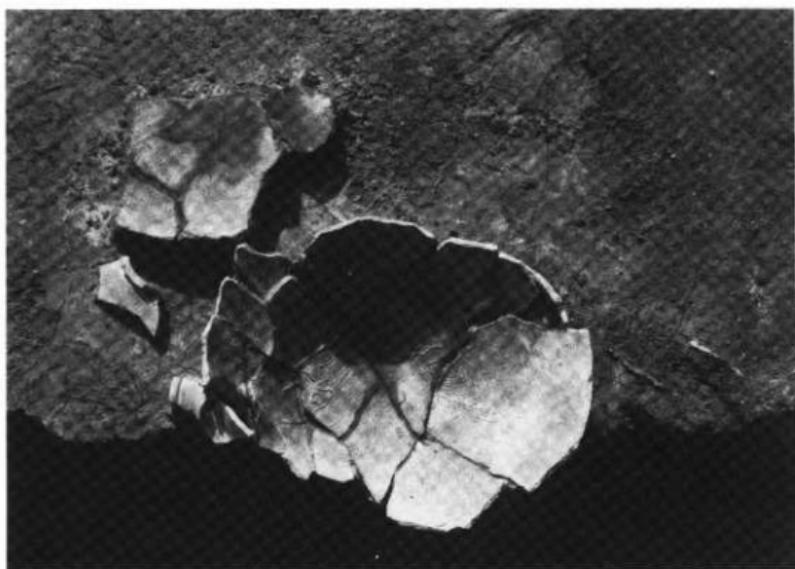
5. 結 語

当調査区はムラの中心部からはなれた東奈良遺跡の北西部端にあたり、遺構・遺物ともに少なくなってきた。しかし方形周溝墓が検出されたことにより、墓域の広がりがさらに考えられるものである。

東奈良遺跡としては、これまでに数10基の方形周溝墓や、多くの土壙墓が確認されているが、当調査区のすぐ西側で行った、昭和52年の国鉄貨物線の調査結果から考えあわせると、方形周溝墓としては最も北西端のものではないかと考えられるものである。



挿図-4 H-N C-3-K-G地区 北壁面土層図



挿図-5 H・N C-3-K・G地区 壺(須恵器)出土状況図

図 版

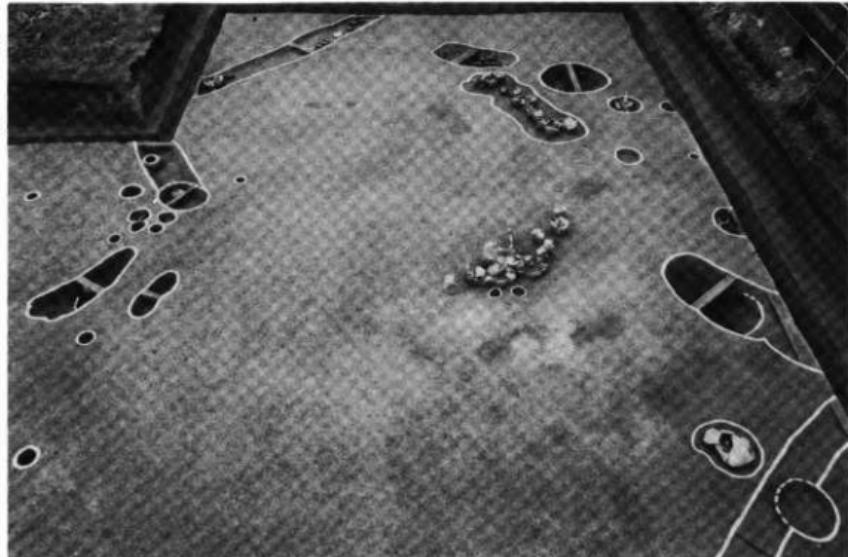




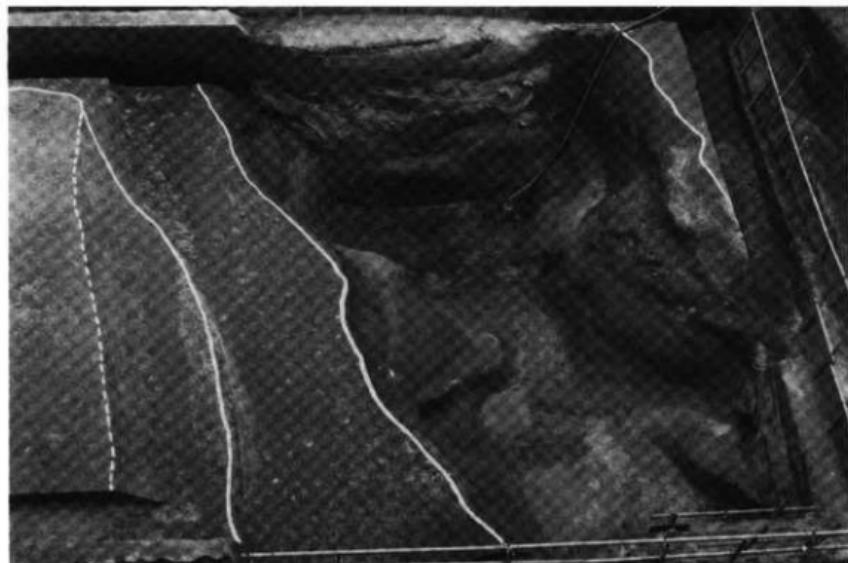
東奈良遺跡(88-5)H・N H-4-E・F地区 全景(東より)



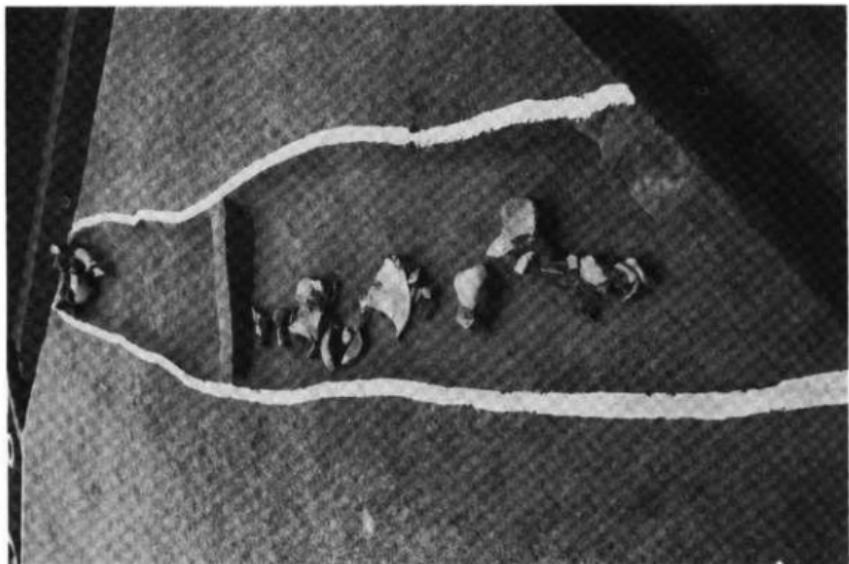
東奈良遺跡(88-5)H・N H-4-E・F地区 全景(南より)



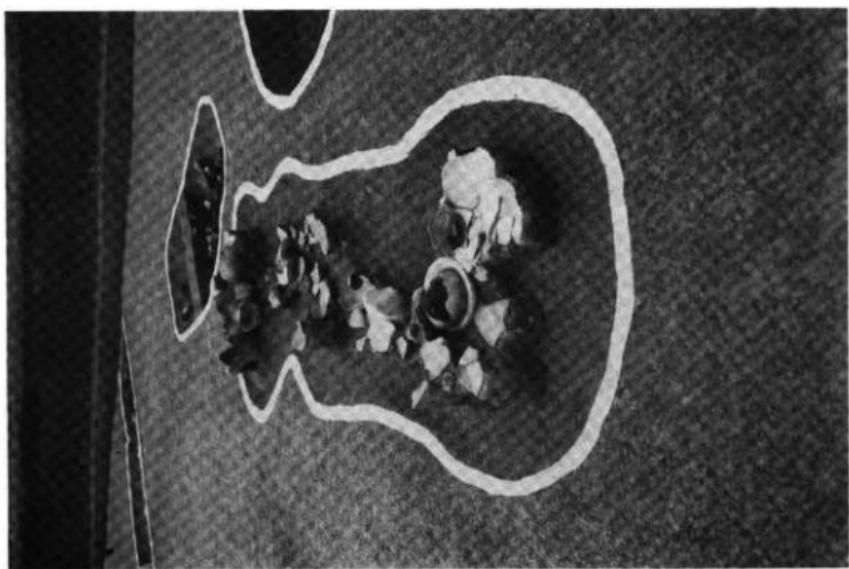
東奈良遺跡(88-6)H・N H-4-M・N地区 東半(南より)



東奈良遺跡(88-6)H・N H-4-M・N地区 溝-1(北より)



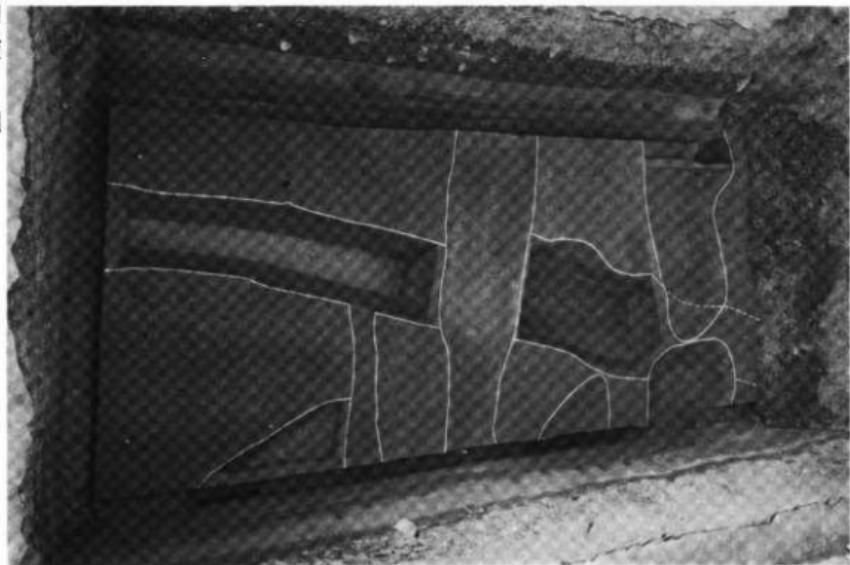
東奈良遺跡(88-6)H・N H-4-M・N地区 溝-3



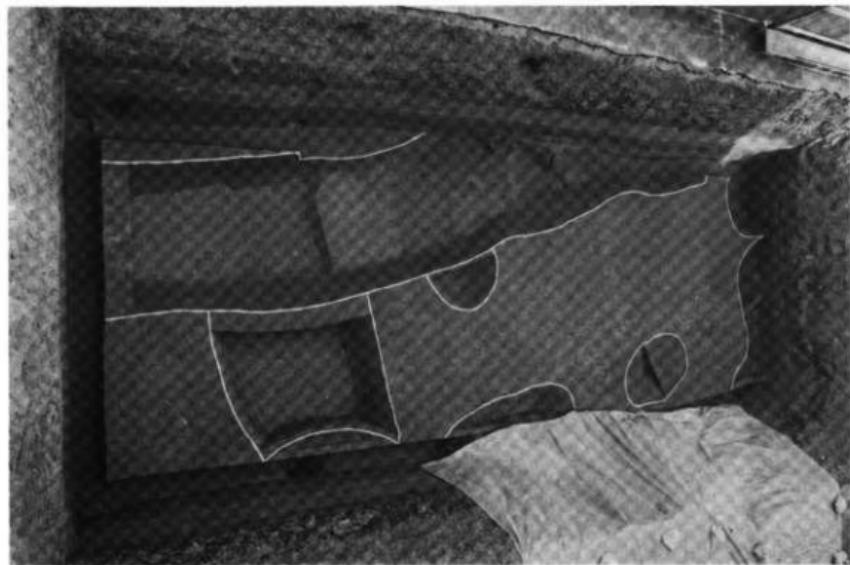
東奈良遺跡(88-6)H・N H-4-M・N地区 土壌-9

図
版

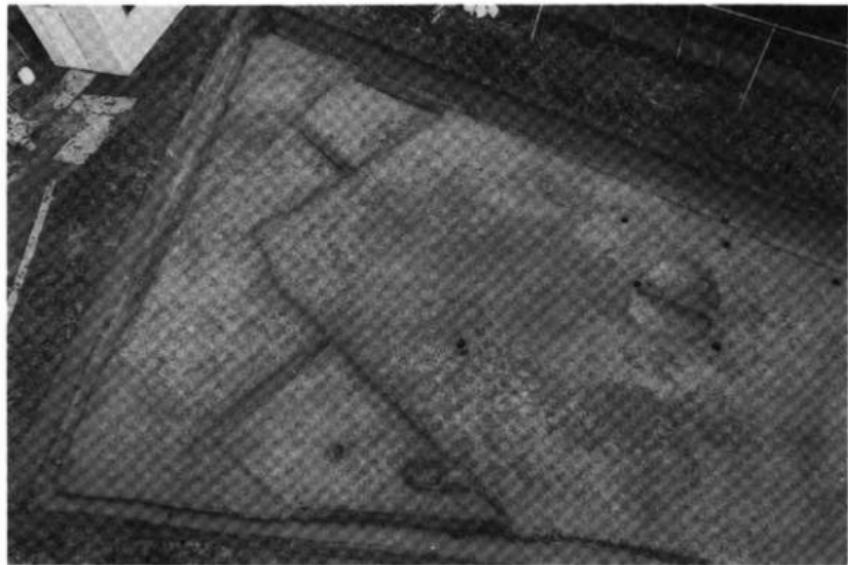
四



東奈良遺跡(88-8)H・N G-2-K・O地区 南半(南より)



東奈良遺跡(88-8)H・N G-2-K・O地区 北半(北より)



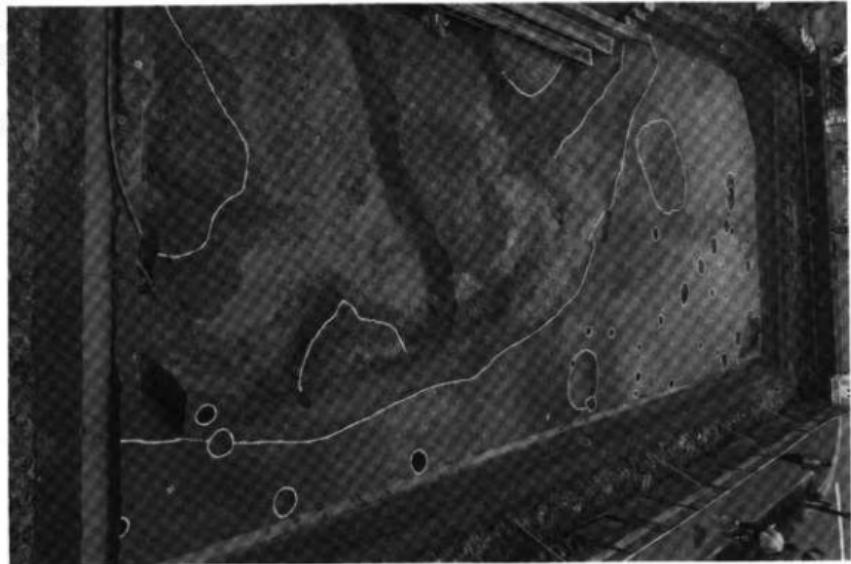
東奈良遺跡(88-9) H・N K-1-A・B・E地区 北半(西より)



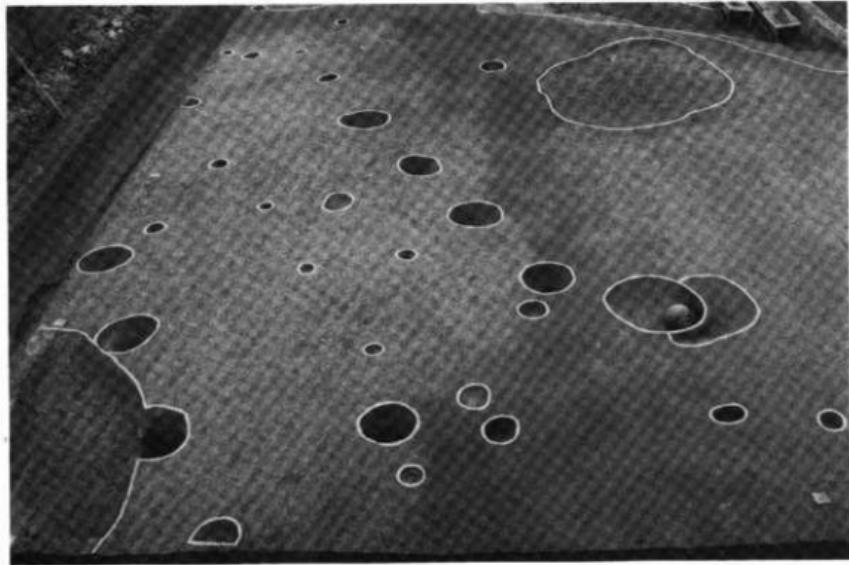
東奈良遺跡(88-9) H・N K-1-A・B・E地区 南半(北より)

図
版

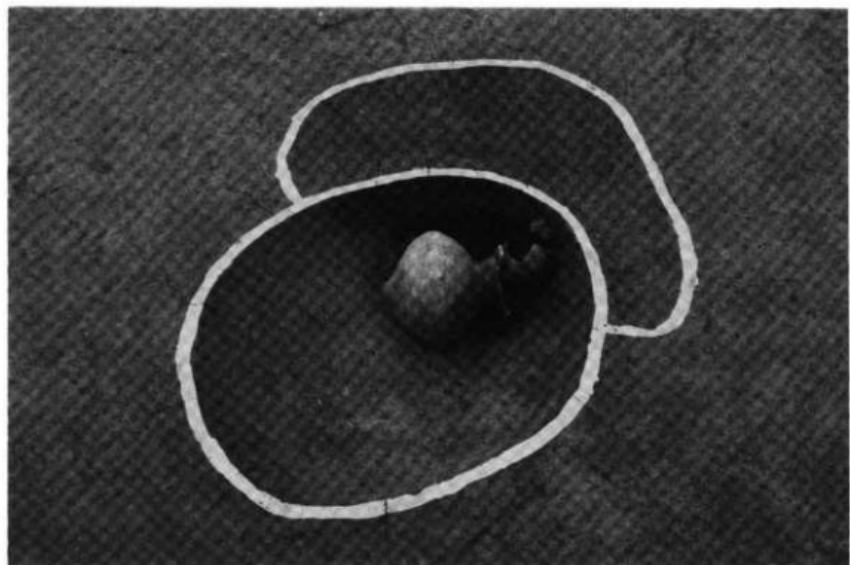
六



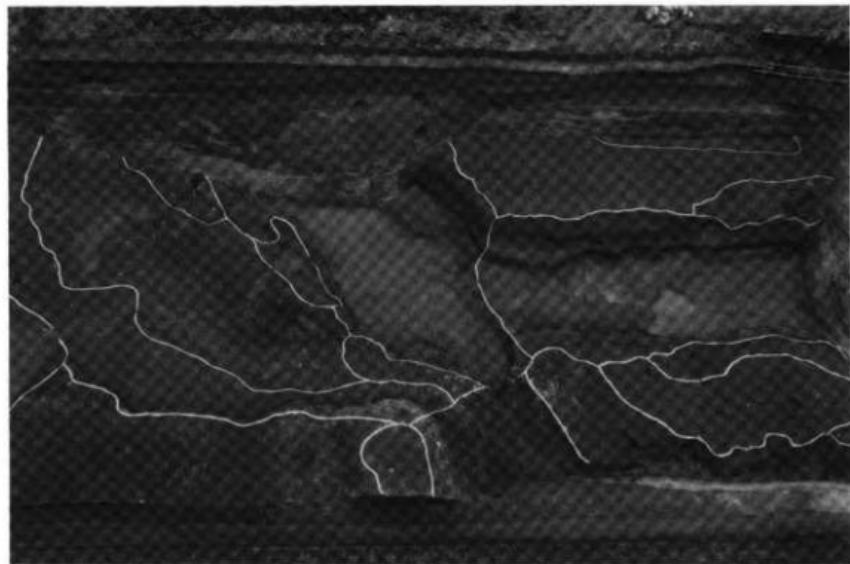
東奈良遺跡(88-10)H・N H-4-A・B地区 第Ⅰ遺構面(東より)



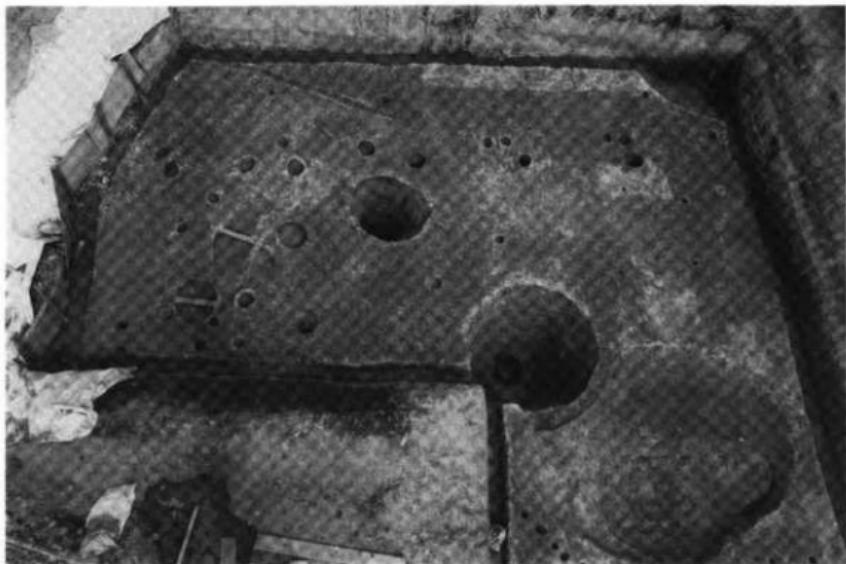
東奈良遺跡(88-10)H・N H-4-A・B地区 第Ⅰ遺構面 据立柱建物跡



東奈良遺跡(88-10)H・N H-4-A・B地区 第Ⅰ遺構面 土壌I-1



東奈良遺跡(88-10)H・N H-4-A・B地区 第Ⅱ遺構面 全景(北より)



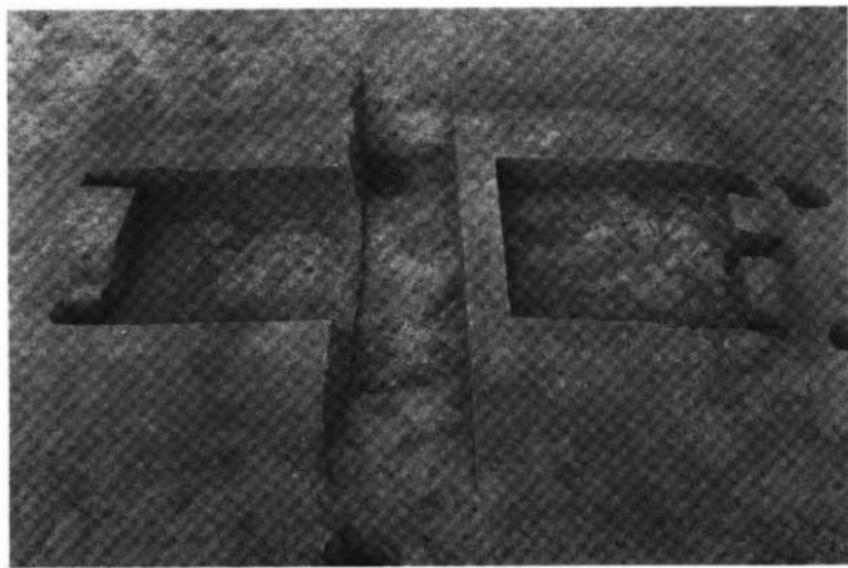
中条小学校遺跡(89-1) 東半(西より)



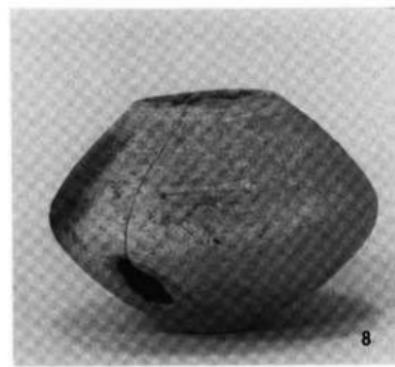
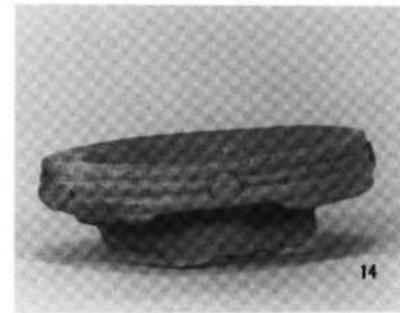
中条小学校遺跡(89-1) 西半(北より)



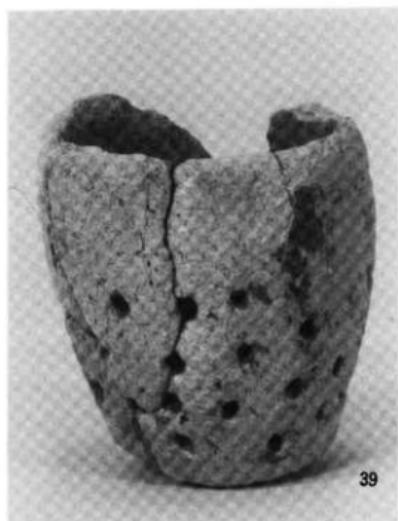
東奈良遺跡(89-1)H・N C-3-K・G地区 全景(南より)



東奈良遺跡(89-1)H・N C-3-K・G地区 木棺-I



東奈良遺跡(88-5)H・N H-4-E・F地区 出土の土器



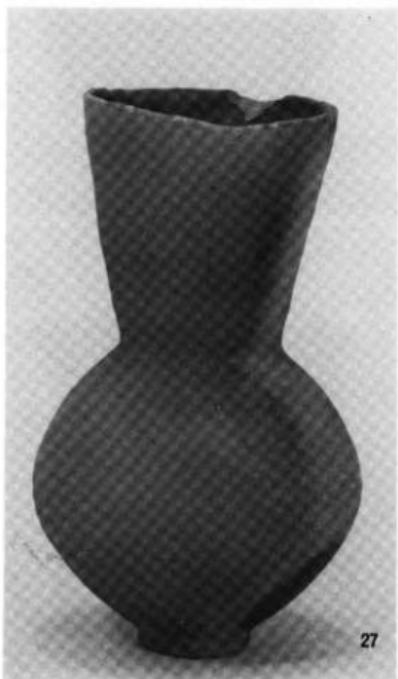
39



21



24

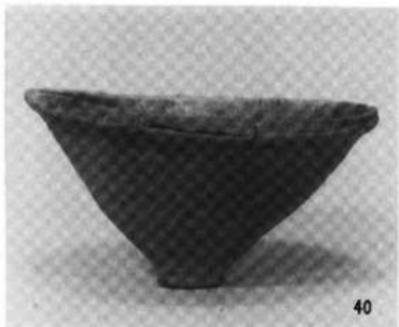


27

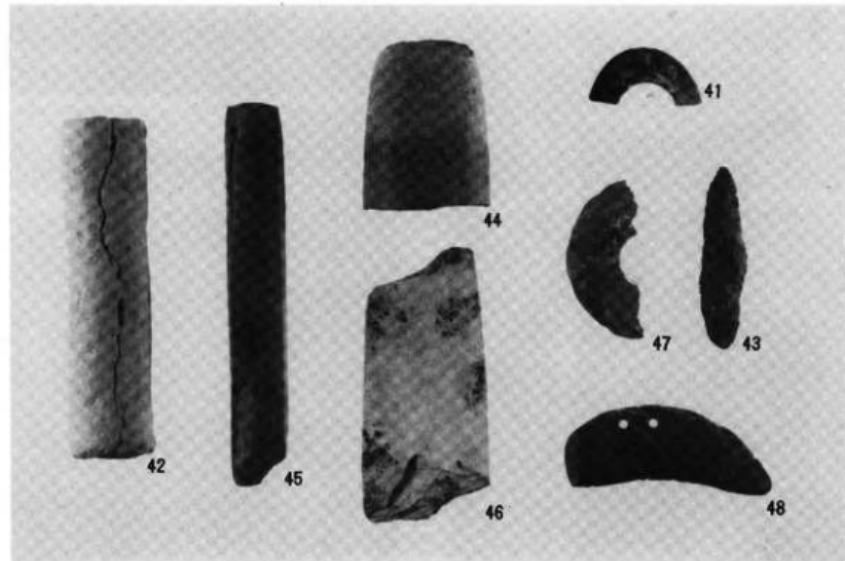
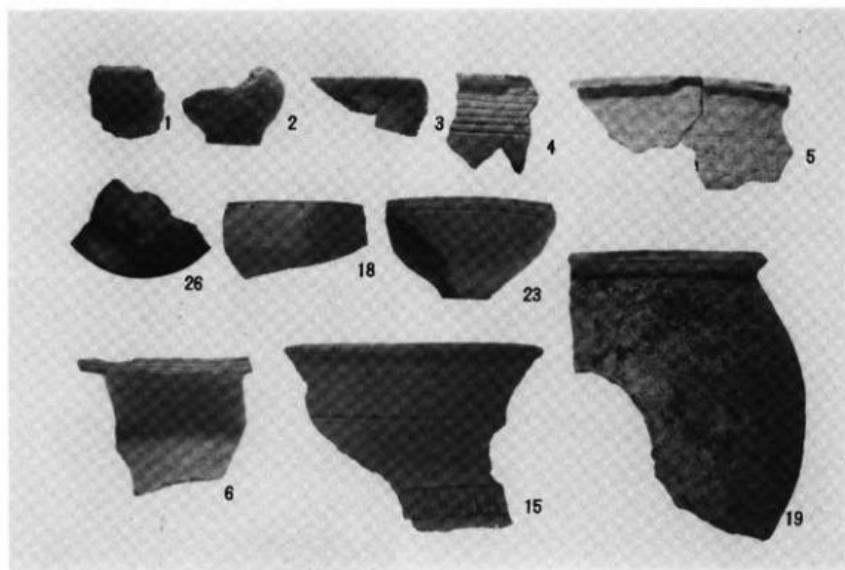


30

東奈良遺跡(88-5)H・N H-4-E・F地区 出土の土器



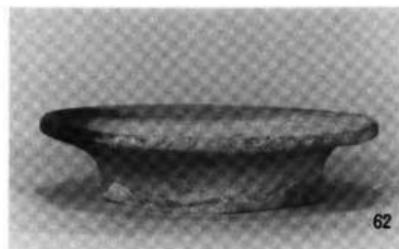
東奈良遺跡(88-5)H・N H-4-E・F地区 出土の土器



東奈良遺跡(88-5)H・N H-4-E・F地区 出土の土器・石器・土製品



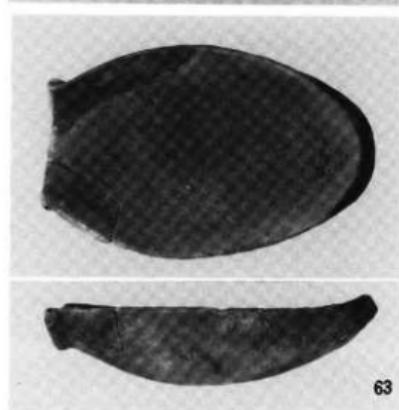
東奈良遺跡(88-6)H・N H-4-M・N地区 出土の土器



62



61



63



64



55



65

東奈良遺跡(88-6)H・N H-4-M・N地区 出土の土器



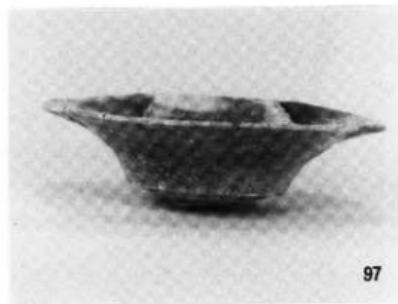
東奈良遺跡(88-6)H・N H-4-M・N地区 出土の土器



東奈良遺跡(88-6)H・N H-4-M-N地区 出土の土器



東奈良遺跡(88-6)H・N H-4-M・N地区 出土の土器



東奈良遺跡(88-6)H・N H-4-M-N地区 出土の土器



116



122



123



129



135

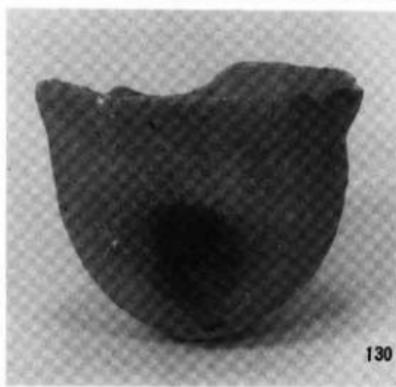


132

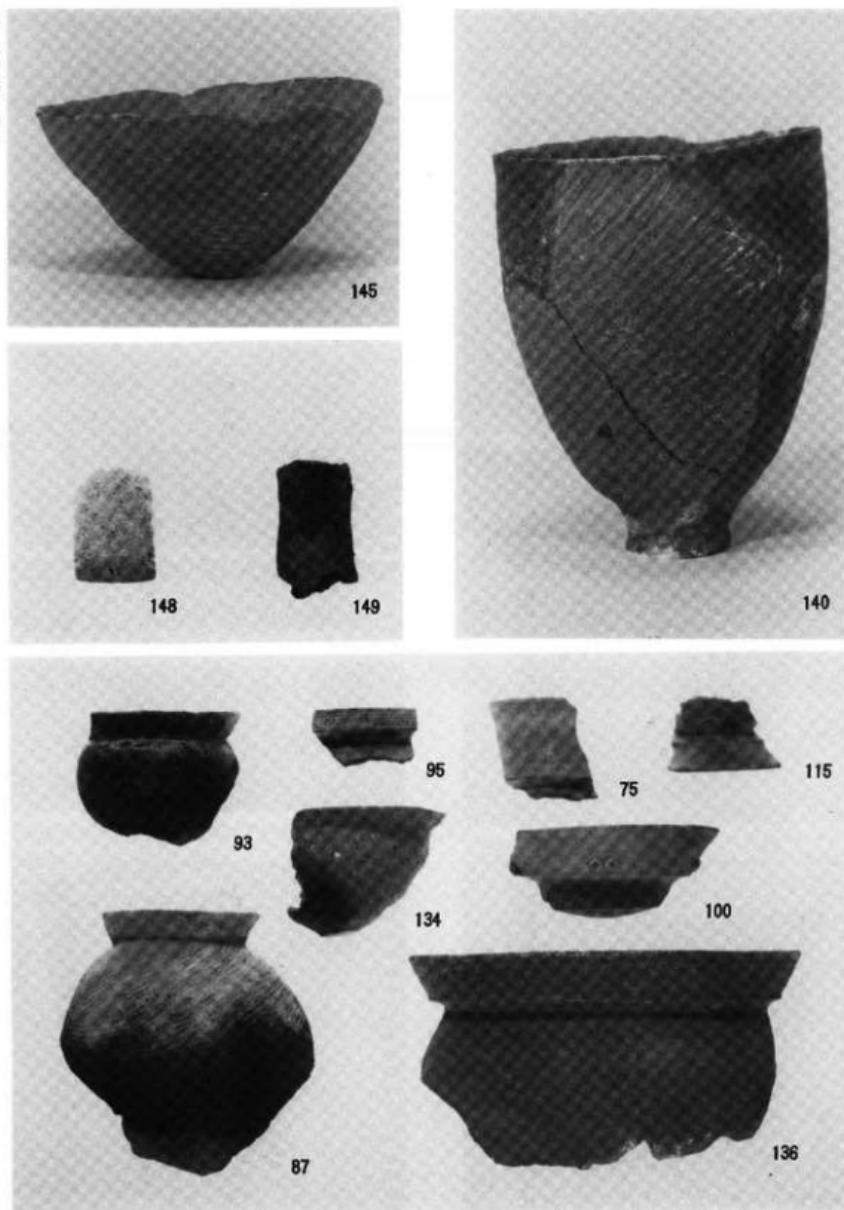


138

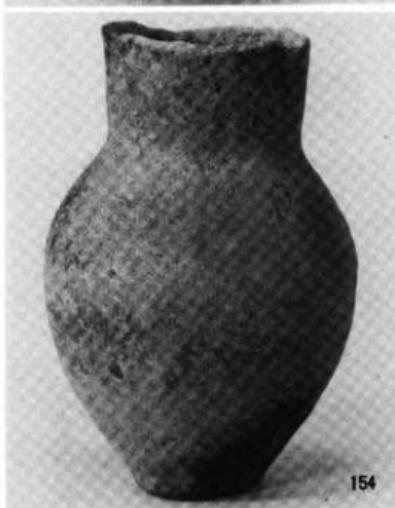
東奈良遺跡(88-6)H・N H-4-M・N地区 出土の土器



東奈良遺跡(88-6)H・N H-4-M・N地区 出土の土器



東奈良遺跡(88-6)H-N H-4-M-N地区 出土の土器・石器・鉄器



東奈良遺跡(88-10)H・N H-4-A・B地区 出土の土器



164



159



165



163

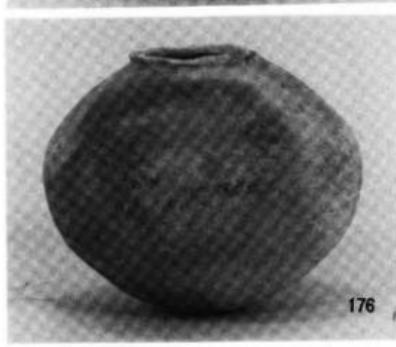


166



162

東奈良遺跡(88-10)H・N H-4-A・B地区 出土の土器



東奈良遺跡(88-10)H・N H-4-A・B地区 出土の土器



180



183



187



181



186



185

東奈良遺跡(88-10)H・N H-4-A・B地区 出土の土器



190



194



189



198



188



167



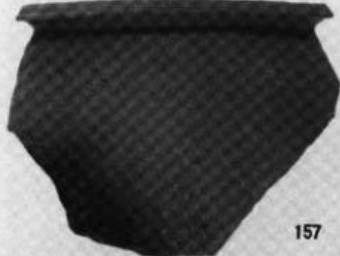
158



191



160



157

東奈良遺跡(88-10)H・N H-4-A・B地区 出土の土器



中条小学校遺跡(89-1) 出土の土器



214



215



216



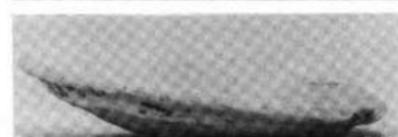
217



218



219



220



221



222



223



224



225



226



227



228



229

中条小学校遺跡(89-1) 出土の土器



236



241



237



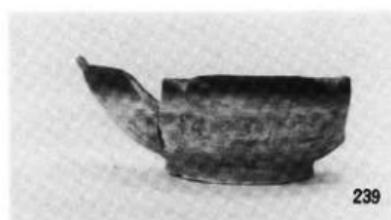
242



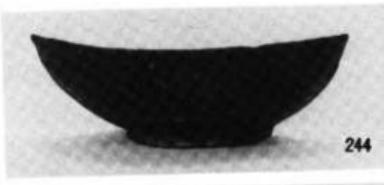
238



243



239



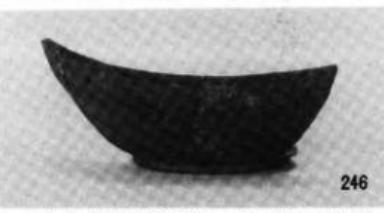
244



240

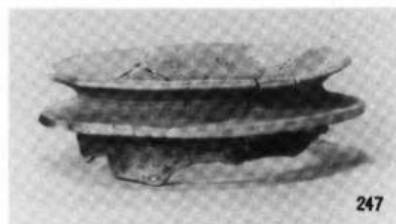


245

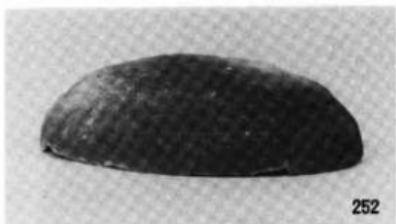


246

中条小学校遺跡(89-1) 出土の土器



247



252



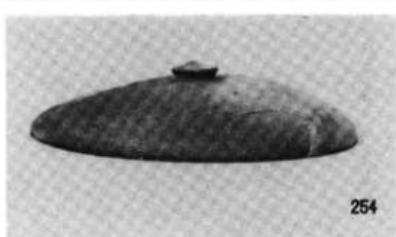
248



253



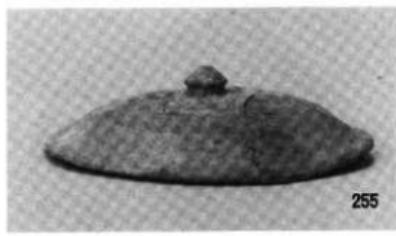
249



254



250



255



251



256



257



259

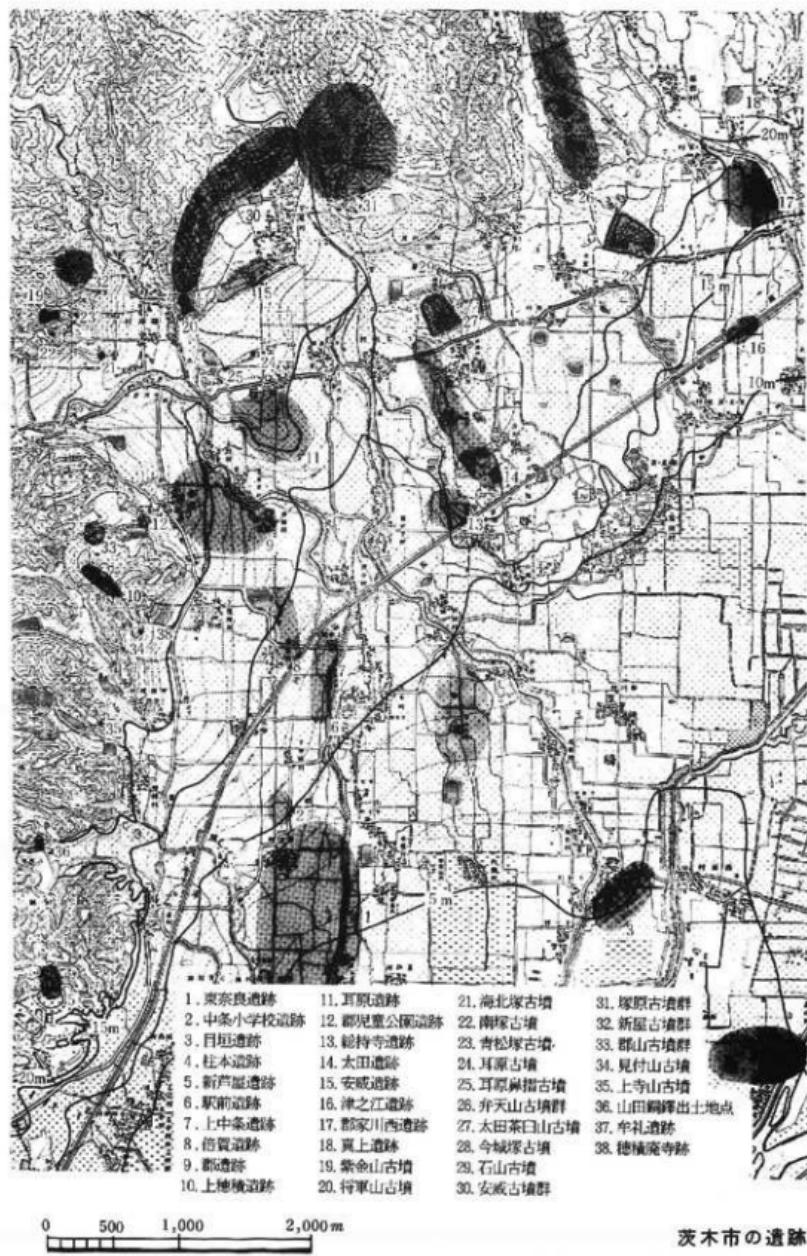


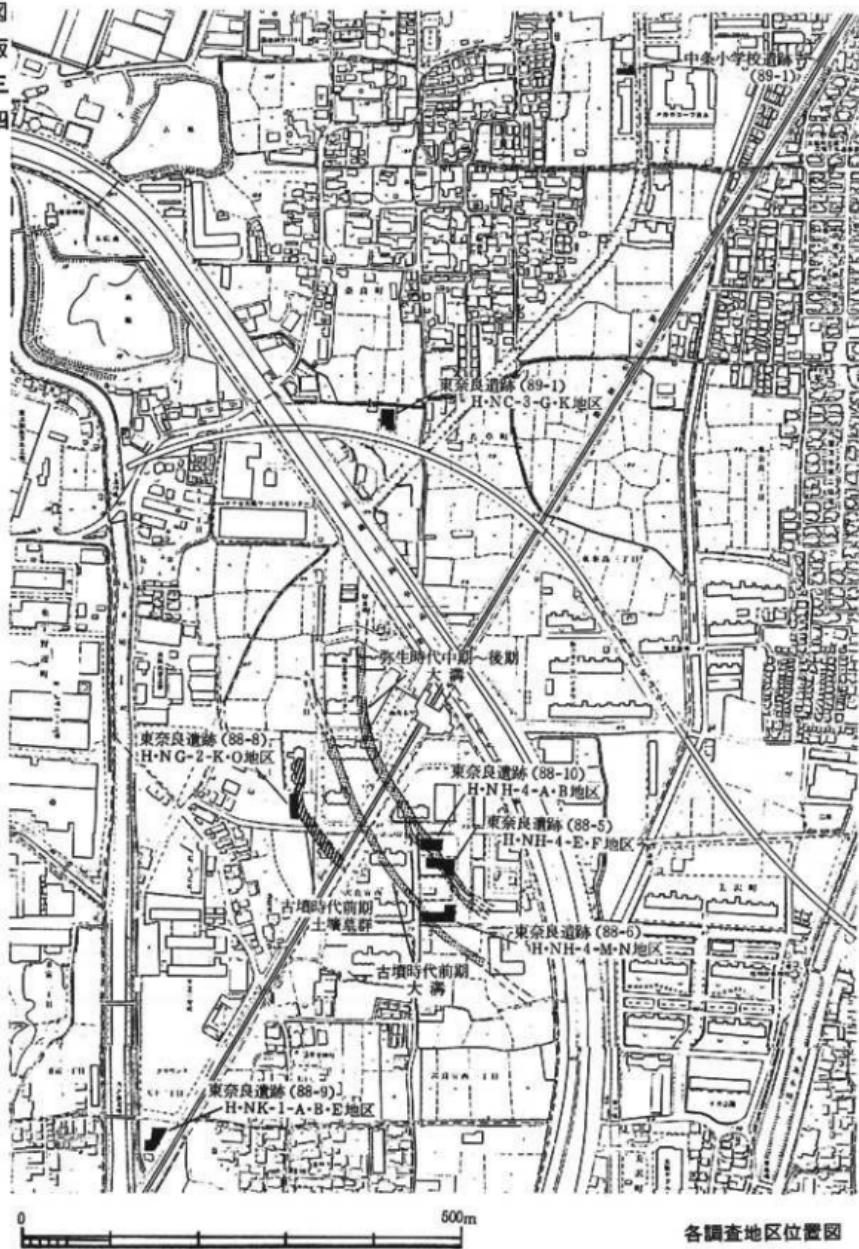
258



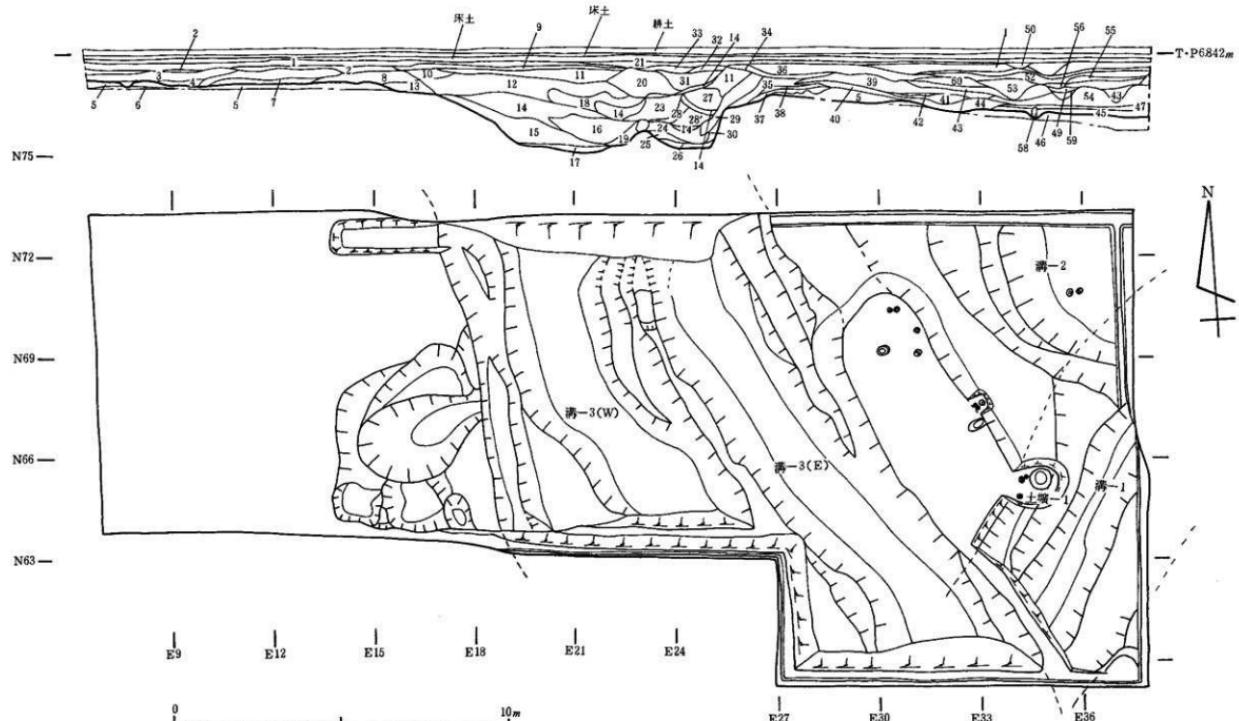
260

東奈良遺跡(89-1)H・N C-3-K・G地区 出土の土器



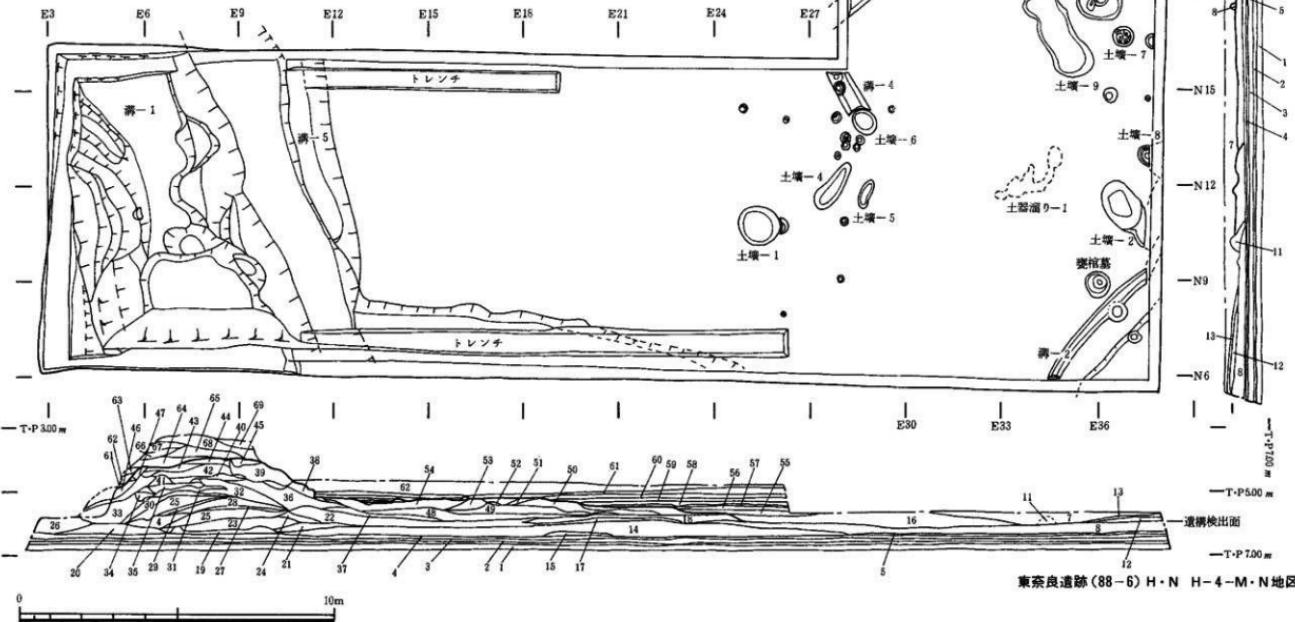


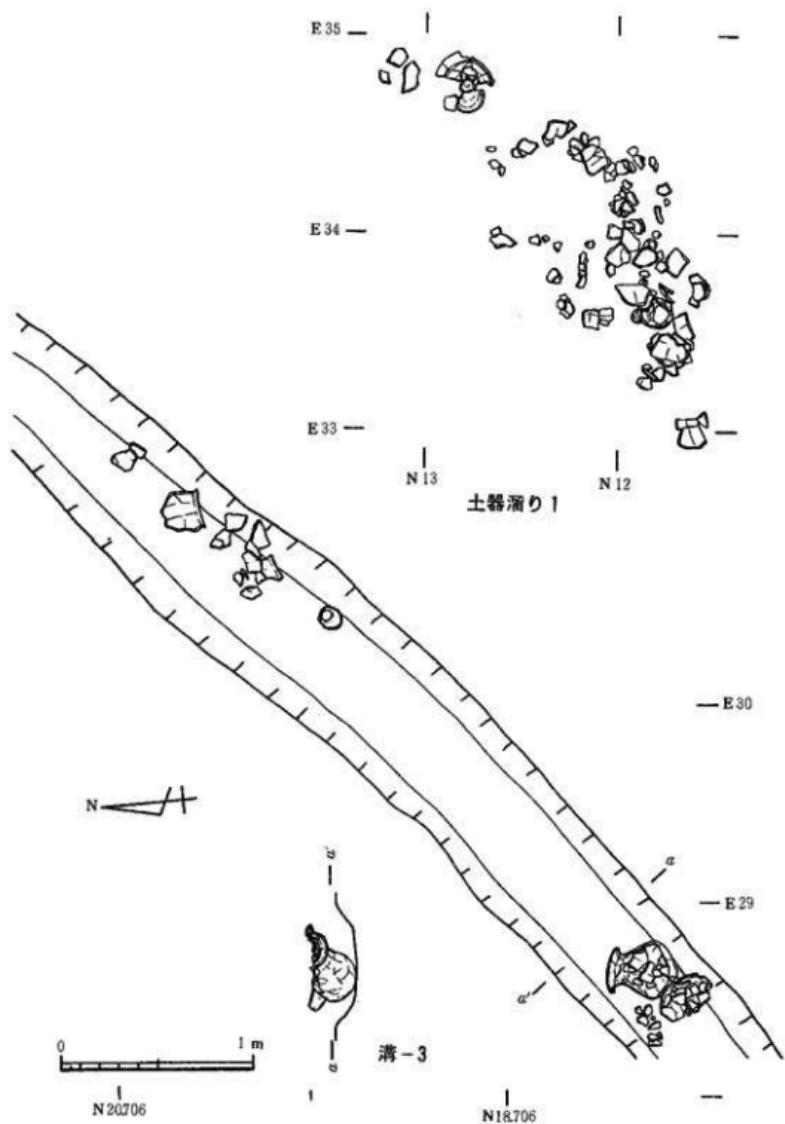
- | | | | | | |
|----------------|--------------------|-------------------|-------------|-------------|-------------|
| 1. 黄褐色砂質土層 | 11. 黄褐色砂質土層 | 21. 黄褐色砂質土層 | 31. 黄褐色砂質土層 | 41. 黄褐色砂質土層 | 51. 黄褐色砂質土層 |
| 2. 黄褐色砂質土 | 12. 黄褐色砂質土 | 22. 黄褐色砂質土 | 32. 黄褐色砂質土 | 42. 黄褐色砂質土 | 52. 黄褐色砂質土 |
| 3. 黄褐色砂質土層 | 13. 黄褐色砂質土層 | 23. 黄褐色砂質土層 | 33. 黄褐色砂質土層 | 43. 黄褐色砂質土層 | 53. 黄褐色砂質土層 |
| 4. 黄褐色砂質土層 | 14. 黄褐色砂土と植物遺体層の互層 | 24. 黄褐色砂質土 | 34. 黄褐色砂質土 | 44. 黄褐色砂質土 | 54. 黄褐色砂質土層 |
| 5. 黄褐色砂質土層(地山) | 15. 黄褐色砂質土と下部砂質砂層 | 25. 黄褐色砂土と黄褐色砂の互層 | 35. 黄褐色砂質土 | 45. 黄褐色砂質土 | 55. 黄褐色砂質土層 |
| 6. 黄褐色砂質土 | 16. 黄褐色砂質土 | 26. 黄褐色砂土と黄褐色砂の互層 | 36. 黄褐色砂質土 | 46. 黄褐色砂質土層 | 56. 黄褐色砂質土 |
| 7. 黄褐色砂質土 | 17. 黄褐色砂質土 | 27. 黄褐色砂質土 | 37. 黄褐色砂質土 | 47. 黄褐色砂質土 | 57. 黄褐色砂質土層 |
| 8. 黄褐色砂質土層 | 18. 黄褐色砂土と黄褐色砂土の互層 | 28. 黄褐色砂質土 | 38. 黄褐色砂質土 | 48. 黄褐色砂質土層 | 58. 黄褐色砂質土 |
| 9. 黄褐色砂質土層 | 19. 黄褐色砂質土 | 29. 黄褐色砂質土 | 39. 黄褐色砂質土 | 49. 黄褐色砂質土 | 59. 黄褐色砂質土 |
| 10. 黄褐色砂質土 | 20. 黄褐色砂質土 | 30. 黄褐色砂質土 | 40. 黄褐色砂質土 | 50. 黄褐色砂質土 | 60. 黄褐色砂質土 |
| | 21. 黄褐色砂質土 | 31. 黄褐色砂質土 | 41. 黄褐色砂質土 | 51. 黄褐色砂質土 | |
| | 22. 黄褐色砂質土 | 32. 黄褐色砂質土 | 42. 黄褐色砂質土 | 52. 黄褐色砂質土 | |
| | 23. 黄褐色砂質土 | 33. 黄褐色砂質土 | 43. 黄褐色砂質土 | 53. 黄褐色砂質土 | |
| | 24. 黄褐色砂質土 | 34. 黄褐色砂質土 | 44. 黄褐色砂質土 | 54. 黄褐色砂質土 | |
| | 25. 黄褐色砂土と黄褐色砂の互層 | 35. 黄褐色砂質土 | 45. 黄褐色砂質土 | 55. 黄褐色砂質土 | |
| | 26. 黄褐色砂土と黄褐色砂の互層 | 36. 黄褐色砂質土 | 46. 黄褐色砂質土 | 56. 黄褐色砂質土 | |
| | 27. 黄褐色砂質土 | 37. 黄褐色砂質土 | 47. 黄褐色砂質土 | 57. 黄褐色砂質土層 | |
| | 28. 黄褐色砂質土 | 38. 黄褐色砂質土 | 48. 黄褐色砂質土 | 58. 黄褐色砂質土 | |
| | 29. 黄褐色砂質土 | 39. 黄褐色砂質土 | 49. 黄褐色砂質土 | 59. 黄褐色砂質土 | |
| | 30. 黄褐色砂質土 | 40. 黄褐色砂質土 | 50. 黄褐色砂質土 | | |
| | 31. 黄褐色砂質土 | 41. 黄褐色砂質土 | 51. 黄褐色砂質土 | | |
| | 32. 黄褐色砂質土 | 42. 黄褐色砂質土 | 52. 黄褐色砂質土 | | |
| | 33. 黄褐色砂質土 | 43. 黄褐色砂質土 | 53. 黄褐色砂質土 | | |
| | 34. 黄褐色砂質土 | 44. 黄褐色砂質土 | 54. 黄褐色砂質土 | | |
| | 35. 黄褐色砂質土 | 45. 黄褐色砂質土 | 55. 黄褐色砂質土 | | |
| | 36. 黄褐色砂質土 | 46. 黄褐色砂質土 | 56. 黄褐色砂質土 | | |
| | 37. 黄褐色砂質土 | 47. 黄褐色砂質土 | 57. 黄褐色砂質土層 | | |
| | 38. 黄褐色砂質土 | 48. 黄褐色砂質土 | 58. 黄褐色砂質土 | | |
| | 39. 黄褐色砂質土 | 49. 黄褐色砂質土 | 59. 黄褐色砂質土 | | |
| | 40. 黄褐色砂質土 | 50. 黄褐色砂質土 | | | |



東奈良遺跡(88-5) H-N H-4-E・F 地区

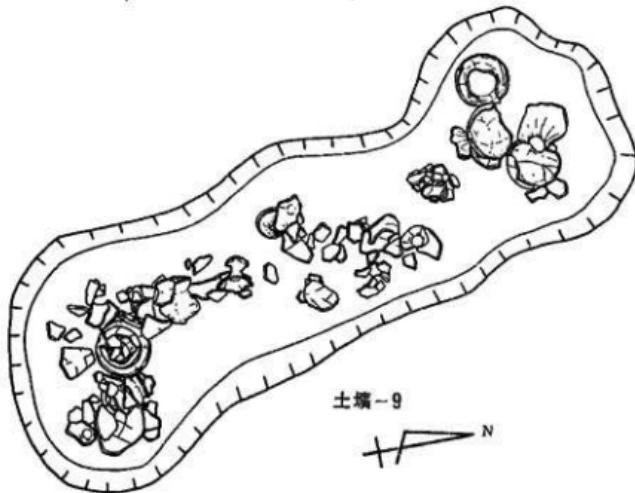
- | | | |
|-----------------------|--------------------|-----------------------|
| 1. 素土 | 26. 深灰土色細砂 | 47. 黄褐色土色と青緑色細砂の混じる |
| 2. 沖積色細砂層(ミソガシ・鉛分を含む) | 27. 白黄色細砂層 | 48. 褐色土色・黄褐色土色の混じる |
| 3. 沖積色細砂層 | 28. 黄褐色土色細砂 | 49. 深灰色土色層 |
| 4. 沖積色細砂層 | 29. 黄褐色土色細砂 | 50. 深灰色土色細砂層(鉛分を含む) |
| 5. 沖積色細砂層 | 30. 淡褐色土色 | 51. 黄褐色土色層 |
| 6. 混合色細砂層(鉛分を含む) | 31. 深灰色土色細砂 | 52. 深灰色土色層 |
| 7. 混合色細砂層(生産田) | 32. 深灰色土色細砂 | 53. 深灰色土色・黄褐色土色の混じる |
| 8. 混合色細砂層(生産田) | 33. 深灰色土色細砂 | 54. 黄褐色土色細砂の混じる |
| 9. 混合色細砂層 | 34. 深灰色土色細砂 | 55. 黄褐色土色層 |
| 10. 黄褐色細砂層(牛糞田) | 35. 深灰色土色細砂 | 56. 黄褐色土色細砂・黄褐色土色の混じる |
| 11. 混合色細砂層(牛糞田) | 36. 淡褐色土色 | 57. 黄褐色土色・黄褐色細砂の混じる |
| 12. 混合色細砂層(牛糞田) | 37. 深灰色土色細砂 | 58. 黄褐色土色層 |
| 13. 混合色細砂層(牛糞田) | 38. 深灰色土色細砂(鉛分を含む) | 59. 黄褐色土色層 |
| 14. 黄褐色細砂層(牛糞田) | 39. 深灰色土色 | 60. 鋼鉄鉱石・層 |
| 15. 黄褐色土色層 | 40. 深灰色土色 | 61. 黄褐色土色(鉛分を含む) |
| 16. 黄褐色土色層 | 41. 深灰色土色 | 62. 黄褐色土色層 |
| 17. 黄褐色土色層 | 42. 深灰色土色細砂(鉛分を含む) | 63. 黄褐色土色層 |
| 18. 黄褐色土色層 | 43. 深灰色土色 | 64. 黄褐色土色層 |
| 19. 黄褐色土色層 | 44. 深灰色土色 | 65. 黄褐色土色と青緑色細砂の混じる |
| 20. 黄褐色土色層 | 45. 深灰色土色 | 66. 深灰色土色層 |
| 21. 黄褐色土色層 | 46. 深灰色土色 | 67. 黄褐色土色層 |
| 22. 黄褐色土色層 | 47. 深灰色土色 | 68. 黄褐色土色・黄褐色細砂の混じる |
| 23. 黄褐色土色層 | 48. 深灰色土色 | 69. 黄褐色土色層 |
| 24. 黄褐色土色層 | 49. 深灰色土色 | 70. 黄褐色土色細砂層(牛糞田) |
| 25. 黄褐色土色層 | 50. 深灰色土色 | |



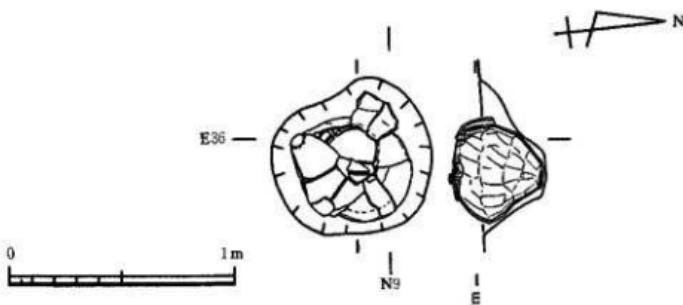


東奈良遺跡(88-6) H・N H-4-M-N地区 溝-3、土器溝り1

E34 —

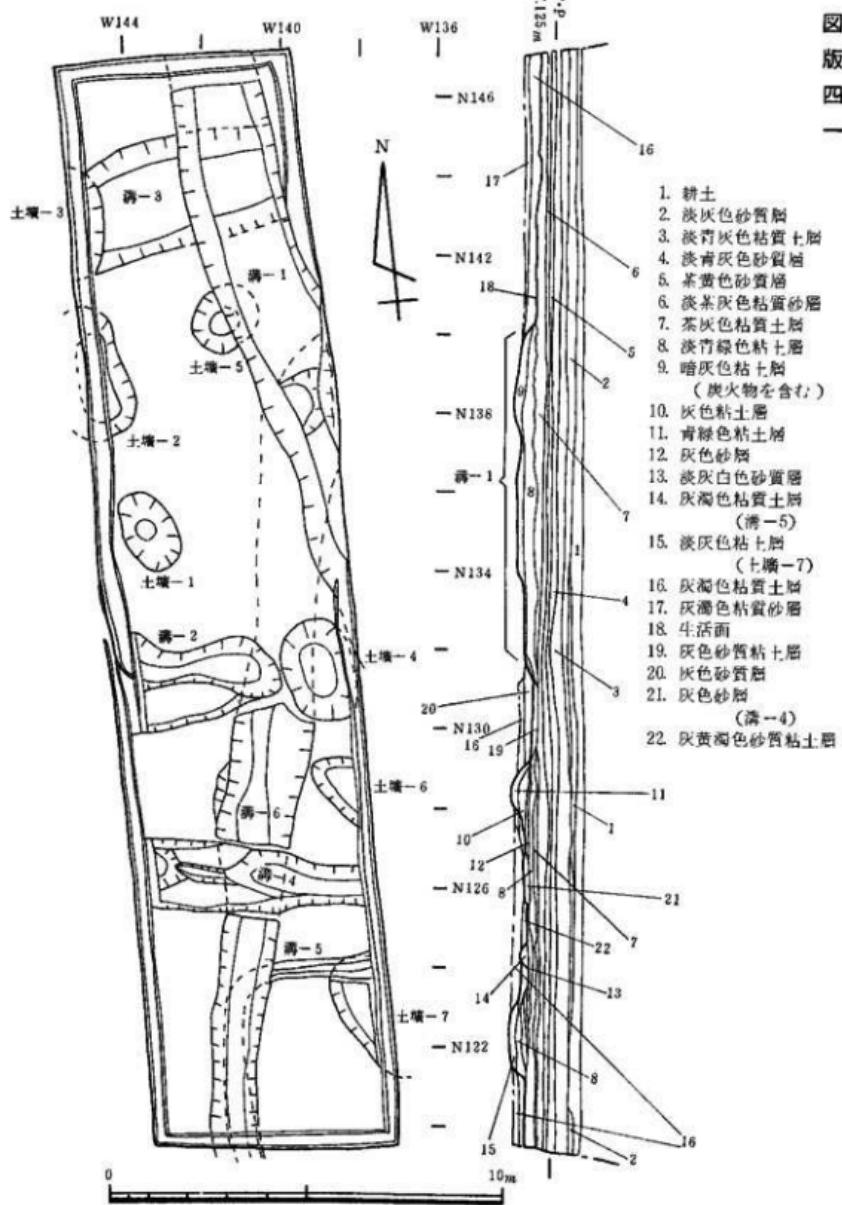


E36 —



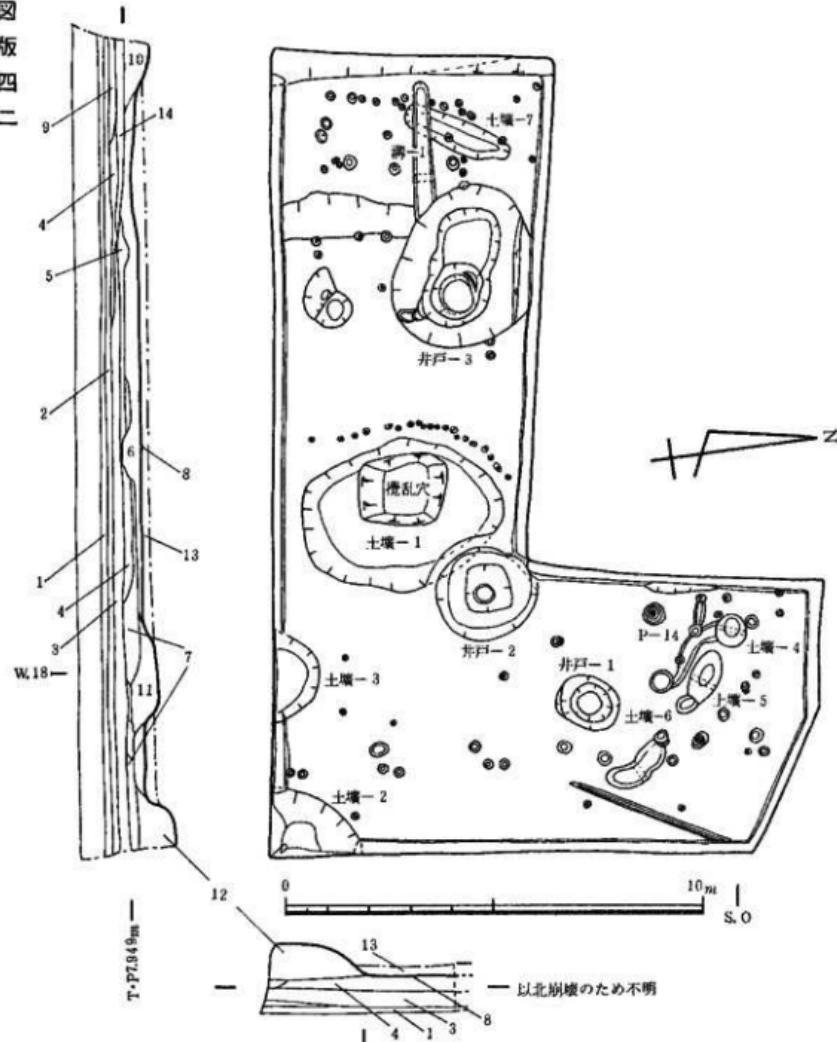
甕棺墓

東奈良遺跡(88-6) H・N H-4-M・N地区 土壇-7・9、甕棺墓

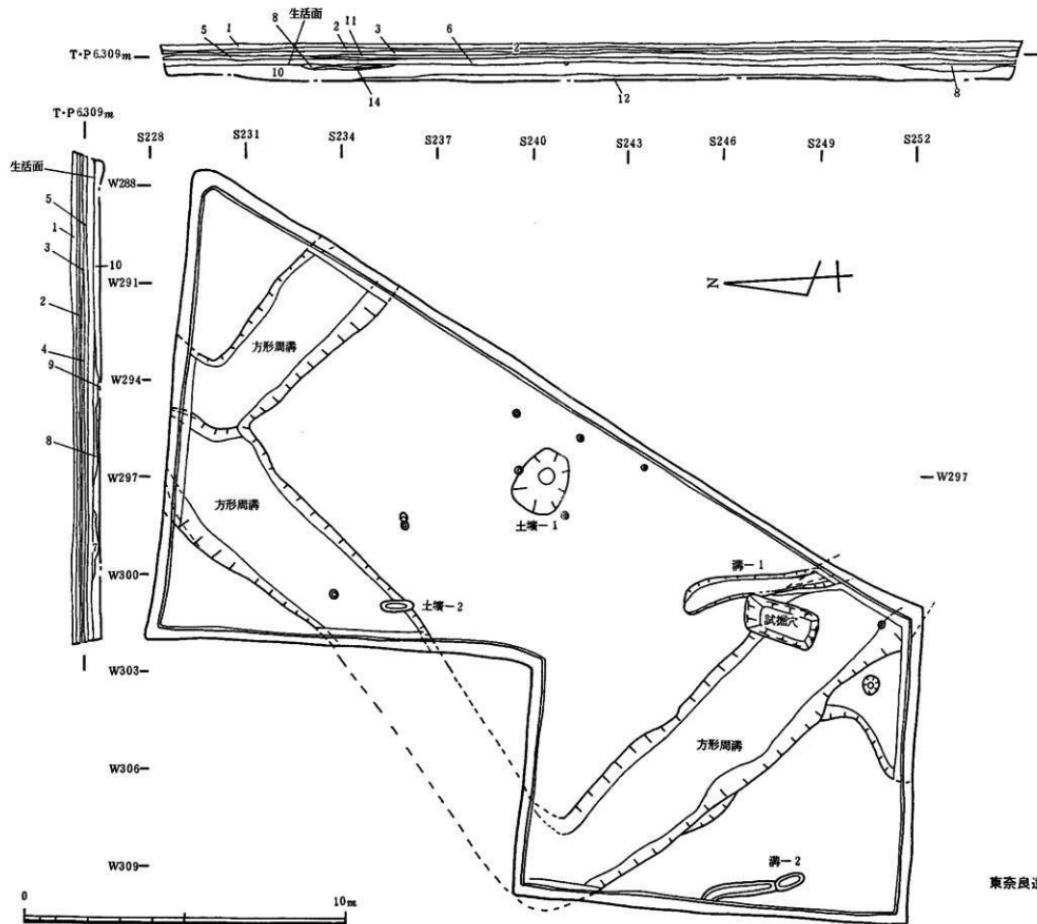


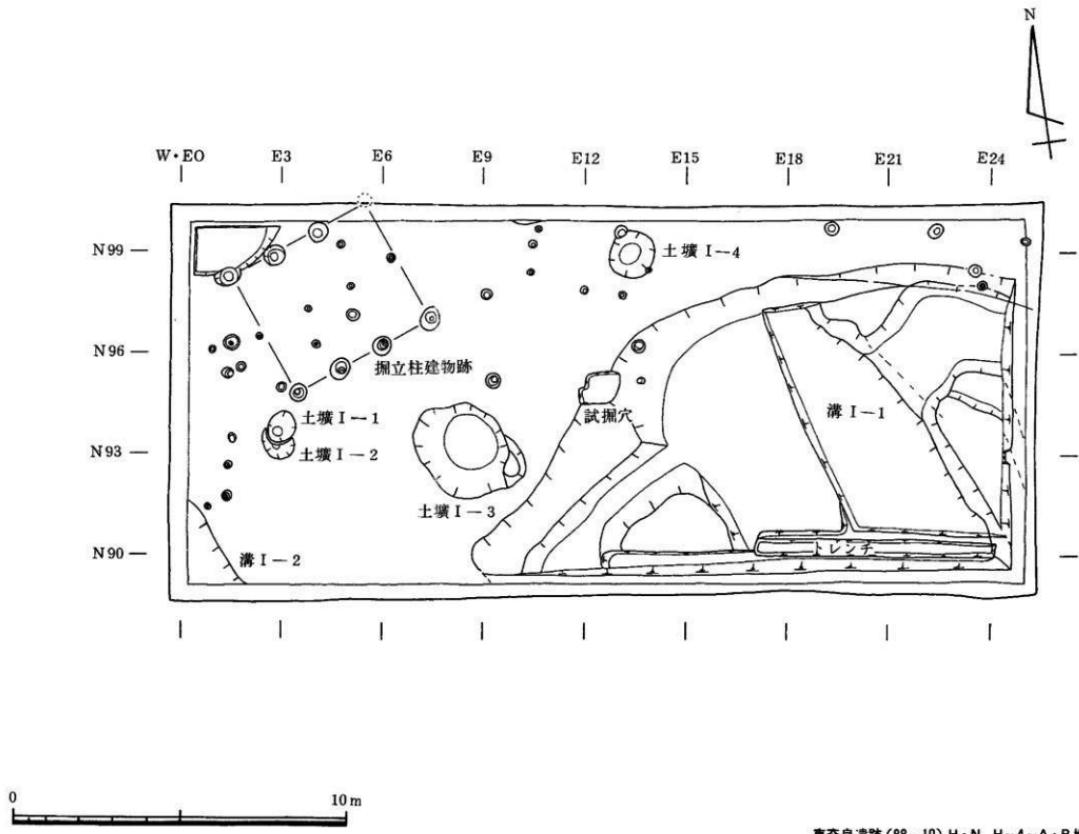
東奈良遺跡(88-8) H・N G-2-K・O地区

図版四二

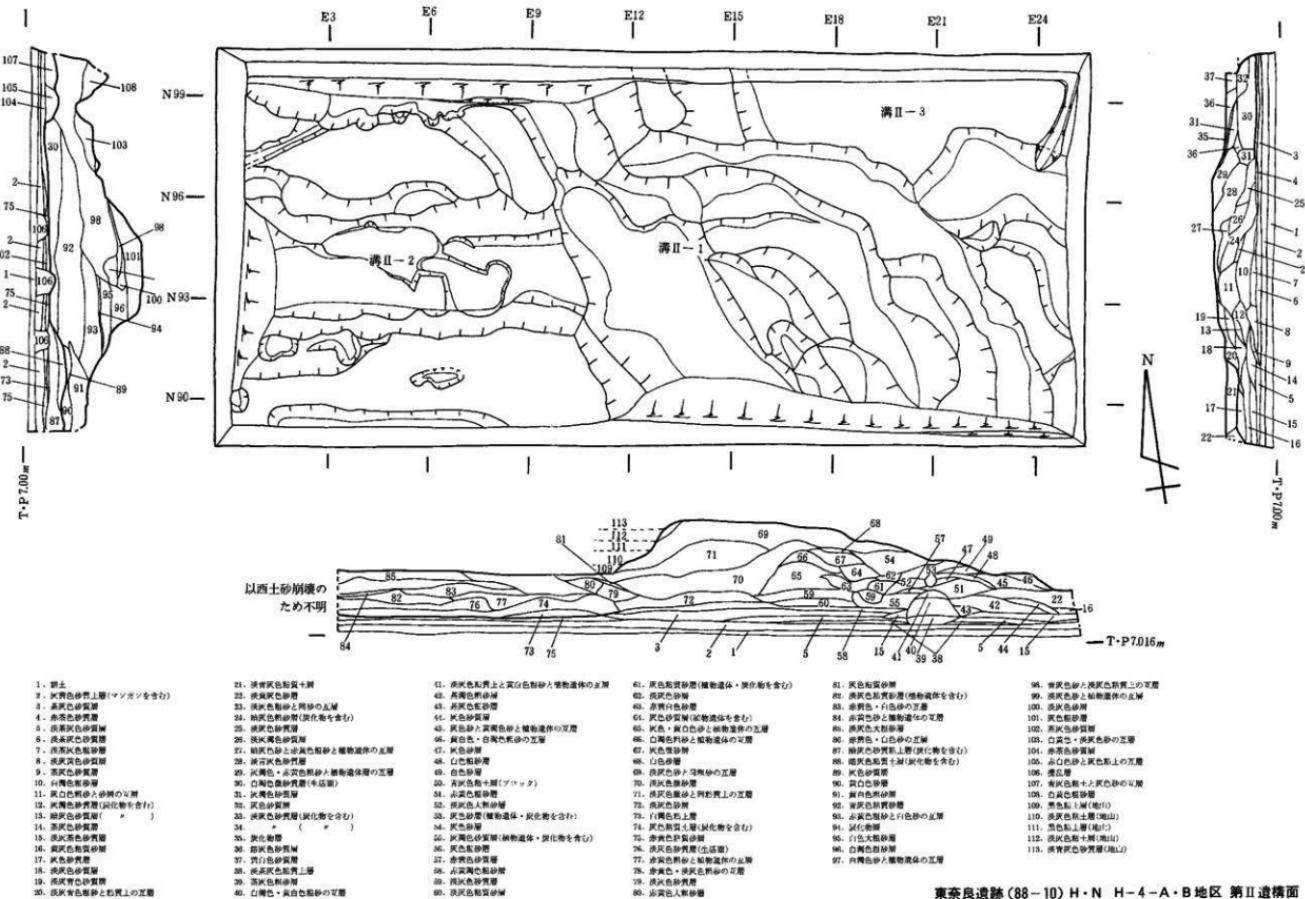


- | | | | |
|----------------------|------------|-----------|-----------|
| 1.耕土 | 5.暗茶褐色土層 | 9.淡茶灰色砂層 | 13.黃白色粘土層 |
| 2.淡青灰色砂質土層 | 6.淡茶灰色粘質土層 | 10.灰色粘質土層 | 14.灰色砂質土層 |
| 3.淡茶灰色粘質土層 | 7.灰色粘土層 | 11.暗灰色粘土層 | |
| 4.茶灰色砂質層
(一部粘質土層) | 8.生活面 | 12.黑色粘土層 | |





東奈良遺跡(88-10) H・N H-4-A・B地区 第I造構面



東奈良遺跡(88-10) H・N H-4-A・B 地区 第II造構面

